

おお き ど  
あと ばたけ い せき  
**大木戸・后畠遺跡**

—市道下塩後22号線建設に伴う発掘調査報告書—

二〇一七年八月

2017年8月

甲 州 市  
甲 州 市 教 育 委 員 会  
公 益 財 団 法 人 山 梨 文 化 財 研 究 所

おお き ど あと ばたけ い せき  
大木戸・后畠遺跡  
—市道下塩後22号線建設に伴う発掘調査報告書—

2017年8月

甲 州 市  
甲州市教育委員会  
公益財団法人 山梨文化財研究所



## 序

本書は甲州市塩山熊野に所在する大木戸遺跡および后畠遺跡の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査は市道下塩後22号線建設に伴うもので、道路建設部分の記録保存を目的として実施されました。

調査の結果、東側の大木戸遺跡では、平安時代の堅穴建物が31軒検出されました。この集落跡からは土器に文字を書いた墨書き土器や、石帶鉈尾や綠釉陶器片など一般的な集落遺跡からはあまり出土しない、珍しい遺物が出土しました。過去に70軒以上の堅穴を検出した五反田遺跡とは近接した位置関係にあり、古代に存在した於曾郷の中心的な集落との関わりを窺わせる発見となりました。河川を挟んだ西側に位置する后畠遺跡では、7軒の堅穴が検出されました。古墳時代初頭にさかのぼる土器片なども出土しており、この地が平安時代よりもさらに昔から人々が生活を営んできた、非常に歴史の深い地域であることが分かってきました。

このような調査成果は、当市の文化財保護に深い理解とご協力をいただきました関係諸機関および関係者の皆様方のご協力を賜って成し得たことであり、深く感謝申し上げます。

本書が甲州市内における埋蔵文化財発掘の記録として、歴史研究の一助となれば幸いです。

平成29年8月25日

甲州市教育委員会

教育長 保坂一仁

## 例 言

- 1 本書は平成27（2015）年度に発掘調査を行い、平成29（2017）年度に整理作業を実施した山梨県甲州市塙山熊野所在の横井・大木戸遺跡、坂之上・后畠遺跡（合せて「大木戸・后畠遺跡」とする）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は甲州市が行う市道下塙後22号線建設に伴う埋蔵文化財の事前調査として行われたもので、甲州市教育委員会が試掘調査を行い、公益財団法人山梨文化財研究所が甲州市より委託を受けて本調査を実施した。
- 3 本書の原稿執筆は柳原功一（公益財団法人山梨文化財研究所研究員）が行った。
- 4 発掘調査における基準点測量、空中写真撮影、全体図作成業務は株式会社テクノプラニングに委託した。遺物観察表の石材鑑定については、河西学（公益財団法人山梨文化財研究所）が行った。
- 5 本書に関わる出土品、記録類は甲州市教育委員会で保管している。

## 凡 例

- 1 遺跡全体図におけるX・Y数値は、世界測地系（JGD2011）平面直角座標系第8系（原点：北緯36度00分00秒）、東経（138度30分00秒）に基づく座標数値である。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北で、真北の方向角は-0° 08' 02"～07"である。

- 2 遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。

縫穴	1 : 60
竈	1 : 30
土坑・ピット	1 : 40
土器・石器	1 : 3
土製品・金属製品	1 : 2
石礫・小形石器	2 : 3
錢貨	1 : 1

- 3 平面図における細かな点線は縫穴床面の硬化面、破線は掘り方、一点鎖線は擾乱、遺物間の連結線は接合関係、断面の斜線は疊、濃い網掛けは焼土範囲、焼土ブロック、遺物の網掛け、種別は以下のとおりである。

■ 土器器・かわらけ	★ 金属製品	◎ 骨
■ 陶磁器	□ 土製品	◆ 粘土
▲ 瓦	◆ 須恵器	☆ ガラス
△ 石製品	■ 鍋文	○ その他

- 6 金属製品については、山梨文化財研究所保存修復室において保存処理を実施した。
- 7 発掘調査から報告書作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関からご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい（順不同、敬称略）。  
三森今朝美・小林茂夫・上矢敏彦・野田一寿・金井雅樹・三宅勝也・山本健司（甲州市役所建設課）、曾根浩・小野正文・飯島泉・岩間大介・柳通めぐみ・八巻一也・入江俊行・北井靖人・雨宮晃一・廣瀬昭久（甲州市教育委員会文化財課）、桐原順子・宮澤公雄・平野修・望月秀和・中山千恵・河西学・鈴木稔・畑大介・藤澤明・三浦麻衣子（公益財団法人山梨文化財研究所・帝京大学文化財研究所）、新津健・泉英樹（昭和測量株式会社）、三枝哲雄（三枝興業）、森谷忠・柴田直樹（株式会社テクノプラニング）、稻垣自由（大月市教育委員会）、村松佳幸（北杜市教育委員会）

## 例

- 4 土器断面図中の黒塗りは須恵器、ドット網掛けは陶磁器を表す。
- 5 土層説明における土色表示は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』を用いた。
- 6 平面図における遺物番号は、遺物図版、遺物観察表、写真図版番号と一致する。
- 7 本書の図1は国土地理院発行1/200,000地勢図、図2は国土地理院データ地図、図3は国土地理院発行1/25,000地形図、図4は甲州市建設課の市道下塙後22号線計画図を使用した。

## 本文目次

第1章 経過	1	第3節 遺構	11
第1節 調査の経過	1	第4節 遺物	21
第2節 発掘作業の経過	2	第4章 総括	30
第3節 整理等作業の経過	4	第1節 遺構の変遷と各期の様相	30
第2章 遺跡の位置と環境	4	第2節 墨書・刻書土器と関連資料	32
第1節 地理的環境	4	第3節 石帶鉛尾について	33
第2節 歴史的環境	5	第4節 おわりに一大木戸集落の公的側面	33
第3章 調査の方法と成果	10	報告書抄録	
第1節 調査の方法	10	奥付	
第2節 層序	10		

## 挿図目次

図1 試掘坑の位置	2	図4 調査区周辺図	8
図2 遺跡の位置	5	図5 市道計画図	9
図3 周辺の遺跡	6	図6 大木戸・后畠遺跡の遺構変遷	31

## 表目次

表1 周辺遺跡一覧表	7	表7 大木戸遺跡石製品観察表	28
表2 大木戸遺跡ピット一覧表	17	表8 后畠遺跡土器・陶磁器観察表	28
表3 后畠遺跡ピット一覧表	20	表9 后畠遺跡金属製品観察表	29
表4 大木戸遺跡土器・陶磁器観察表	25	表10 后畠遺跡土製品観察表	30
表5 大木戸遺跡金属製品観察表	28	表11 后畠遺跡石製品観察表	30
表6 大木戸遺跡土製品観察表	28		

## 図版目次

第1図 大木戸遺跡全体図	35・36	第14図 大木戸13~16号竪穴、17・19号ピット	50
第2図 后畠遺跡全体図	37・38	第15図 大木戸13~16号竪穴	51
第3図 大木戸・后畠遺跡地形図	39	第16図 大木戸14・15号竪穴	52
第4図 大木戸1・6号竪穴、49号ピット	40	第17図 大木戸13~16号竪穴	53
第5図 大木戸1・6号竪穴	41	第18図 大木戸18号竪穴	54
第6図 大木戸2・4・6号竪穴、26・27号ピット	42	第19図 大木戸19号竪穴	55
		第20図 大木戸19・23・27号竪穴、9号土坑	56
第7図 大木戸5・7号竪穴	43	第21図 大木戸20・24・26号竪穴	57
第8図 大木戸7・8号竪穴	44	第22図 大木戸20・24・26号竪穴、7・8号土坑	58
第9図 大木戸9号竪穴、52号ピット	45	第23図 大木戸20・24・26号竪穴	59
第10図 大木戸10・11・17・25号竪穴、14・45号ピット	46	第24図 大木戸21号竪穴、37~39・46号ピット	60
		第25図 大木戸22号竪穴、62号ピット	61
第11図 大木戸10・11・17・25号竪穴	47	第26図 大木戸28号竪穴、26号土坑	62
第12図 大木戸10・11・17・25号竪穴	48	第27図 大木戸29・30号竪穴、25号土坑	63
第13図 大木戸12号竪穴	49		

第28図	大木戸31・32号竪穴、1・2・4~6号土坑	第53図	后畠1号谷	89
	.....	第54図	大木戸1・2・4・5号竪穴 遺物	90
第29図	大木戸3・10~15号土坑	第55図	大木戸5・6号竪穴 遺物	91
第30図	大木戸16~23号土坑	第56図	大木戸6~8号竪穴 遺物	92
第31図	大木戸24・27~30号土坑、1~6号ピット	第57図	大木戸8・9号竪穴 遺物	93
	.....	第58図	大木戸9号竪穴 遺物	94
第32図	大木戸7~13・15・16・18・20~23号ピット	第59図	大木戸9・10号竪穴 遺物	95
	.....	第60図	大木戸11号竪穴 遺物	96
第33図	大木戸24・25・31~36・40~42・44・47・ 48・52~57号ピット	第61図	大木戸11・12号竪穴 遺物	97
第34図	大木戸1・2号溝	第62図	大木戸12・13号竪穴 遺物	98
第35図	后畠1・3号竪穴	第63図	大木戸14・15号竪穴 遺物	99
第36図	后畠1・3号竪穴	第64図	大木戸16~19号竪穴 遺物	100
第37図	后畠1・3号竪穴	第65図	大木戸19~21号竪穴 遺物	101
第38図	后畠1・2号竪穴	第66図	大木戸21・22・24・26~28号竪穴 遺物	102
第39図	后畠2号竪穴	第67図	大木戸28~31号竪穴、9・10・16号土坑、 13~15号ピット 遺物	103
第40図	后畠2・4・5号竪穴	第68図	大木戸17・19・23・37・38・45号ピット、 遺構外 遺物	104
第41図	后畠4・5号竪穴、61・68号ピット	第69図	大木戸遺構外 遺物	105
第42図	后畠4~6号竪穴	第70図	后畠1号竪穴 遺物	106
第43図	后畠6・7号ピット	第71図	后畠1・2号竪穴 遺物	107
第44図	后畠1号掘立、34・40~42・60号ピット	第72図	后畠3・4号竪穴 遺物	108
第45図	后畠1~18・55・59・66・67号ピット	第73図	后畠4・5号竪穴 遺物	109
第46図	后畠19~33・35~39号ピット	第74図	后畠5~7号竪穴、1・3号溝 遺物	110
第47図	后畠43~48・53・54・56~58・62・69~73 号ピット	第75図	后畠4・14号溝 遺物	111
第48図	后畠1・12号溝	第76図	后畠14号溝 遺物	112
第49図	后畠11~13号溝	第77図	后畠14号溝、40・62・72号ピット、1号谷 遺物	113
第50図	后畠4~6号溝	第78図	后畠遺構外 遺物	114
第51図	后畠2・3・7~10号溝			
第52図	后畠14号溝、1号谷			

## 写真図版目次

- 国版1 1 大木戸遺跡モザイク写真  
2 后畠遺跡モザイク写真
- 国版2 1 大木戸遺跡空撮（1）  
2 大木戸遺跡空撮（2）
- 国版3 1 大木戸遺跡空撮（3）  
2 大木戸遺跡空撮（4）
- 国版4 1 1・6号竪穴遺物出土状況  
2 1・6号竪穴完掘
- 3 1・6号竪穴掘り方 4 1号竪穴竈  
5 2号竪穴完掘 6 4号竪穴完掘  
7 4号竪穴掘り方  
8 5号竪穴遺物出土状況

- 国版5 1 5号竪穴完掘 2 5号竪穴掘り方  
3 5号竪穴竈 4 6号竪穴竈  
5 6号竪穴鉈尾出土状況  
6 7号竪穴遺物出土状況  
7 7号竪穴完掘 8 7号竪穴掘り方
- 国版6 1 7号竪穴竈 2 7号竪穴竈  
3 7号竪穴竈完掘 4 7号竪穴竈完掘  
5 8号竪穴遺物出土状況  
6 8号竪穴完掘 7 8号竪穴掘り方  
8 8号竪穴内遺物出土状況
- 国版7 1 9号竪穴遺物出土状況  
2 9号竪穴完掘 3 9号竪穴竈

	4	9号竪穴竈	5	9号竪穴竈		3	28号竪穴掘り方	4	29号竪穴内裸群	
	6	9号竪穴内30号ピット遺物				5	29号竪穴内裸群	6	29号竪穴完掘	
	7	9号竪穴掘り方				7	30号竪穴遺物	8	30号竪穴掘り方	
	8	10号竪穴遺物出土状況				国版16	1	31号竪穴	2	32号竪穴完掘
国版8	1	10号竪穴完掘	2	10号竪穴内遺物			3	作業風景（1）	4	作業風景（2）
	3	10号竪穴竈	4	10・11・17・25号竪穴			5	作業風景（3）	6	南東側完掘
	5	11号竪穴遺物出土状況					7	南東側完掘状況		
	6	11号竪穴完掘	7	11号竪穴竈内遺物			8	調査区北東隅完掘状況		
	8	11号竪穴竈				国版17	1	1号土坑	2	2・5・6号土坑
国版9	1	12号竪穴遺物出土状況					3	3号土坑	7号ピット	4・4号土坑
	2	12号竪穴完掘	3	12号竪穴掘り方			5	7号土坑	6	8号土坑
	4	12号竪穴竈内遺物	5	12号竪穴竈			8	10号土坑	9	11号土坑
	6	12号竪穴周辺					10	12・14～16号土坑	11	18号土坑
	7	12号竪穴炭化材出土状況					12	19号土坑	13	20号土坑
	8	13号竪穴遺物出土状況					15	22号土坑	16	23号土坑
国版10	1	13号竪穴完掘	2	13号竪穴竈			18	28号土坑		
	3	14号竪穴遺物出土状況				国版18	1	29号土坑	2	5号ピット
	4	14号竪穴完掘	5	14号竪穴竈			3	7号ピット	4	8号ピット
	6	14号竪穴内19号ピット					5	9号ピット	6	14号ピット
	7	19号ピット出土状況					7	15・16号ピット	8	17号ピット
	8	19号ピット出土状況					9	20号ピット	10	21号ピット
国版11	1	15号竪穴遺物出土状況					11	22・23号ピット	12	30号ピット
	2	15・16号竪穴完掘					13	37号ピット	14	38・39号ピット
	3	15号竪穴周辺完掘					15	43号ピット	16	46号ピット
	4	15号竪穴周辺掘り方					17	52号ピット	137	55・57号ピット
	5	17号竪穴遺物出土状況				国版19	1	后烟遺跡空撮	2	后烟遺跡空撮
	6	17号竪穴完掘				国版20	1	后烟遺跡空撮	2	后烟遺跡空撮
	7	18号竪穴遺物出土状況				国版21	1	1号竪穴遺物	2	1号竪穴完掘
	8	18号竪穴完掘					3	1号竪穴掘り方	4	1号竪穴内遺物
国版12	1	18号竪穴掘り方	2	18号竪穴内遺物			5	1号竪穴竈内遺物	6	1号竪穴竈
	3	18号竪穴付近					7	2号竪穴完掘	8	2号竪穴掘り方
	4	19号竪穴遺物出土状況				国版22	1	2号竪穴内遺物	2	3号竪穴内遺物
	5	19号竪穴完掘	6	19号竪穴掘り方			3	3号竪穴内出土土器		
	7	19号竪穴内遺物	8	19号竪穴竈			4	3号竪穴内出土土器	5	3号竪穴完掘
国版13	1	20号竪穴遺物出土状況					6	3号竪穴掘り方	7	3・1号竪穴完掘
	2	20号竪穴完掘	3	20号竪穴内遺物			8	4号竪穴内遺物		
	4	21号竪穴遺物出土状況				国版23	1	4号竪穴完掘	2	4号竪穴竈
	5	21号竪穴完掘	6	22号竪穴遺物			3	5号竪穴内遺物	4	5号竪穴内土器群
	7	23号竪穴	8	23号竪穴完掘			5	5号竪穴内土器群	6	5号竪穴内土器
国版14	1	24号竪穴遺物出土状況					7	5号竪穴内遺物	8	5号竪穴内遺物
	2	24号竪穴完掘	3	24号竪穴掘り方		国版24	1	5号竪穴内遺物		
	4	25号竪穴完掘	5	26号竪穴完掘			2	5号竪穴内68号ピット		
	6	26号竪穴付近	7	27号竪穴内遺物			3	5号竪穴完掘	4	4・5号竪穴掘り方
	8	27号竪穴完掘					5	6号竪穴内遺物	6	6号竪穴完掘
国版15	1	27号竪穴掘り方	2	28号竪穴内遺物			7	6号竪穴掘り方		

- 8 6号堅穴周辺のピット群
- 図版25 1 7号堅穴 2 7号堅穴完掘  
3 7号堅穴掘り方 4 1号掘立  
5 1号掘立 6 1号谷内遺物  
7 1号谷完掘 8 1号谷完掘
- 図版26 1 1号谷断面 2 1号谷南壁  
3 1号溝周辺の畝状溝・ピット群  
4 2号溝完掘 5 4号溝完掘  
6 4号溝内集石 7 9・10号溝完掘  
8 11号溝石列
- 図版27 1 12号溝完掘 2 14号溝周辺  
3 62号ピット 4 作業風景  
5 作業風景 6 作業風景 7 作業風景  
8 作業風景
- 図版28 大木戸遺跡1・2・4~6号堅穴 遺物
- 図版29 大木戸遺跡6~9号堅穴 遺物  
図版30 大木戸遺跡9~11号堅穴 遺物  
図版31 大木戸遺跡11~13号堅穴 遺物  
図版32 大木戸遺跡14~19号堅穴 遺物  
図版33 大木戸遺跡19~22・24・26~29号堅穴 遺物  
図版34 大木戸遺跡30・31号堅穴、9・10・16号土坑、  
13~15・17号ピット 遺物  
図版35 大木戸遺跡19・23・38・45号ピット、遺構外  
遺物  
図版36 后烟遺跡1~4号堅穴 遺物  
図版37 后烟遺跡5~7号堅穴、1・3・4号溝 遺  
物  
図版38 后烟遺跡4・14号溝、1号谷、遺構外 遺物  
図版39 大木戸遺跡28号堅穴・后烟遺跡4号堅穴 黒  
曜石原石、大木戸遺跡・后烟遺跡 金属製品

# 第1章 経過

## 第1節 調査の経過

大木戸・后畠遺跡は甲州市塩山熊野地内に位置する集落遺跡である。本書で報告するのは平安時代を主とする横井・大木戸遺跡（大木戸遺跡と略称）、弥生時代～古墳時代初頭および奈良・平安時代の複合集落の坂之上・后畠遺跡（后畠遺跡と略称）である。

甲州市では甲州市民病院方面から東側の新塩山バイパスへ抜ける市道下塙後22号線改良事業を計画した。開発予定地内には周知の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）として上記遺跡が存在するため、甲州市教育委員会が試掘調査を実施し、遺跡の存在および本調査の必要性を確認した。甲州市教育委員会による試掘調査は予定地内のうち新塩山バイパスに連絡する東側と、西側の2地点について行われ、その結果、工事総面積9,965m<sup>2</sup>のうち、約7,300m<sup>2</sup>を対象として本調査が行われることとなった。

遺構確認面までは地表下40～60cmであり、対象地域内に存在する遺跡にはケカチ遺跡（古墳・平安）、坂の上・后畠遺跡（平安）、横井・大木戸遺跡（縄文・平安）、五反田遺跡（古墳・平安）がある。試掘の結果、予想された遺跡の時期は縄文・古墳～平安で、平安時代を主とし、縄文・古墳は少ないと推定され、遺構数としては堅穴住居約150軒、溝約60本、小穴約700基が想定された。

本調査予定地内のうち東側約半分（3,300m<sup>2</sup>）の2遺跡を公益財団法人山梨文化財研究所が実施することとなり、平成27年8月に業務委託契約（業務名「市道下塙後22号線横井・大木戸遺跡発掘調査業務委託」）を締結し、8月5日着手、平成28年2月29日業務完了という期間で発掘調査を行うこととなり、報告書作成業務は翌年度に予定された。8月3日付で文化財保護法第9条にもとづき発掘届を提出、8月4日付で山梨県教育委員会より「埋蔵文化財発掘調査について（通知）」を受理した。事業主体者である甲州市と甲州市教育委員会、山梨文化財研究所では3者協定を締結し、発掘調査にあたっては甲州市教育委員会の指導監督のもと実施することとなった。

なお、甲州市教育委員会による大木戸遺跡分の試掘調査報告については、以下の通りであり、后畠遺跡分に関しては、ブドウ棚が存在したため事前の試掘調査は行われていない。

### 【横井・大木戸遺跡試掘調査報告】

所在地 甲州市塩山熊野496-4、495-2、485-2、483-2、480-3、476-3

所在地 甲州市塩山熊野

調査面積 約139.7m<sup>2</sup>

調査期間 平成27年4月9～10日

調査原因 市道整備

調査概要

#### (1) 調査の目的と方法

当地は、重川右岸の微高地上にあたり、埋蔵文化財包蔵地である横井・大木戸遺跡（平安時代・散布地）の範囲内となっている。当地内に市道下塙後22号線新設のための工事が行われることとなり、新設道路部分について試掘調査を実施することとなった。

新たに市道を整備する予定敷地内（現状畠地）に5本のトレンチ（試掘坑）を設定し調査を行った。トレンチは東側からA、B、C…と名を付した。

調査は、重機によって表土掘削をした後、土層観察と遺構確認作業を実施し、測量・写真撮影等により土層堆積、検出遺構・遺物の状態を記録した。

#### (2) 調査の成果

A トレンチは約14.0m×1.9mで設定し、地表から約40cmで地山となる灰黄褐色砂質土に達し、遺構を検出した。耕作による搅乱が著しかったものの堅穴住居跡1、溝ないし住居1、小穴（ピット）6を検出した。遺物は遺構確認面から土師器片を検出している。

B トレンチは約13.1m×1.5mで設定し、地表から約40cmで地山となる灰黄褐色砂質土に達し、遺構を検出した。耕作による搅乱のほか、堅穴住居跡1、溝ないし住居1、小穴1を検出した。遺物は遺構確認面から土師器片を検出している。

C トレンチは約13.6m×1.6mで設定し、地表から約30cmで地山となる灰黄褐色砂質土に達し、この面で遺構確認を行ったが遺構は検出されなかった。

D トレンチは約10.7m×1.6mで設定し、地表から約40cmで土師器片を微量含む黒褐色土層（3層）を検出したが、遺構覆土とは判断できなかったため、地表から70cmまで掘削した。その結果、地表下60cmで酸化鉄を含む暗灰褐色砂質土（4層）を検出し、地表下70cmで酸化鉄を含む灰白色の砂層（5層）を検出したため、4層以下が地山と考えられる。遺構は検出されなかった。遺物は3層から土師器片が微量検出された。

E トレンチは約13.1m×1.6mで設定し、地表から

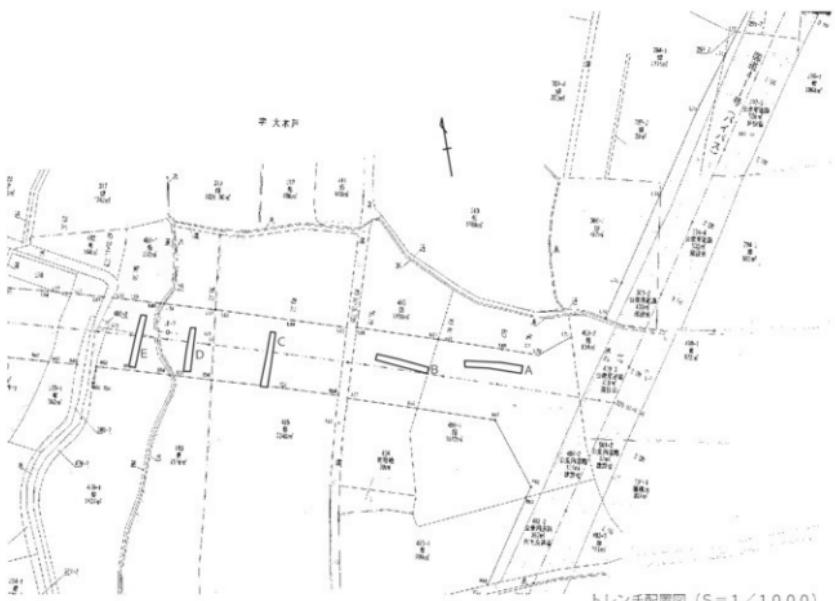


図1 試掘坑の位置

約30~40cmで地山となる黄灰褐色砂質土に達し、この面で遺構確認を行ったが搅乱（現代のごみ穴）が多く遺構は検出されなかつた。

### (3)まとめ

調査の結果、A・Bトレンチから、平安時代のものと考えられる遺構・遺物が検出された。A・Bトレンチは調査区の中で東側に位置し、C・D・Eトレンチに対して高い位置にある。一方、西側の沢へ落ち込む低地に位置するC・D・Eトレンチからは遺構は検出されなかつた。このことから横井・大木戸遺跡の西限が、B・Cトレンチ間にになると推定される。

従って、A・Bトレンチのある敷地については、開発に先立ち本調査が必要となるが、遺構が検出されなかつたC・D・Eトレンチのある敷地について本調査は必要ないと考えられる。

## 第2節 発掘作業の経過

発掘調査は準備期間のうち、平成27年9月14日から平成28年1月25日までの間、主に11月30日までを大木戸遺跡、12月から1月に后畠遺跡の調査を行つた。

当初、后畠遺跡ではブドウの収穫を待つてブドウ棚

の撤去、片付けを行う工程が予定されたため、最初に新塙山バイパス側の大木戸遺跡を調査することとなつた。大木戸遺跡では現場内で排土を置く必要性から2回にわけて掘削することとなり、調査区西側から掘削を開始し、西側を調査したのち、排土の反転後、東端を調査した。調査区内は現代の搅乱溝が南北方向に多数存在したため、まず搅乱溝を掘り抜き、溝の壁面と確認面の状況により遺構を判別し、各遺構の調査を実施した。

后畠遺跡については、大木戸遺跡の終了後、埋戻しと併行して着手、実施した。大木戸遺跡については埋戻し終了後、ただちに道路建設工事着手となり、歩道、側溝、橋の工事が始まったため、后畠遺跡の発掘調査と併行することとなり、市役所建設課、市教育委員会文化財課、業者との合同打ち合わせを重ね、工事側との工程調整を図りながらの実施となつた。后畠遺跡では東端より着手し、1号谷付近から西側に排土を置き、東側の調査終了後、土を反転して1号谷の調査を行つた。1号谷は非常に深く、大規模であったため、谷底付近までトレンチを抜いて深さや遺物出土状況を確認したのち、重機により覆土を掘削した。1号谷の右岸

(西端)には、数軒の堅穴が重複することがわかつたが、西側調査区外に潜り込んでいたため、西側調査を受託した昭和測量株式会社側と調査範囲が一部重複する形となつた。調査終了後、重機による埋戻しを行い、市教委の確認を受け現地調査終了となつた。

#### 【調査参加者】(敬称略)

飯野金雄・岩崎誠至・小沢正臣・河西元彥・河西町男・岸本美苗・鈴田信一・菅沼芳治・武井美知子・近山辰男・筒井聰・出井光・水上喜正・望月一正・渡辺智之・大塚邦明(帝京大学大学院生)・中島一成(帝京大学学生)

#### 【事務】(敬称略)

河西学・中山千恵・柳本千恵子

#### 【調査日誌】

2015年8月5日(水) 晴 甲州市役所にて建設課、文化財課、道路工事課、水道課などとの合同打合せ会議。作業工程の確認。

9月14日(月) 晴 大木戸遺跡へ重機搬入。表土剥ぎ開始。文化財課、建設課来跡。現地にて打ち合わせ。

9月15日(火) 晴 重機表土剥ぎ。

9月16日(水) 曇 重機表土剥ぎ。文化財課、新津健氏来跡。基準点設置。

9月17日(木) 雨 ブレハブまでの出入のため急きよ 全面シートを張る。重機稼働。

9月18日(金) 晴 重機稼働。文化財課来跡。

9月19日(土) 晴 重機のみ稼働。

9月24日(木) 雨 東側精査、壁面精査。

9月25日(金) 雨 市役所で建設課、文化財課、建設業者合同の打ち合わせ。

9月28日(月) 晴 捣乱から掘り下げ。1~3号堅穴 設定。文化財課来跡。

9月29日(火) 晴 遺構確認、撓乱の掘り下げ。1・ 2号堅穴等調査。

9月30日(水) 晴 7号堅穴まで設定、調査。6号堅 穴から石製鉈尾出土。文化財課、建設課はか見学。

10月1日(木) 小雨 1~7号堅穴調査。文化財課来跡。

10月2日(金) 晴 各堅穴調査。

10月5日(月) 曙 各堅穴調査。文化財課はか見学者 3名。

10月6日(火) 晴 各堅穴調査。

10月7日(水) 晴 12号堅穴まで設定、調査。文化財課 来跡。

10月8日(木) 晴 各堅穴、ピット調査。

10月9日(金) 晴 13~16号堅穴設定、調査。撓乱掘り 下げ。文化財課来跡。

10月13日(火) 晴 撥乱溝掘り下げほか。

10月14日(水) 晴 撥乱溝掘り下げほか。

10月15日(木) 晴 撥乱溝掘り下げ、1号土坑調査など。

10月16日(金) 晴 18~21号堅穴、3号土坑、ピット等 調査。

10月19日(月) 晴 11・17・23号堅穴、4・7号土坑、 ピット等調査。

10月20日(火) 晴 13・23号堅穴、4~6号土坑等調査。

10月21日(水) 晴 11・15・19・23号堅穴、2・4・5 号土坑等調査。

10月22日(木) 晴 18・19・23号堅穴ほか調査。

10月26日(月) 晴 25号堅穴まで設定。各堅穴、ピット 等調査。撓乱掘り下げ。文化財課来跡。

10月27日(火) 晴 6・18・20号堅穴ほか調査。

10月28日(水) 晴 調査区北東隅完掘。12号堅穴ほか 調査。

11月7日(日) 晴 11号堅穴、17・21号ピットほか調査。

11月9日(月) 晴 21号堅穴、31~36号ピットほか調査。

11月10日(火) 晴 9号土坑、38・44号ピットほか調査。

11月11日(水) 曙 10号土坑、46号ピットほか調査。空 振準備のち空撮。

11月12日(木) 晴 各堅穴写真撮影、掘り方調査など。

11月13日(金) 曙 堅穴掘り方調査。見学会準備。文 化財課はか見跡。

11月14日(土) 雨 見学会。10時より昭和測量側のケカ チ遺跡見学会のち、大木戸遺跡の見学会実施。

約50名参加。11時半ころ終了。その後掘り方調査。

11月15日(日) 晴 掘り方調査の補足作業。見学者4 名。

11月16日(月) 晴 重機搬入。補足調査と併行しつつ 床下調査が終了したところから埋戻し開始。

11月17日(火) 曙 重機稼働。

11月18日(水) 曙 重機稼働。一部精査。

11月19日(木) 曙 重機稼働。調査区壁面精査。

11月20日(金) 曙 重機稼働。表土剥ぎ完了。市役所 にて工程に関する打ち合わせ。

11月22日(日) 曙 後烟遺跡で重機による表土剥ぎ開 始。

11月23日(月) 曙 重機稼働。ブドウ棚撤去開始。

11月24日(火) 曙 重機稼働。土坑、堅穴の番号を設 定。調査開始。

11月25日(水) 曇 重機稼働。堅穴・土坑等調査。  
11月26日(木) 雨 ポンプによる排水。堅穴・土坑調査。  
重機稼働。  
11月27日(金) 晴 堅穴調査。確認面精査。重機は表土掘削終了。  
11月28日(土) 晴 各堅穴のポール撮影。  
11月30日(月) 重機による大木戸遺跡の埋戻し開始。  
12月 1日(火) 重機稼働。后畠遺跡精査。  
12月 2日(水) 重機稼働。  
12月 3日(木) 曇 1号堅穴調査開始。搅乱など掘り下げ。溝調査。  
12月 4日(金) 晴 ピット等半截、完掘。2号溝調査。  
12月 5日(土) 重機稼働。后畠遺跡西側の表土剥ぎ。  
12月 6日(日) 重機稼働。  
12月 7日(月) 晴 重機稼働、終了。  
12月 8日(火) 晴 各堅穴調査。確認面精査。  
12月 9日(水) 晴 6号堅穴まで設定、各堅穴調査。  
3号堅穴で完形の壺形土器出土。  
12月12日(土) 晴 7号堅穴設定。3号堅穴北東隅から複数の土器群出土。  
12月14日(月) 晴 各堅穴調査。57号ピットまで設定、調査。文化財課、稲垣自由氏、昭和測量泉作業員見学、説明。を行う。  
12月15日(火) 晴 各堅穴、ピット調査。建設課ほか見学者。  
12月16日(水) 晴 5号堅穴ほか調査。  
12月17日(木) 晴 5号堅穴ほか調査。  
12月18日(金) 晴 1・4号堅穴窓ほか調査。  
12月21日(月) 曇 1号谷、8～10号溝調査。  
12月22日(火) 晴 1号谷周辺ほか調査。  
12月24日(木) 晴 1号谷周辺調査。  
12月25日(金) 晴 6号溝ほか調査。  
2016年1月 5日(火) 晴 ピット等調査。  
1月 6日(水) 曇 ピット、溝等調査。  
1月 7日(木) 晴 シート、土糞の片付け。補足調査。  
文化財課来跡。  
1月 8日(金) 晴 11号溝完掘。堅穴の床面精査。空撮。  
1月13日(水) 晴 各堅穴掘り方調査。  
1月15日(金) 晴 12・13号溝調査。各堅穴掘り方調査。

1月19日(火) 晴 14号溝設定。1号谷内掘削、精査。  
1月20日(水) 晴 1号谷内精査。  
1月21日(木) 晴 1号谷内精査。  
1月22日(金) 晴 空撮のための清掃、ポール撮影実施。器材の水洗作業。  
1月23日(土) 晴 重機稼働、埋戻し。  
1月24日(日) 晴 重機稼働。  
1月25日(月) 重機による埋戻し終了。器材水洗など。  
1月26日(火) 晴 室内にて片付け、整理。

### 第3節 整理等作業の経過

整理作業、報告書刊行については、平成29（2017）年2月、甲州市と公益財团法人山梨文化財研究所とで2月20日から8月25日までの間を期間として業務委託契約した。業務名は「市道下塙後22号線横井・大木戸遺跡整理報告業務委託」で、諸作業を笛吹市石和町内にある山梨文化財研究所内において実施した。

出土遺物については、水洗、注記、接合、復原、実測遺物を抽出し、実測、トレースを行ったあと、図版組はパソコンで行った。遺構データについては、写真測量による平面図と現地で「遺構くん」を用いて作図した断面図や遺物出土地点のデータ等を合成し、デジタルデータとして整理、図版作成を行った。

自然科学分析としては、窓内土壤をサンプリングして整理段階で浮遊選別により炭化物を回収した。乾燥重量を計測し、水面投下により浮上した炭化物をすくい取ったが、肉眼観察で目立った炭化種実があり認められなかったことから、同定作業は行っていない。ただし、今後改めて精査し何らかの形で専門機関による分析を行いたいと考える。また堅穴内出土の炭化材についても取り上げて保存しているが、材の樹種同定、年代測定など行っていない。

#### 【整理作業参加者】（敬称略）

岩崎満造子・梶原薰・川口三和・柳原ゆかり・佐野眞雪・田中真紀美・林紀子・藤原五月・古郡明

#### 【事務】（敬称略）

河西学・中山千恵・柳本千恵子・横田杏子

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

大木戸・后畠遺跡は甲府盆地北東縁にある甲州市塩山熊野地内にある集落遺跡である。地形的には笛吹川

と重川が形成した複合扇状地面上、東側に南流する重川に近い南傾斜の微高地上に立地し、周囲はブドウを中心とした果樹地帯で、標高は大木戸遺跡が377m、后



図2 遺跡の位置



烟遺跡が376m。遺跡が立地する塙山地域（旧塙山市）は青梅街道沿いに発展し、明治36年（1903）の鉄道（中央線）開通後には塙山駅を中心に開け、塙山市役所や商店街などからなる市街地が形成された。平成17年（2005）の市町村合併では塙山市・勝沼町・大和村が合併し、人口3万7千人の甲州市が誕生した。国宝大善寺をはじめ寺社建造物や仏像、絵画などの有形文化財を多く保有するほか、重要伝統的建造物群保存地区の上条集落がある。また縄文時代以来の埋蔵文化財保蔵地も多い。

塙山市街地の東側を通る新塙山バイパスが平成20（2008）年に完成すると、市内中心部と新バイパスをつなぐ路線整備が急務の課題となった。今回の市道が予定された塙山於曾・熊野地区は古くからの狭い道が集落をつなぐようにして存在し、車での通行が不便なことから市街地を東西に貫く市道下塙後22号線建設が甲州市により行われることになった。JR塙山駅までは直線距離にして約1.5kmと近く、一帯はブドウ・モモの果樹を主とした畑作地帯で、背後には奥秩父山地、大菩薩嶺が連なり、また塙ノ山も近い。新バイパス沿いにはホームセンターなどの大型店舗やアパート、住宅などの建設が相次ぎ、開発に伴う発掘調査の事例が増えつつある。

## 第2節 歴史的環境

新塙山バイパス周辺では、甲州市内としてはバイパス建設を契機として発掘調査例が集中する。

これまで調査された遺跡は、周辺遺跡を含めてあわると県営団地建設に伴う「一ノ坪遺跡」（山梨県教委ほか

1997）、旧塙山バイパス建設に伴う西田遺跡（山梨県教委1988・1997）、新塙山バイパス建設に伴う獅子之前遺跡（山梨県教委ほか1991）、下西烟遺跡・西烟遺跡・影井遺跡（山梨県教委ほか2003）、学校建設に伴う伊保水遺跡（山梨県教委ほか1998）、店舗建設に伴う赤尾堀口堤防（甲州市教委ほか2012）、給食センター建設に伴う熊野八反田遺跡（甲州市教委2015）、ホームセンター建設に伴う五反田遺跡（山梨文化財研究所ほか2016）、公園整備に伴う於曾屋敷遺跡（山梨文化財研究所ほか2017）などがある。

「一ノ坪遺跡」では縄文前期の堅穴2軒、平安末の堅穴6軒が検出されている。

西田遺跡は古墳前期の集落跡で、1次調査で堅穴7軒、掘立柱建物跡1棟、方形周溝墓5基、2次調査では堅穴54軒、大溝が検出され、溝に囲まれた古代豪族の居館の可能性もある。

獅子之前遺跡では縄文前期（諸磯a～b式）の堅穴7軒、平安時代の堅穴7軒、平安末1軒がある。

伊保水遺跡では平安末～中世前期の堅穴1軒、土坑、溝などがある。

五反田遺跡では古墳前期の堅穴6軒、平安時代の堅穴11軒、平安末の堅穴2軒などがある。

「大木戸遺跡」は今回の調査区と同一遺跡であるが、縄文前期諸磯a式期1軒、b式期10軒のほか、縄文中期堅穴4軒、平安時代堅穴21軒（うち平安末堅穴13軒）があり、諸磯b式期と平安末（10世紀後半～12世紀）の集落規模の拡大に特徴がある。こうした傾向が中世前期に出現するとみられる於曾屋敷の成立と関連する可能性がある。



図3 周辺の遺跡

表1 周辺遺跡一覧表

甲州市塙山			No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	前田遺跡	縄文	62	塙山前遺跡	縄文(中)	205	風間氏星數	
2	牛奥遺跡	縄文	63	金山遺跡	平安・中～近世	206	依田宮内佐衛門星數	
3	流ヶ上遺跡	縄文(前・中)	64	青木沢遺跡		207	田辺氏星數	中世
4	西堀遺跡	平安	65	番匠原遺跡		208	池田氏星數	中世
5	住蓮木平遺跡	縄文(中)	66	上三糸神遺跡		209	宇賀星數	
6	西田遺跡	縄文(中)・弥生・古墳・奈良	68	向獄寺庭園	近世	210	於曾屋星數	
7	東田遺跡	縄文(中)	69	向獄寺大方大跡	古墳	211	八代氏星數	
8	芦原田遺跡	縄文(中)	70	乙川山前遺跡	縄文・平安	212	保坂氏星數	
9	下整田遺跡	縄文	71	尾敷原A遺跡	縄文(中)・平安	213	於曾三郎星數	
10	村北遺跡	奈良・平安	72	武土原前下遺跡	縄文・平安	214	橋爪氏星數	
11	向原遺跡	奈良・平安	73	北原遺跡		215	古屋清佐衛門星數	
12	扇田A遺跡	縄文(中)	75	東林遺跡		216	平城	
13	扇田B遺跡	奈良・平安	76	尾敷原B遺跡	縄文(前)・奈良・平安	217	武田信春館跡	中世
14	扇田C遺跡	縄文・奈良・平安	77	久沢遺跡	縄文・平安	218	村田氏星數	中世
15	十王前遺跡	平安	78	天神前遺跡	縄文(前)	219	古屋氏星數	
16	町田遺跡	縄文	79	腰巻遺跡	縄文・近世	220	網野氏星數	
17	斐師平遺跡		80	腰越遺跡		221	佐藤原星址	
18	清水田遺跡	奈良・平安	81	中堀A遺跡		222	網野新五佐衛門星數	
19	道替遺跡	弥生(後)～古墳	82	中堀B遺跡		223	十祖星數	
20	知光田遺跡		83	宮之下遺跡		224	武田兵庫助星數	
21	上塙後境遺跡		84	天神遺跡		甲州市勝沼		
22	中道遺跡	平安	85	中原遺跡	縄文・平安	No.	遺跡名	時代
23	熊野前田遺跡	平安	86	松葉田遺跡	縄文・平安	1	大塚南遺跡	縄文
24	熊野八反田遺跡	平安	87	瀧ノ上前遺跡	縄文(中)	2	大塚北遺跡	平安
25	熊野神社遺跡	弥生(後)～古墳	104	梅ノ木遺跡		3	松原遺跡	平安
26	梶原A遺跡	古墳・奈良・平安	105	中村遺跡	縄文	4	若林遺跡	縄文
27	梶原B遺跡	古墳・奈良・平安	106	獅子之前遺跡	縄文(前)・弥生・平安	5	山富土塚	中世・近世
28	カカ子遺跡	古墳・平安	107	小山平南遺跡	縄文(前)・中・平安	6	上野経塚	中世
29	坂之上・后郷遺跡	平安	108	札之江東A遺跡	平安	7	天神遺跡	縄文
30	五反田遺跡	古墳	109	札之江東B遺跡	縄文(前)・平安	8	穴吹古墳	古墳
31	石骨A遺跡	縄文・平安	110	觀音堂東遺跡	縄文・平安	9	姥屋敷遺跡	縄文
32	石骨B遺跡		111	八桑田西遺跡	縄文(中)・平安	10	下立石西遺跡	縄文・弥生
33	横井・大木戸遺跡	平安	112	青田A遺跡	平安	11	下立石東遺跡	縄文・弥生
34	池田遺跡	中世	113	青田B遺跡	縄文(中)・平安	12	下立石遺跡	縄文
35	下於曾八反田遺跡	平安	114	中原遺跡	平安	15	上中居遺跡	平安
36	正泉A遺跡	古墳・平安	115	身洗田遺跡	平安	17	大門後遺跡	平安
37	正皇B遺跡		116	御靈前田遺跡	縄文(中)	18	坂上遺跡	平安
38	檜遺跡	縄文	117	洗在家遺跡	縄文(前)・中・平安	62	大塚経塚	
39	影井遺跡	縄文(中)・平安	118	宮之前遺跡	平安・中世	63	屎穴遺跡	
40	久保田遺跡	平安	119	安道寺遺跡	縄文(前)・中・平安	67	立正寺旧境内	近世
41	下西畠遺跡	縄文・弥生(後)～古墳	122	牛久保遺跡		68	休息経塚	
42	横堀遺跡	中世	123	原中創遺跡	縄文	69	本立寺後	近世
43	受地遺跡	平安	173	馬場平遺跡	羽石郡・縄文(前)	70	大型院跡	近世
44	林際遺跡	縄文・平安・中世	180	切付平遺跡	平安	山梨市		
45	天神原遺跡	縄文(中)・平安	181	妻切原	中世・近世	No.	遺跡名	時代
46	宮沢遺跡	縄文(中)・古墳・平安	182	おせん稻荷塚		83	十王堂遺跡	奈良・平安
47	宇賀星敷遺跡	奈良・平安・中世	183	お主ん稻荷塚		84	中沢遺跡	平安
49	西畠A遺跡	平安・中世	184	下萩原浅間塚	平安	85	神明遺跡	奈良・平安
50	於曾星敷遺跡	平安・中世	185	鈴の宮塚		96	阿弥陀堂遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
51	神ノ木遺跡	縄文(中)・古墳・平安	189	お文殊稻荷塚		97	天神原遺跡	平安
52	西畠B遺跡	縄文(中)・中世	190	梅ノ木塚		103	大橋遺跡	平安・中世
53	相ノ田遺跡	縄文・古墳・平安	191	栗塚稻荷塚		104	鯖口星敷	古墳・平安・中世
54	南畠遺跡	弥生	192	車塚		107	三ヶ所遺跡	平安・中世
56	稻荷林遺跡		197	西野原煉瓦工場跡	近代	109	東後星敷遺跡	縄文・奈良・平安
57	宮之前遺跡	縄文・古墳・平安	199	田草川氏星敷		123	宮ノ前遺跡	平安
58	清水尻遺跡	縄文・古墳・平安	201	西の原の塚	中世	171	武田金吾星敷跡	中世
59	千手院前遺跡		202	深沢氏星敷		175	達方星敷	中世
61	高林遺跡	縄文(中)・中世	204	中村氏星敷				

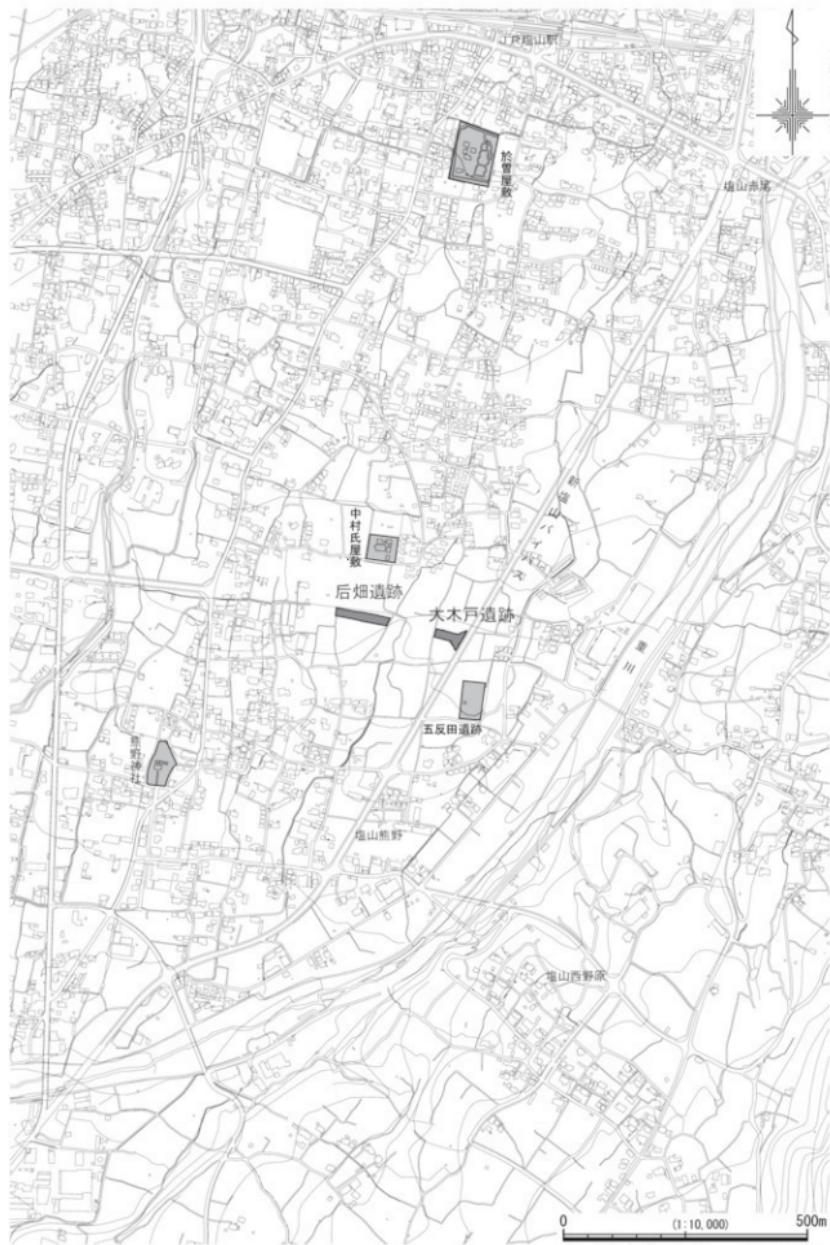


図4 調査区周辺図



図5 市道計画図

西畠遺跡では奈良時代堅穴2軒、平安時代堅穴5軒がある。

下西畠遺跡では縄文中期堅穴1軒、古墳前期堅穴3軒、奈良時代堅穴1軒、平安末堅穴2軒、方形周溝墓4基がある。また遺構外からは13世紀代の手捏ね系かわらけや青磁蓮弁文碗片などが出土している。

影井遺跡は平安末の堅穴3軒、多数のピット群があり、11世紀末の堅穴に伴って鉄製鎗が出土している。

梶畠B遺跡では縄文前期諸期c期の堅穴1軒、古墳前期の堅穴2軒、平安後期の堅穴5軒、中世のピット群が検出された。

熊野八反田遺跡では、古墳前期の堅穴5軒、埋設された大形壺を伴う流路などが見つかっている。

五反田遺跡では奈良平安時代の堅穴約70軒が密集していたほか、大溝、掘立柱建物跡などが検出されている。

於曾屋敷遺跡では土塁の外側にあたり、方形石組遺構、掘立柱建物跡のほか、五輪塔群が出土した。13世紀代の渥美焼の陶器片が出土し、館跡の出現時期を示す資料となった。

中世居館跡としては、この県史跡於曾屋敷をはじめ、田辺氏屋敷、依田宮内左衛門屋敷、宇賀屋敷、池田氏屋敷、保坂氏屋敷などの分布が知られ、黒川金山に関する伝承をもつ屋敷地が多い。今回の調査区の后畠遺跡北側には中村氏屋敷がある。黒川金山衆との伝承をもち、東西60m、南北105mの方形区画が確認でき、

金山明神が祀られている（塙市山 1999）。

このように甲州市塙山熊野・於曾地区付近には縄文前期、諸磯式期を主とした集落の盛行のち、古墳前期に方形周溝墓を伴う集落の隆盛期がある。さらに奈良・平安時代には五反田遺跡にみるように大集落が成立する。さらに平安末には集落形成がより隆盛し、中世前期へと連続的に移行している。

今回調査が行われた大木戸遺跡では平安末の集落の隆盛が明らかとなり、また后畠遺跡では弥生末～古墳前期の堅穴が発見されるなど、本地域の傾向を端的に示したものといえ、周辺遺跡との関連性や中世への連続性についての良好なデータが得られた。

#### 【参考文献】

塙市山 1999 「塙市山史」

山梨県教育委員会 1988 「西田遺跡第一回発掘調査報告書  
一」

山梨県教育委員会ほか 1991 「獅子之前遺跡発掘調査報告書」

山梨県教育委員会 1997 「西田町遺跡—第一回発掘調査報告書」

山梨県教育委員会ほか 1997 「一ノ坪遺跡発掘調査報告書」

山梨県教育委員会ほか 1998 「伊保水遺跡」

山梨県教育委員会ほか 2002 「五反田遺跡」

山梨県教育委員会ほか 2002 「下西畠遺跡 西畠遺跡 影井遺跡 保坂家屋敷墓」

山梨県教育委員会ほか 2003 「大木戸遺跡」

甲州市教育委員会ほか 2012 「赤尾堀口堤防」

山梨文化財研究所ほか 2012 「梶畠B遺跡」

甲州市教育委員会 2015 「熊野八反田遺跡」

山梨文化財研究所ほか 2016 「五反田遺跡」

山梨文化財研究所ほか 2017 「於曾屋敷遺跡」

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

大木戸遺跡、后畠遺跡とともに調査方法は同じであるが、大木戸遺跡については試掘調査データがあることから、それを参考に調査を行った。

まず現地に打設された工事杭を参考に調査区を設定し、包含層または遺構確認面上層まで重機により表土剥ぎを行い、排水は調査区内の一角に積み上げた。調査区脇には光波測量機を設置する基準杭を各遺跡3本程度打設し、遺物取り上げや実測時の基準点とした。遺構確認面まで人力により精査を行い、堅穴、土坑、ピット、溝などの遺構を確認し、最初に近現代の搅乱溝の全掘から開始した。遺構については半截、またはベルトでの土層図化を行ったのち、完掘を行い、堅穴では周溝、竈完掘後、堅穴完掘状況として全体図作成のためのポール撮影を行い、さらに床下の掘り方方向を全堅穴で確認し、土層図を作図し、掘り方平面図の作

図のためのポール写真を撮影した。個々の遺構を調査したのち、全景の垂直、鳥瞰写真をラジコンヘリで撮影し、図化用写真および景観写真とした。

セクション、エレベーションの作図および遺物取り上げについては、光波測量機とパソコンを連結し、遺跡調査システム「遺構くん」により3次元データとして記録を行った。遺物については両遺跡を遺構、遺構外に問わらず通しNoとしたが、遺構の名称については大木戸遺跡、后畠遺跡でそれぞれ堅穴、土坑、ピット、溝について通しNoとしている。

### 第2節 層序

大木戸遺跡では基本層序として深掘りした地点はない。ただし調査区間にかかる遺構で表土層以下のセクション図を作図した地点（2・11・17・22・25号堅穴、28号土坑）において、上層からの土層堆積状況を記録

している。それらによれば、調査区南西隅にあたる2号竪穴で、1層（鈍い黄褐色土）、2層（灰黄褐色土）を表土、確認面上層とし、遺構覆土は黒褐色土、地山（遺構確認面）は鈍い黄褐色土である。東南隅の28号土坑では、表土下に旧水田面（2・3層）があり、黒褐色砂質土層（4層）をはさんで遺構確認面となる。調査区中央南壁でも同様で、表土（1層）下に水田面（2・3層）があり、その下に黒褐色砂質土（4層）があり、遺構覆土となっている。

后畑遺跡では、1号谷、1・4号竪穴で調査区壁にかかる土層を表土以下、固化している。1号竪穴では、1層とした表土層（耕作土）、以下5層（黒褐色砂質土）があり、その直下が確認面となる。4号竪穴の断面も同様である。

### 第3節 遺構

#### （1）大木戸遺跡

東西方向の道路予定地のうち、新塙山バイパスに取り付く東側の調査区である。調査区は東西57m、幅18mで、ラッパ状に広がった東壁は幅46mある。面積は1,910m<sup>2</sup>。中央付近から東側にかけて、現代の畑耕作に伴う擾乱溝が南北方向に密に存在するため、遺構は溝に切られたものがほとんどであるが、竪穴31軒、土坑30基、ピット64基、溝2本が検出された。

#### 1号竪穴（第4・5図、写真図版4）

調査区西端に位置し、南壁が6号竪穴と重複する。東西2.8m×南北推定29mの隅丸方形で、北壁中央に竈をもち、主軸方向はN-25°-E。北西隅に29号ピット、北東隅に28・49号ピットが重複する。周溝は西壁と断続的に東壁にあるが、北壁はピットがあるため不明。西壁周溝は幅30cm、深さ24cmを測る。確認面から床までの深さは25cmで、覆土は暗褐色土、鈍い黄褐色土の2層である。6号竪穴との新旧関係は、掘り上がり平面図では6号竪穴の方が新しいように見えるが、出土遺物から1号竪穴が新しく、1号竪穴が6号竪穴北壁を切り、6号竪穴周溝上を床面としたと考えられる。ただし南北セクションでは切り合い関係を捉えることができない。竈は北壁中央に0.8×0.85mの範囲が窪み、構築石材は出土していないが、竈の覆土2層が構築材の粘土とみられる。竈の煙道はほとんどない。床面は貼り床が不明瞭で、遺物は竈周辺と東西壁寄りに散在する。床面を掘り下げたところ、竈周辺から北東隅の部分と、南西隅を中心にした部分でやや深い掘り方が確認された。

#### 2号竪穴（第6図、写真図版4）

調査区南西隅で検出された竪穴で、大半は調査区外にかかり、竪穴の北東隅付近が1.9×0.8mの範囲で部分的に遺存した。主軸方向は推定でN-14°-E。地表面から確認面まで0.6m、確認面から床面までは28cmで、東壁から北壁の一部にかけて幅35cm、深さ15cmの周溝が巡る。覆土は黒褐色土を主とし、出土遺物は非常に少ない。

#### 4号竪穴（第6図、写真図版4）

調査区西側に位置し、調査区南壁にかかるように検出された。南北幅は不明だが、東西2.75mの隅丸方形で、竈は未確認である。主軸方向はN-18°-E。表土から確認面まで0.4m、確認面から床面までは15cmとやや浅い竪穴で、幅25~30cm、深さ10cmの周溝が全周する。覆土は暗褐色土、鈍い黄褐色土を主とし、遺物は床面直上付近にわずかに散在する。床面は硬化面がなく、床面北壁寄りに26・27号ピットが接して存在する。

#### 5号竪穴（第7図、写真図版4・5）

調査区西側中央に位置する。北東隅にコーナー竈をもつ3.5×3.4mの竪穴で、東壁に4号ピットが重複する。主軸方向はN-37°-E。南・西・北壁側に幅20~30cm、深さ3~15cmの周溝が断続的に存在し、東壁は不明瞭である。確認面から床面まで20cmで、上から褐色砂質土、黒褐色土、暗褐色砂質土を主とする。遺物は竪穴全体に分布し、覆土中位から掘り方にかけて存在している。竈は0.8×0.9mの円形のピット状を呈し、礫が6個ほど覆土上層から出土したが、竈の石組の部材ではない。また覆土上層からは鉄錠が出土している。床面は竈周辺にやや硬い面が残るもの、全体的に硬化面ではなく、床面を削いたところ、四隅を中心に土坑状の掘り方が検出されたほか、西側には50・51号ピットが床下より確認された。それらも掘り方の一部かもしれない。

#### 6号竪穴（第4~6図、写真図版4・5）

調査区西端に位置し、1号竪穴と重複する。前述したように1号竪穴が新しく、6号竪穴北壁周溝上に1号竪穴南壁付近が重なる。3.2×3.4mの隅丸方形で、竈は東壁南寄りに位置する東竈であり、主軸方向はN-20°-E。周溝は幅45cm、深さ20cmと幅広で深く、全周している。床面は貼り床が不明瞭で、遺物は全体的に少ないが、石帶が床面近くから出土している。床面を下げたところ南壁寄りに周溝が広がる形で溝状の掘り方が確認された。竈は幅0.6mの両脇を幅0.4~0.5mの粘土で袖を構築した粘土袖で、礫はない。粘土を除去したところ、竈下層に径1mの円形の落ち込みを検出している。

### 7号竪穴（第7・8図、写真図版5・6）

調査区西側中央、14号竪穴南にあり、南壁などは擾乱溝に切られている。東西35m、南北30mのわずかに南北に長い隅丸長方形で、東壁の南東隅にコーナー竪をもつ。主軸方向はN-22°-E。周溝は南壁側が擾乱で不明だが、東壁際には幅15~20cm、深さ5~10cmの周溝が存在するほか、北・西壁際には断続的に存在するが、全体に不明瞭。遺物は竪周辺にわずかに散在する程度である。確認面から床面まではわずか10cmで、覆土は黒褐色土を主とする。床面は竪西側付近に硬化面があるが、全体に擾乱により残りが悪い。床下には東壁側と北西隅を中心に幅広でやや深い掘り方が見つかっている。竪は袖石として長さ約30cmの円礫を左右に立て、その裏に板状の粘板岩を並べたもので、袖石間は約60cmとなる。煙道はわずかに突出し、竪全体では $1.2 \times 0.7$ mの大きさとなる。

### 8号竪穴（第8図、写真図版6）

調査区中央西寄り、北壁近くにあり、南西隅を15号竪穴に切られる。東西3.0m、南北2.6mの東西にやや長い隅丸長方形を呈し、南東隅に東竪をもつ。主軸方向はN-29°-E。幅30cm、深さ10cmのやや幅広の周溝が全周する。確認面から床面までの深さは25cmで、覆土は黒褐色土を主とする。竪は石組がないことから粘土竪とみられ、褐色粘土の両袖間に焼土粒をや多く含んだ層が存在する。竪の規模は不明確だが、 $0.7 \times 0.7$ m程度の範囲である。遺物は竪内、周辺に集中するが、それ以外には少ない。床面は硬化面がなく不明瞭で、西側には地山が露出している。床面を剥いだところ、全体に10~15cm程度下がって掘り方面が検出された。

### 9号竪穴（第9図、写真図版7）

調査区中央西側にあり、東壁に26号竪穴が接する。竪穴内を斜めに耕作溝が切り、床下まで擾乱が達するほか、北東隅には52号ピット、南西隅には30号ピットが重複する。竪は東壁、南東隅近くにある東竪である。竪穴は東西4.0m、南北4.6mの隅丸方形で、南北方向にわずかに長い。主軸方向はN-22°-E。確認面から床面まで深さ23cmで、覆土は黒褐色砂質土、褐色砂質土が堆積する。周溝は幅30cm、深さ10cm程度で、竪を除いて全周する。遺物は竪周辺および南壁側の床面近くから覆土中位にかけて多く分布する。

竪は石組竪で、向かって右袖石（長さ25cm）および支脚石（長さ17cm）が遺存する。煙道付近は耕作溝によって切られているため、不明であるが、竪の規模は $0.8 \times 0.8$ m程度とみられる。床面は硬化面が不明瞭

で、床面を剥いだところ、掘り方面は約20cmの厚さで全体に下がり、中央付近にピット状の落ち込みが検出された。

### 10号竪穴（第10~12図、写真図版7・8）

調査区中央西側、南壁寄りにあり、11・25号竪穴と重複し、南西隅を欠くが、北東隅にコーナー竪をもつ $3.0 \times 2.8$ mの隅丸方形を呈する。主軸方向はN-24°-E。確認面から床面までは約15cmで、覆土は黒褐色土を主とし、壁際には暗褐色土の逆三角土が堆積する。周溝は竪を除き全周し、幅30cm、深さ10cmを測る。遺物は竪付近はか全体にやや少量分布している。床面を掘り下げたところ、全面的に17cm下がった掘り方面が検出された。竪は北東隅を約50cm掘り込んで構築しており、やや小ぶりの疊多数を用いて両袖石を組んでいる。支脚石はなく、煙道の突出もない。竪の規模は $0.7 \times 0.7$ m程度。竪内覆土は暗褐色土を主とし、明瞭な焼土層は確認できなかった。

### 11号竪穴（第10~12図、写真図版8）

調査区西側、南壁に接して位置し、一部南壁が調査区外にわずかにかかっていたため、調査区の拡張を行い、竪穴を全掘した。10・25号竪穴と重複する。 $3.5 \times 3.6$ mの竪穴で、主軸方向はN-27°-E。竪は不明瞭だが、東壁の南東隅寄りにある東竪である。確認面から床面まで30cmを測り、覆土は中～上層が黒褐色砂質土、下層が鈍い黄褐色砂質土。周溝は幅30~60cm、深さ20~25cmで全周し、南東隅には周溝と重なるようにして14号ピットがあるほか、大小のピットが存在する。遺物は竪付近に集中し、覆土上層から床面にかけて存在する。竪は不明瞭で、焼土ブロックおよび一部直立した小形疊3個が存在することから、 $0.6 \times 0.6$ mの石組竪である。煙道の突き出しはない。

### 12号竪穴（第13図、写真図版9）

調査区西側、北壁寄りに位置し、14号竪穴と重複し、東側には13号竪穴がある。 $3.3 \times 3.5$ mの隅丸方形で、主軸方向はN-27°-E。東壁、南寄りに竪をもつ東竪である。幅30~45cm、深さ数~10cmの幅広の周溝が竪を除いて全周する。床面までは確認面から35cmあり、覆土は上層から暗褐色砂質土、黒褐色砂質土、褐色土からなる。遺物は竪内に集中するほか、わずかに床下付近から出土している。竪は $1.1 \times 0.85$ mの稍円形の掘り方で、長さ30cmの袖石が立つ。両袖石の間隔は50~60cmで、焼土が堆積していた。床下を下げたところ、南壁から竪にかけて、深さ25cmでL字状に幅広の掘り方が検出された。

### 13号竪穴（第14・15・17図、写真図版9・10）

調査区西側、北壁寄りに位置し、14号竪穴に切られ、西側には12号竪穴がある。3.5 × 3.3 mの隅丸方形で、主軸方向はN-19°-E。竪は北壁、北東隅近くにある北竪。周溝は竪を除きほぼ全周し、幅20~25cm、深さ10cmを測る。確認面から床面までは35cmで、覆土は黒褐色砂質土を主とする。14号竪穴の竪が南東隅の床面中にあるが、これは14号竪穴が13号竪穴を切っているため、13号竪穴の調査時点では14号竪穴の床面は確認できず、またB-B'のセクション作図時点でも14号竪穴床面の連続性を見出すことができていない。ただし遺物の内容から13号竪穴よりも14号竪穴が新しいことが明らかである。

遺物は散在し、覆土中位から下層にかけて分布する。北竪は両袖を粘土で構築した粘土竪で、煙道の突き出しあは約20cm程度と短い。両袖間は約60cmある。

#### 14号竪穴（第14~17図、写真図版10・11）

調査区西側、北壁寄りに位置し、12・13号竪穴を切り、15号竪穴とも重複関係をもつ。調査段階では14号竪穴との切り合い関係が不明瞭で、南北方向の断面図では14号竪穴の床が13・15号竪穴に切られるように固化した。しかし、13号竪穴床面に14号竪穴の竪が遺存すること、出土遺物が13号竪穴よりも14号竪穴の方が新しいことから、14号竪穴が新しい。15号竪穴については遺物から14号竪穴とほぼ同時期と判断でき、平面図どおり15号竪穴が14号竪穴を切っていると考えておく。東壁が不明瞭ではあるが、13号竪穴と15号竪穴の間にわずかに壁の立ち上がりがあり、そのライン上に竪が存在することから、東西4.7m、南北5.4mの隅丸方形と思われる。主軸方向はN-22°-E。周溝はほぼ全周するとみられ、幅30~40cm、深さ10cmを測る。確認面から床面までは22cmで、黒褐色砂質土を主とする。南西隅の周溝中に19号ピットがあり、皿2枚セットの合わせが2組、碟の脇から出土した。調査時点では竪穴に伴う埋納構造を考えたが、本竪穴に伴うかどうかの判断は難しい。出土遺物の検討により竪穴より新しく、地鎮の祭祀として埋設された可能性がある（第4章第4節参照）。竪は13号竪穴内に残り、袖石の2石の間に支脚石とみられる小形碟がある。ただし袖石、支脚石とともに直立していない。規模は0.9 × 0.9m程度。遺物は床面に散在し、床直レベルでの出土例が多い。床面は全体に20cm程度下がって掘り方面となり、大小多数のピットが認められた。

#### 15号竪穴（第14~17図、写真図版11）

調査区西側に位置し、8・14・16号竪穴を切る3.8 × 4.0 mの隅丸方形の竪穴で、北東隅にコーナー竪を

もつ。また竪近くには17号ピットが重複する。主軸方向はN-22°-E。周溝は竪を除き全周し、幅30~35cm、深さ15cmを測る明瞭な周溝であった。確認面から床面まで28cmで、覆土は黒褐色砂質土を主とする。竪周辺の床面に硬化面が認められた。遺物は竪内および竪穴中央付近から多く出土し、覆土中位から下層にかけて出土している。竪は竪穴対角線上に設置した石組竪で、壁を約25cm掘り込み、1.0 × 1.0 mの規模をもつ。正面に向かって右袖には約40cmの碟を立てて袖石とし、多数の碟を竪構築材として組んでいる。床面には竪、北壁周辺に部分的な硬化面があり、床面を5~15cm剥ぐと多数のピット状からなる掘り方面となった。17号ピットは15号竪穴を切り込んでいるが、出土した遺物をみると、15号竪穴出土遺物と全く同時期といえ、15号竪穴に伴う施設と捉えることができる。1.0 × 0.8m、深さ0.5mの楕円形土坑で、覆土中位からやや多くの土師質土器等が出土している。

#### 16号竪穴（第14・15・17図、写真図版10・11）

調査区西側に位置し、15号竪穴に切られて南壁付近のみを残すもので、竪はない。東西3.0 mの隅丸方形とみられ、主軸方向はN-23°-E。壁面には幅25cm、深さ10cmの明瞭な周溝が全周する。遺物は東壁近くの床面上からわずかに出土している。床面を約20cm剥いだところ、ピット状の掘り方面を検出した。

#### 17号竪穴（第10~12図、写真図版11）

調査区中央、南壁かかるように存在し、25号竪穴の東壁を切る。南側約1/3が調査区外にかかり、完掘できなかった。したがって規模は東西5.0 mのやや大形の隅丸方形で、主軸方向はN-17°-E。竪は未確認であり、調査区外に想定できることから、東壁、南東隅寄りの東竪と推定される。東壁、北壁には1・3号土坑、5・7号ピットが重複し、竪穴よりも古いと考えられる。地表面から確認面まで55cm、確認面から床面までは22cm（地表下77cm）で、覆土は黒褐色砂質土、暗褐色砂質土からなる。遺物は覆土中位にごく少量分布する。周溝は東・北・西壁に断続的に存在し、幅20~25cm、深さ5cmを測る。床面中央には10×1.2m程度の硬化面があり、床面を下げたところ、中央付近を掘り残して全体的に15cm程度掘り下げた掘り方が検出されている。

#### 18号竪穴（第18図、写真図版11・12）

調査区中央に位置し、東側に19・23号竪穴、西側に20・24号竪穴が存在する。搅乱溝やピットなどが重複するため、形状が分かりにくくなっているが、3.7 × 3.4 mの隅丸方形竪穴で、主軸方向はN-10°-E。北壁

の北東隅寄りに北竈をもつ。東・南・西壁に周溝があり、幅25~55cm、深さ数~10cmを測る。確認面から床面まで深さ20cmあり、覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物は東壁と西壁寄りの2箇所に集中する傾向があり、覆土上層から床面にかけて分布している。竈は北壁を30cm掘り込んで造られた0.8×0.8m程度の範囲で、幅50cm程度の粘土袖間の中央に支脚石とみられる高さ20cmの礫が直立し、その煙道側に焼土層が堆積する。袖石には礫がなく、粘土竈のようである。床面を下げたところ、深さ5~10cm程度の掘り方面となつた。

#### 19号竪穴（第19・20図、写真図版12）

調査区中央や東西に位置し、搅乱溝、9号土坑ほかビット等と重複する。4.0×4.1mの隅丸方形で、主軸はN=20°-E。確認面から床面までは13cmで、覆土は黒褐色砂質土を主とする。周溝は南東隅などにわずかに存在するのみで、全体に不明瞭である。北壁側に焼土ブロックがあり、北竈と推測されるが、竈の構造は不明。耕作溝がかかるあたりが竈の中心とみられるが、袖石はない。あるいは北東隅付近の遺物が集中する浅い落ち込みが竈の可能性がある。ただし、調査時点では竈という認識はなかった。遺物は北東隅に集中するほか、全体的に分散し、北東隅では床面から下層にかけて出土している。床面を10~15cm程度掘り下げたところ、ビット状の掘り方が検出されている。

#### 20号竪穴（第21~23図、写真図版13）

調査区中央にあり、26号竪穴に切れられ、24号竪穴を切る。搅乱溝やいくつかのビットが重複することから全形が不明瞭ではあるが、4.0×4.2mの隅丸方形で、東壁中央南寄りに東竈をもつ。主軸方向はN=30°-E。確認面から床面まで14cmで、黒褐色砂質土を主とする。遺物は竈内、床面中央付近に少量分布する。竈は両袖に礫を立てた石組竈で、0.6×0.7mのビットを伴う。竈の背後にあたる東側に搅乱状の溝が存在するため、煙道付近の構造は不明となっている。周溝は南北壁に幅20~35cm、深さ10cm程度の溝が存在する。

#### 21号竪穴（第24図、写真図版13）

調査区中央、北壁寄りに位置し、搅乱溝、37~39・46号ビット、小ビットが多数重複するため、建物規模は不明瞭である。また19号竪穴の北西隣と接する。南北5.2mを測る隅丸方形竪穴で、主軸方向はN=16°-E。竈は東壁中央付近に痕跡があり、東竈と推定したが不明瞭である。確認面から床面までは10cmで、覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物は床面直上、中央付近にわずかに分布している。周溝は東壁から南壁の

一部に幅30~40cm、深さ10cmの溝が存在する程度で、全周していない。床下を掘り下げたところ、深さ約20cmで掘り方面が確認された。竈には袖石などなく粘土竈とみられ、焼土ブロックが上層に分布している。

#### 22号竪穴（第25図、写真図版13）

調査区東側、北壁寄りに位置する。58~62号ビットが重複し、竪穴の形態が分かりにくくなっているが、2.9×3.4mもしくは3.2×3.9mの範囲を本竪穴としておく。主軸方向はN=20°-E。周溝は西壁から北壁の一部にかけて存在するが、東壁から南壁にかけては存在しない。竈は未確認である。表土から確認面まで35cm、確認面から床面まで25cm（地表下66cm）で、覆土断面にはビットの断面が複数存在し、その下層には暗褐色砂質土などからなる覆土が残る。竪穴内には礎石状の石および石をもつビットが4箇所存在する。43・59・60号ビットではビット底面に礫が置かれており、東西1.4m、南北2.4~3.6mの長方形配置を呈し、深さ10~15cmの面に径15~30cm程度の礫が設置され、竪穴に伴う柱穴の可能性がある。遺物は西壁寄りの床面付近に少量が分布している。

#### 23号竪穴（第20図、写真図版13）

調査区中央、東側に位置し、北側に19号竪穴、南側に27号竪穴がある。3.4×3.4mの東壁が西壁に比べて短い隅丸方形で、主軸方向はN=3°-E。耕作溝や搅乱と重複する。周溝はなく、竈も検出されていない。確認面から床面まで23cmで、覆土は上から暗褐色砂質土、黒褐色土、暗褐色砂質土からなる。床下の調査では掘り方面は2~3cmとごく浅く、掘り方構造がほとんど認められなかつた。

#### 24号竪穴（第21~23図、写真図版14）

調査区中央に位置し、20号竪穴に北東を切られるほか、17・20号竪穴、7・8号土坑、46号ビットなどが重複する。3.3×3.9mの南北にやや長い隅丸方形で、東壁の一部を除き、幅30cm、深さ数cmの周溝が巡る。主軸方向はN=4°-E。竈は未確認だが、東壁の46号ビットおよび搅乱溝付近に本来あった可能性がある。確認面から床面までは数~10cmと浅く、覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物は床面近くから数点出土しているにすぎない。床面を掘り下げたところ、15cm下がって掘り方面が検出された。

#### 25号竪穴（第10~12図、写真図版14）

調査区中央、南壁にかかるように位置し、11号竪穴に西側半分程度、17号竪穴に東壁を切られるほか、耕作溝の搅乱が東壁付近に及んでいるため、北から東壁の一部および北東側を中心とした床面、2.6×1.7m

の範囲を検出した。したがって堅穴の規模は不明。また竈も未確認である。主軸方向は N-11°-E。11・17号堅穴を調査したところ、その間に25号堅穴が確認されたものである。床面までは地表下70cmで、覆土は黒褐色砂質土、暗褐色砂質土からなる。中央床面に30×30cmの台石状の礫が遺存するほか、遺物はほとんどない状態である。床面を下げたところ、中央付近に連結した溝状の掘り方が検出された。

### 26号堅穴（第21-23図、写真図版14）

調査区中央に位置する。20号堅穴を切り、9号堅穴に切られるほか、いくつかのピットや耕作溝が重複し、堅穴の形状は不明瞭となっているが、東西推定30m、南北3.3mの小形隅丸方形で、主軸方向は N-23°-E。竈は未確認。周溝は北・東・南壁に幅30~40cm、深さ10cm程度の溝が存在し、西壁にはない。遺物はNo付が1点とごく少ない。床下面を数cm掘り下げたところ、浅い掘り方が検出されている。

### 27号堅穴（第20図、写真図版14・15）

調査区東側に位置し、北側に23号堅穴がある。擾乱坑や4号土坑、63号ピットに切られる。3.5×3.6mの隅丸方形で、西壁が東壁よりやや短い。主軸方向は N-20°-E。壁よりも内側に周溝があり、東壁を除き断続的に幅15cm、深さ数cmの溝が巡る。竈は未確認だが、東壁際にある遺物が集中したピット状遺構が竈の可能性をもつものがある。確認面から床面までは15cmで、覆土は黒褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土などからなる。遺物は東壁のピット状遺構内のほか、床面にわずかに散布する。

### 28号堅穴（第26図、写真図版15）

調査区東側、南壁寄りにあり、北側に27号堅穴がある。耕作溝に切られるほか、東隅を26号土坑が重複する。確認面では東西3.8m、2.6mと東西に長い隅丸長方形プランとして確認されたが、掘り下げたところ東西2.7×南北2.6mの小形隅丸方形堅穴で、東壁の中央やや南寄りに東竈をもつ堅穴として検出された。主軸方向は N-36°-E。周溝は竈から南隅の一部を除き全周し、幅20~30cm、深さ数cmを測る。確認面から床面まで30cmで、覆土は黒褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土からなる。竈東側の空間は確認面から床面まで15cmで、堅穴との切り合い関係ではなく、一体化した施設とみられる。遺物は南壁寄り、覆土中位に分布する傾向が認められた。竈は50×70cmの楕円形の落ち込みを伴い、中央には長さ20cmの支脚石が立つ。しかし袖石は一切ないことから粘土竈の可能性がある。煙道はなく、竈は東壁ラインに収まっている。東

側の掘り込みがどのような施設であったか不明ではあるが、特に硬化面はないものの、堅穴に付属した掘り込みといえる。掘り方面には柱穴状のピットが複数検出されたが、本堅穴の柱穴ではないと考える。

### 29号堅穴（第27図、写真図版15）

調査区東側、南寄りにあり、東西4.4m、南北2.7mの東西に長い隅丸長方形を呈し、搅乱溝やいくつかのピットに切られている。主軸方向は N-4°-E と大きく東傾する。壁の傾斜は緩やかで、周溝はない。確認面から床面までは25cmで、覆土は黒褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土を主とし、床面中央には1.6×1.5mの範囲に20数個の礫が集石状にまとまっている。礫分布は平面的で、積み重ねた様子や意図的に組んだような構造はない。竈は未確認。遺物はほとんど出土していない。貼り床構造はなく、掘り方面の調査は行っていない。通常の堅穴住居ではなく、いわゆる堅穴状遺構である。時期を示す遺物がなく、平安末以降と考えられる。

### 30号堅穴（第27図、写真図版15）

調査区東側、南東隅寄りに位置する。3.0×3.0mの小形隅丸方形の堅穴で、主軸方向は N-41°-E。数本の耕作溝によって斜めに搅乱されているため、一部欠失した部分があるほか、東の隅には25号土坑が切っている。竈は南隅にコーナー竈をもつ。幅20cm、深さ数cmの周溝が竈を除く壁際に断続的にある。確認面から床面までは15cmで、黒褐色砂質土を主とした覆土となる。遺物は竈付近からわずかに出土したのみ。竈は南東隅の1.5×1.1mの楕円形ピットで、いくつかの焼土ブロックを伴う。石はなく、粘土竈の可能性がある。床面を下げたところ、わずかに下がって掘り方が検出された。

### 31号堅穴（第28図、写真図版16）

調査区東端、東壁寄りに位置する。搅乱が著しく、堅穴の形態、規模は不明瞭であるが、北・東・南壁とみられる段差をもって堅穴と判断した。堅穴規模は3.1×3.0m程度。ただし、堅穴ではない可能性も大いにある。主軸方向は N-30°-W で、他の堅穴が東傾するのに対し、本例のみは西傾している。確認面から床面までは深さ25cmで、黒褐色砂質土を主とする覆土となる。周溝・竈はない。遺物は搅乱内出土を含め少なく、本遺構に伴うかどうか定かではない。床下掘り方面的の調査は行っていない。

### 32号堅穴（第28図、写真図版16）

調査区東側、中央に位置する。耕作溝に切られ全形は不明だが、南北2.9mの小形隅丸方形とみられ、主軸方向は N-12°-E を示す。確認面から床面までの深

さは20cmで、覆土は黒褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土などからなる。周溝はない。床面直上からは礫が出土したのみで、遺物は皆無である。

#### 1号土坑（第28図、写真図版17）

17号堅穴東壁および堅穴覆土中を切る土坑で、長さ23m、幅0.88m、深さ0.17mの長方形土坑。主軸方向はE-15°-W。土坑墓とみられる。

#### 2号土坑（第28図、写真図版17）

調査区中央、27号堅穴西側、南壁寄りにあり、5・6号土坑と重複する。6号土坑との前後関係は不明瞭であったが、一応6号を切るとみておく。長さ1.6m、幅0.7m、深さ0.5mの長方形土坑。主軸方向はE-7°-W。

#### 3号土坑（第29図、写真図版17）

24号堅穴南壁付近に位置する東西方向の土坑で、西側を7号ピットに、東側を搅乱溝に切られる。長さ1.64m、幅0.72m、深さ0.17mの長方形土坑で、主軸方向はE-8°-W。

#### 4号土坑（第28図、写真図版17）

27号堅穴の東壁を切って存在する土坑で、2・5・6号土坑の東側にあり、土坑群を形成している。長さ2.1m、幅0.8m、深さ0.13mの長方形土坑で、北側にピットが重複したような形態を示す。主軸方向はN-8°-E。

#### 5号土坑（第28図、写真図版17）

2・6号土坑と重複する。長さ1.95m、幅0.6m、深さ0.53mの長方形土坑。6号土坑との前後関係は不明瞭だが、6号を切るとみられる。主軸方向はE-7°-Wで、2号土坑とは併行するが、2号土坑よりも長い。

#### 6号土坑（第28図、写真図版17）

2・5号土坑と重複する南北方向の長方形土坑で、南端が5号土坑に切られるため不明であり、長さは1.5m以上、幅0.73m、深さ0.45m。主軸方向はN-17°-E。

#### 7号土坑（第22図、写真図版17）

20・24・26号堅穴を切る土坑。搅乱で一部切られるが、径1.45mの円形土坑で、深さ0.21m。

#### 8号土坑（第22図、写真図版17）

24号堅穴を切る径12×1.48m、深さ0.15mの円形土坑で、搅乱溝に切られる。

#### 9号土坑（第20図、写真図版17）

19号堅穴北東部分を切る土坑で、径1.82×1.9m、深さ0.38m。梢円形土坑を中心とした不整形の土坑。

#### 10号土坑（第10・29図、写真図版17）

17号堅穴北壁に切られる土坑で、円形土坑と不整形

の掘り方が重なる。長さ1.75m、幅0.8m、深さ0.26mで、底面近くから多数の土師器が出土している。

#### 11号土坑（第29図、写真図版17）

調査区東側、32号堅穴東に位置する径1.45m、深さ0.32mの円形土坑。もとは袋状を呈した土坑とみられ、壁が内湾している。

#### 12号土坑（第29図、写真図版17）

32号堅穴東側にあり、14・15号土坑等と土坑群を形成する。長さ2.05m、幅1.25m、深さ0.55mの長方形土坑で、主軸方向はE-8°-N。

#### 13号土坑（第29図）

調査区東、14号土坑東に接する径1.25×1.35m、深さ0.35mの円形土坑。壁が内傾し、もとは袋状土坑もしくはフ拉斯コ状土坑であったとみられる。

#### 14号土坑（第29図、写真図版17）

調査区東側の12・15・16号土坑付近にある径1.24×1.3m、深さ0.42mの円形土坑。底面近くの壁がわずかに内傾し、袋状土坑であったとみられる。

#### 15号土坑（第29図、写真図版17）

12・14・16号土坑付近に位置する円形土坑で、径1.4m、深さ0.42m。覆土にはロームブロックをやや多く含み、埋戻しされたとみられる。断面は底がやや丸みをもつ桶状。

#### 16号土坑（第30図、写真図版17）

径1.05×1.15m、深さ0.25mの円形土坑。覆土中より灰釉陶器が出土している。断面は桶状。

#### 17号土坑（第30図）

調査区東側、32号堅穴南東側にある土坑。長さ1.2m×1.35、深さ0.62mの梢円形土坑で、断面はボルル状。

#### 18号土坑（第30図、写真図版17）

調査区南東隅に位置する円形土坑で、径1.32×1.5m、深さ0.6m。断面はフ拉斯コ状を呈し、覆土は埋戻しされた堆積状況を示している。

#### 19号土坑（第30図、写真図版17）

18号土坑の西側にある円形土坑で、上端での径1.06×1.2m、深さ0.77mを測る。断面は袋状ないしはフ拉斯コ状。

#### 20号土坑（第30図、写真図版17）

調査区南東隅にあり、搅乱溝に切られるため半分程度の残存となる。径0.95m、深さ0.12mの円形土坑で、断面は皿状。

#### 21号土坑（第30図、写真図版17）

調査区南東隅にあり、搅乱溝に切られ、1/3程度を欠失した円形土坑。径1.12×1.18m、深さ0.2mで、

断面は皿状。

#### 22号土坑（第30図、写真図版17）

調査区南東隅の円形土坑で、径1.2m、深さ0.73m、断面形は底面中央に平坦な部分をもつ鍋底状。覆土中に礫の集石がある。

#### 23号土坑（第30図、写真図版17）

調査区南東の壁にかかった円形土坑で、約1/3は調査区外である。2重の円形の掘り込みがあり、上端で径1.48m、深さ0.87m。確認面まで0.54m、底面まで地表下1.4mを測る。円形土坑とピット状遺構の重複かと思われる。

#### 24号土坑（第31図）

30号竖穴西隅に重複し、東端を30号竖穴に切られる土坑として図示されているが、調査時に切り合いの前後関係は検討できなかった。長さ1.8m以上、幅1m、深さ0.17mの長方形土坑とみられる。中央を搅乱溝で切られている。主軸方向はE-3°-N。

#### 25号土坑（第27図）

30号竖穴を切る土坑。長さ2m、幅0.72m、深さ0.55mの長方形土坑で、主軸方向はE-2°-W。3層の泥土の状況から、ただちに埋戻しが行われた様子がうかがえる事例であり、墓坑とみられる。

#### 26号土坑（第26図、写真図版17）

28号竖穴北東隅に重複する。径1.2m、深さ0.62mの円形土坑で、断面はボル状。

#### 27号土坑（第31図）

16号土坑の南側にある円形土坑で、西壁を搅乱溝で切られている。径1m、深さ0.1mで、断面は皿状。

#### 28号土坑（第31図、写真図版17）

調査区南東隅の壁にかかる土坑で、全体の1/3程度を調査した。径1.2m、深さ3.4mで、断面ボル状。地表面から確認面まで0.5m、土坑底までの深さは0.82mとなる。

#### 29号土坑（第31図、写真図版18）

調査区東端、東壁寄りにある不整形土坑で、径1.7×1.95m、深さ0.16m。断面形は皿状を呈している。

#### 30号土坑（第31図）

調査区南東、壁にかかる土坑で、東端は壁にかかり、西端は搅乱溝、竪状溝に切られ、不明となる。現状では長さ1.35m以上、幅1m、深さ0.6mとごく浅く、長方形土坑とみられる。

#### ピット（第31～33図ほか、写真図版18）

柱穴程度の大きさで、土坑より小さなものもピットとしたが、土坑並のものもある。64基あり、個々の規模については表2を参照されたい。

#### 1号溝（第34図）

調査区西端、現農道沿いの南北溝。北端は北壁に統き、南端は西壁に斜めに潜っている。長さ10~16m、幅0.2~0.3m。溝方向はN-17°-Eで、さらに西側にも1本の溝があるが、番号は付けていない。調査区中央付近の搅乱溝とは明らかに区別でき、溝の密度、方向も異なる。なお、1・2号溝間の1・6号竖穴周辺には細かなピットが多数分布しているが、道としての痕跡の可能性がある。

#### 2号溝（第34図）

調査区西端、1号溝と平行する南北溝。北端、南端は調査区壁にかかる。長さ18m、幅0.35~0.4m、深

表2 大木戸遺跡ピット一覧表

ピットNo.	長径m	短径m	深さm	ピットNo.	長径m	短径m	深さm	ピットNo.	長径m	短径m	深さm
1ピ	0.84	0.77	0.23	23ピ	0.51	0.47	0.17	44ピ	1.69	0.86	0.16
2ピ	1.10	0.80	0.48	24ピ	0.80	0.75	0.18	45ピ	0.93	0.81	0.18
3ピ	1.62	0.92	0.28	25ピ	—	1.17	0.51	46ピ	0.23	0.19	0.19
4ピ	0.36	0.35	0.23	26ピ	0.70	0.63	0.32	47ピ	0.29	0.22	0.18
5ピ	—	0.82	0.08	27ピ	0.80	0.60	0.32	48ピ	0.48	0.30	0.17
6ピ	0.28	0.26	0.38	28ピ	1.07	0.54	0.47	49ピ	0.65	0.53	0.50
7ピ	(0.71)	(0.65)	(0.22)	29ピ	0.79	0.58	0.21	50ピ	(0.85)	(0.71)	(0.42)
8ピ	—	0.74	0.21	30ピ	0.57	0.55	0.26	51ピ	(1.02)	(0.86)	(0.31)
9ピ	1.20	0.93	0.29	31ピ	0.38	0.28	0.22	52ピ	—	0.63	0.04
10ピ	—	1.17	0.23	32ピ	0.47	0.26	0.11	53ピ	—	0.21	0.19
11ピ	0.89	0.81	0.15	33ピ	0.50	0.21	0.15	54ピ	0.62	0.59	0.24
12ピ	0.70	0.63	0.18	34ピ	0.21	0.19	0.23	55ピ	0.61	0.53	0.29
13ピ	0.95	0.89	0.24	35ピ	0.42	0.29	0.15	56ピ	0.69	0.65	0.14
14ピ	1.03	0.82	0.29	36ピ	0.20	0.17	0.20	57ピ	0.89	0.80	0.78
15ピ	0.92	0.85	0.45	37ピ	0.74	0.58	0.29	58ピ	0.59	0.50	0.23
16ピ	0.86	0.80	0.31	38ピ	0.81	0.70	0.21	59ピ	0.70	0.65	0.58
17ピ	0.95	0.82	0.39	39ピ	1.11	0.82	0.10	60ピ	0.36	0.29	0.29
18ピ	1.87	1.22	0.22	40ピ	0.45	0.41	0.26	61ピ	1.00	0.68	0.37
19ピ	0.66	0.55	0.27	41ピ	0.39	0.31	0.31	62ピ	1.09	1.06	0.77
20ピ	0.83	0.61	0.19	42ピ	0.24	0.23	0.20	63ピ	0.61	0.57	0.42
21ピ	0.63	0.56	0.18	43ピ	0.60	0.56	0.27	64ピ	0.73	0.67	0.34
22ピ	0.51	0.45	0.17								

さ0.1~0.15m。溝方向はN-12°-E。1号溝とは23~32mの間隔を開ける。1号溝同様、現代の擾乱溝よりは古く、1号溝と平行することから、1・2号溝間を道路跡とみておく。

## (2) 后畠遺跡

后畠遺跡は大木戸遺跡の西、約100m離れて設定された長さ112m、幅17~18mの長方形の調査区で、面積は1300m<sup>2</sup>。大木戸遺跡との間には千赤於川が南流し、川に面した岸壁100m間に試掘調査により調査の必要がないと判断されている。また后畠遺跡の西側は連続した調査区が存在するが、后畠西遺跡として后畠遺跡と同時に昭和測量株式会社により発掘調査が行われている。

后畠遺跡では千赤於川に近い東側に弥生末~古墳前期の堅穴2軒、奈良時代の堅穴2軒、平安時代の堅穴3軒、掘立柱建物跡1棟が検出されたほか、西端には蛇行する1号谷や、東西方向、南北方向の溝12本がある。

### 1号堅穴（第35~38図、写真図版21）

調査区東側、南壁外に堅穴の約1/3がかかり、堅穴北壁の北西側に3号堅穴が重複し、3号堅穴の南東隅をわずかに切っている。南北方向に主軸をもつ堅穴で、東西5.2m、南北4.5m以上を測る隅丸方形で、東壁が緩いカーブで膨らんでいる。北壁中央に北竈がある。地表下50cmで確認面となり、床面までは45cm（地表下90cm）を測る。主軸方向はN-0°-E。

覆土の土層は南北方向と調査区南壁断面の東西方向の2方向で確認した。覆土は黒褐色砂質土を主とし、下層は上層よりも黒味が強く、2層に分層できる。遺物は竈周辺および北東コーナー付近を中心全体的に分布し、層位的には耕作土下層から覆土上層にかけて出土し、床面遺物がほとんどないことから、埋没過程での遺物堆積とみられる。

周溝は竈および竈の西側脇をのぞき全周し、幅20~25cm、深さ15cmと明瞭に検出され、覆土には壁の崩土を含む黒褐色土が堆積していた。竈は1.2×1.2mで、粘土袖をもち、壁を約20cm掘り込んだ構造で、煙道はほとんどない。長さ0.5~1.0m、幅20~50cmの粘土袖にはさまれた燃焼部は、0.6×0.5mの範囲が窪んでいる。支脚石はない。焼土層は燃焼部手前の焚口側に存在した。床面は全体に硬く、薄い貼り床となる。床面を数cm除去したところ掘り方となり、堅穴コーナー部などに掘り方の窪みが認められた。

### 2号堅穴（第38~40図、写真図版21・22）

調査区東側、11号溝近くに位置する。北壁北東隅寄りにある竈周辺は擾乱が著しいものの、断続的に遺存する壁から堅穴の規模はわかる。4.6×4.5mの隅丸方形で、周溝は東・南壁および西壁の一部に存在する。主軸方向はN-1°-Wで、ほぼ北方向を向く。覆土は灰褐色土を主とし、確認面から床面まで15~30cmを測る。床面は西半がやや窪み、擾乱が床面全体に及んでいるようである。遺物は竈東側の北東隅にまとまっているほか、西壁側に散在する。竈は擾乱により大に欠失し、構造や規模は不明だが、石が出土していないことから石組袖ではなかったとみられる。

掘り方面を掘り下げたところ、床面中央を16×2.0m程度に四角く掘り残し、四周を浅く全体に掘り窪めた状況が検出された。

### 3号堅穴（第35~37図、写真図版22）

調査区東側に位置し、1号堅穴に南東隅を切られるものの、ほぼ全形を留めている。東西5.3m、南北4.8mの隅丸方形の堅穴で、東西にやや長く、主軸方向はN-15°-E（E-15°-S）。柱穴は4本（49~52号ピット）があり、径約30~50cm、深さ約30~40cmを測り、いずれも小規模である。床面を強めに削平し確認したもので、柱穴覆土は暗褐色土の1層のみで、柱痕はない。炉は確認できなかった。また周溝はない。

覆土は黒色土と暗褐色土の2層で、暗褐色土は上下2層に分層できる。確認面から床面までは14cmと浅く、床面はあまり硬くない。遺物は東壁寄りで床面直上より完形の壺が出土し、また北東コーナー付近では床面よりやや浮いて小形甕が出土しているが、そのほかに同化できる資料はなく、全体的には出土量は少ない。床面には明瞭な貼り床はないが、床面を数cm掘り下げたところ、東壁から南壁にかけて浅い掘り方が存在した。

### 4号堅穴（第40~42図、写真図版22・23）

調査区東側、南壁にかかるように検出された。5号堅穴の南西を切る。東西3.7mの隅丸方形で、北壁中央に北竈をもつ。主軸方向はN-17°-E。周溝は明瞭で、竈の部分を除き全周し、幅20~30cm、深さ15cmを測る。地表下60cmで確認面となり、床面までは50cm（地表下1.05m）あり、覆土は上層に暗褐色砂質土、下層に黒褐色砂質土、壁際に逆三角堆積土が認められる。遺物は床面直上にはほとんどなく、約20cm程度浮いたあたりに散在する。竈は粘土袖で、壁際に粘質土ブロックが50cmの間隔を開けて存在し、その間には下層に焼土層が厚く存在した。煙道は北側に40cm程度突出する。床面を掘り下げたところ、竈周辺などに浅い掘

り方面が検出された。

#### 5号竪穴（第40~42図、写真図版23・24）

調査区東側、南壁近くにあり、4号竪穴に切られ、南壁西側を失うが、南壁の一部が残る。東西5.4m、南北4.5mの東西にやや長い隅丸長方形の竪穴で、床面には炭化材が遺存することから火災住居である。主軸方向はN-35°-E。柱穴は4本存在し、32m×22mの長方形に配置している。柱穴は直径30~40cm、深さ25~30cmとやや細く浅い。西側の柱穴に寄るようにならうに68号ピットが存在する。直径0.7×0.8m、深さ15cmで、東側に柱穴状のピットがある。覆土中には焼土層はなく、炉底は被熱していないが、炉が存在する位置にあり、一応炉と考えておく。竪穴覆土は炭化物を多く含んだ暗褐色土を主とし、確認面から深さ25cmを測る。周溝はなく、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。北西隅には61号ピットが竪穴を切る。遺物は北西隅、北東隅、西壁中央付近の3ヶ所に群在する。北西隅、北東隅の土器群は床面上直上からの出土で、北東隅に貯蔵用の壺や高杯、北西隅には煮沸用の台付甕が出土した。炉から遠い位置に貯蔵用、近い位置に煮沸用土器が出土していることから、土器の出土位置は原位置を保っているとみられる。西壁中央の土器群は覆土中位からの出土である。床面には炭化物が分布し、北東隅の土器付近などには大型の炭化材が遺存した。床面は全体に数cm程度下がって掘り方面となり、いくつかの小ピットが出ている。

#### 6号竪穴（第42・43図、写真図版24）

調査区東側、北壁寄りにある。2.7×2.7mの小形隅丸方形を呈し、竈は北壁、北東隅寄りに位置する。主軸方向はN-9°-E。擾乱坑に切られるなど、床面は遺存状況が悪い。確認面から床面までは数cmとごく浅く、覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物は北西側にわずかに散布する。竈付近も擾乱を受け、規模など明瞭ではないが、壁を約30cm掘り込んだ0.8×0.8m程度の規模で、石組はないことから粘土竈とみられ、煙道はほとんどない。床下は掘り方面までは数cm程度で、壁際がやや広く下がって掘り方面となる。

#### 7号竪穴（第43図、写真図版25）

調査区東側、北壁にかかる。6号溝や擾乱坑を掘り下げていく中で東、南、西壁の段差が確認された。北壁は調査区壁にかかり検出されなかつたが、3.3×3.4mの隅丸方形とみられる。主軸方向はN-5°-E。竈は未確認で、東壁にないことから北竈の可能性がある。地表下30cmで床面となり、壁の段差は10~15cm程度である。調査区北壁セクションによれば、覆土はほと

んど遺存せず、煙の耕作土が床面まで及んでいる。

#### 1号掘立（第44図、写真図版25）

調査区東側、5号竪穴北側にある東西2間、南北2間の側柱式の掘立柱建物跡。柱穴は北側東西方向に西から42・55・66号ピット、南側東西方向に西から40・34・67号ピットがあり、その中间には西側に59号ピット、東側に41号ピットを配置する。南側中央の34号ピットは、40・67号ピットをつなぐ直線上からは柱1本分南側にずれているが、北側の55号ピットと対応した柱穴とみておく。調査時点では60・67号ピットの線上に2つの落ち込みがあることから、3間を想定したが、やや浅い等の理由でそれらは柱穴ではないという判断に落ちている。また60・67号ピットより南に柱穴列が延びることも想定して精査を繰り返したが、柱穴列としてのピットは確認できなかつたため、2間×2間の建物跡とした。東西4.3m、南北4.5mの方形配置となる。主軸方向はN-8°-E。これらの柱穴は径70~80cmで、深さ40~50cmで、34・55・59・60・66号ピットは平面形が隅丸方形に近く、そのほかは円形である。柱穴間距離は心内で2.0~2.2m。柱穴内覆土は66・67号ピット断面に黒褐色土の柱根状堆積が確認されたが、それ以外には認められていない。図化遺物はないが、1・4号竪穴との位置的関係、主軸方向の類似性から奈良時代と推定しておく。

#### ピット

計73本あり、2・4号竪穴や1号掘立柱建物跡の柱穴も含んでいる。個々のピットの規模については表3を参考。

#### 1号溝（第48図、写真図版26）

調査区東側、中央寄りに位置する南北方向の直線的な溝。調査区をやや西傾斜で斜めに通る直線的な溝で、長さ20.6m、幅1~2.3mを測り、南北両端はそれぞれ調査区壁にかかっている。北寄りに12号溝が直交し、南端では4号竪穴と接する。溝の方向はN-12°-W。南端では確認面まで60cm、溝の深さは45cm。中央のセクション面では幅2.2m、深さ1.2mだが、下層の7層（灰白砂層）は地山の可能性があり、7層上層に南壁と対応する落ち込みがある。

#### 2号溝（第51図、写真図版26）

調査区中央、9・10号溝東側、南壁寄りに位置する長さ52m、幅1.2mの溝状造構で、2つの溝状造構が連結した状況を呈し、風倒木痕の可能性がある。

#### 3号溝（第51図）

調査区中央、北寄りにあるほぼ直線的な東西溝で、9・10号溝とはほぼ直交する。長さ14.4m、幅0.4~1m、

表3 后烟遺跡ピット一覧表

ピットNo.	長径m	短径m	深さm	ピットNo.	長径m	短径m	深さm	ピットNo.	長径m	短径m	深さm
1ピ	0.77	0.54	0.52	26ピ	0.91	0.65	0.19	51ピ	0.24	0.24	0.38
2ピ	0.53	0.37	0.31	27ピ	0.72	0.62	0.33	52ピ	0.52	0.36	0.35
3ピ	0.93	0.70	0.38	28ピ	0.27	0.25	0.18	53ピ	0.84	0.66	0.34
4ピ	0.68	0.58	0.27	29ピ	0.59	0.48	0.26	54ピ	0.53	0.52	0.32
5ピ	0.36	0.31	0.15	30ピ	0.76	0.59	0.53	55ピ	0.71	0.69	0.56
6ピ	0.33	0.24	0.12	31ピ	0.80	0.66	0.55	56ピ	0.69	0.60	0.31
7ピ	0.37	0.31	0.16	32ピ	0.80	0.67	0.39	57ピ	0.79	0.68	0.22
8ピ	0.30	0.28	0.09	33ピ	1.01	0.93	0.43	58ピ	0.81	0.73	0.54
9ピ	0.36	0.33	0.27	34ピ	0.93	0.79	0.40	59ピ	0.79	0.71	0.41
10ピ	0.63	0.54	0.28	35ピ	0.32	0.28	0.25	60ピ	0.81	0.76	0.46
11ピ	0.36	0.31	0.16	36ピ	0.39	0.37	0.21	61ピ	0.76	0.70	0.66
12ピ	0.31	0.29	0.21	37ピ	0.43	0.42	0.24	62ピ	0.71	0.70	0.56
13ピ	0.42	0.38	0.13	38ピ	0.48	0.47	0.32	63ピ	0.82	0.35	0.22
14ピ	0.33	0.27	0.26	39ピ	0.49	0.42	0.24	64ピ	0.47	0.37	0.32
15ピ	0.33	0.33	0.31	40ピ	1.12	0.80	0.57	65ピ	0.26	0.25	0.22
16ピ	0.32	0.33	0.23	41ピ	1.02	0.88	0.33	66ピ	0.78	0.75	0.46
17ピ	0.33	0.30	0.28	42ピ	0.92	0.88	0.51	67ピ	0.64	0.60	0.43
18ピ	0.37	0.33	0.27	43ピ	0.78	0.60	0.56	68ピ	0.75	0.71	0.37
19ピ	0.46	0.33	0.18	44ピ	0.58	0.52	0.29	69ピ	-	-	-
20ピ	0.38	0.37	0.21	45ピ	0.55	0.45	0.30	70ピ	0.59	0.47	0.35
21ピ	0.45	0.43	0.14	46ピ	0.75	0.49	0.46	71ピ	0.44	0.38	0.28
22ピ	0.37	0.33	0.24	47ピ	0.61	0.63	0.29	72ピ	0.68	0.54	0.20
23ピ	0.58	0.57	0.27	48ピ	0.82	0.73	0.42	73ピ	0.59	0.56	0.28
24ピ	0.65	0.54	0.19	49ピ	0.34	0.27	0.46	74ピ	0.89	0.54	0.47
25ピ	0.64	0.55	0.19	50ピ	0.28	0.28	0.35				

深さ0.35 mで、東側は一端途切れで12号溝に続くとみられる。12号溝とは、接続部分付近でズレを生じているが、一体のものであった可能性がある。溝の方向はE-1°-W。

#### 4号溝（第50図、写真図版26）

調査区西側、1号谷東側に位置する直線的な南北溝で、幅24~4.2m、長さ18.5mを測る。地表下、確認面まで0.55m、確認面からの深さは0.6mで、覆土は褐色砂質土、黒褐色砂質土、灰黃褐色砂質土などからなり、やや多くの出土遺物があった。溝方向はN-8°-W。6号溝が東から連絡する部分があり、その対岸には溝内西側に集石がある。意図的にまとめられたものであり、例えば6号溝に取水するためにせき止めた集石と考えることもできる。

#### 5号溝（第50図）

調査区西側で4号溝西、1号谷東側にある南北溝。南北端は調査区壁にかかり、長さ18m、幅0.5~1mを測る。溝方向はN-8°-W。

#### 6号溝（第50図）

調査区西側の東西溝で、長さ11m、幅1~1.2m、深さ0.35 mを測る。西端は4号溝と連絡している。溝方向はE-5°-W。

#### 7号溝（第51図）

調査区中央西側、南壁沿いの溝状の落ち込み。東端は2号溝に連絡し、西端は南壁に斜めに潜っている。長さ22m、幅1.2~1.4mだが、調査区壁にかかるため正確な幅を捉えていない。溝方向はE-10°-W。

#### 8号溝（第51図）

調査区西側、4号溝と9号溝の間に位置する南北溝で、長さ6m、幅0.9 mを測る不整形ピットが連続したような溝状構造。南端は7号溝に連絡する。溝の向きはN-7°-W。

#### 9号溝（第51図、写真図版26）

調査区中央の南北溝で、10号溝と4°の開きをもつてほぼ併行している。溝の方向はN-2°-Wで、ほぼ南北方向を向く。南北端は調査区壁にかかり、長さ18mを測る。幅は0.3~0.9 m。

#### 10号溝（第51図、写真図版26）

調査区中央の南北溝で、9号溝とほぼ併行する。北端は調査区壁にかかり、南端は9号溝に切られるため、長さ14mを測る。幅0.3~0.6 mの狭い溝で、わずかに蛇行をみせる。溝方向はN-6°-E。

#### 11号溝（第49図、写真図版26）

調査区東端、川に面した低位面との段差に直線的な溝状段切があり、人頭大の円環を横長に1段のみ並べている。長さ18.3m、幅0.6~12m、深さ0.35~1.1mの地縦溝で、時期は近現代か。溝の向きはN-33°-W。

#### 12号溝（第48図、写真図版27）

調査区中央、北壁寄りの直線的な溝で、1号溝と交差する。溝の東端は調査区北壁に斜めに取り付き、西端は断続するが西側が3号溝へと続く様相をみせる。長さ16mで、3号溝と合わせると33mの長さがある。幅0.4~0.5 m、深さ0.25 mで、断面形はU字形を呈している。溝方向はE-8°-N。

### 13号溝（第49図）

調査区東側、15号溝に直交する直線的な南北溝。北端は15号溝と合流してT字形をなし、1号掘立と重複し、南端は5号竪穴隙にぶつかっている。長さ10m、幅0.5~0.7m、深さ0.15mで、溝方向はN-15°-E。

### 14号溝（第52図、写真図版27）

1号谷の西側に南北方向に存在する溝で、南北両端は調査区壁にかかる。直線的ではあるが、緩やかなカーブをもつ。長さ18m、幅約1mで、いく筋かの集合体であるが、まとめて14号溝として捉えた。断面形は皿状で、深さ0.3m。溝方向はN-9°-W。1号谷の流れと併行するようにみえる。覆土中には砂層を含むなど、流路であったことは確実であるが、1号谷が14号溝を切るように見えることから時間的に先行する可能性がある。また14号溝が自然流路か人工的な溝か、という点については、蛇行する点や断面形から自然流路の可能性があるとしておく。

### 15号溝（第49図）

調査区東、北壁寄りにある東西溝で、東端は調査区北壁にかかり、7号竪穴を切り、西端では12号溝と重複する。15号溝中央付近で南へのびる13号溝と交差するが、時期差をもつか同時期かどうかは不明。ほぼ直線的な溝だが、わずかに弓なりになる。長さ26.4m、0.5~1m。溝方向はE-6°-N。

### 1号谷（第52・53図、写真図版26）

調査区西端に位置し、蛇行しつつ南流する谷である。南北端は調査区壁にかかっているため、長さは調査区内の範囲、21m分の長さを調査した。谷の幅は11~14mで、調査区北壁では皿状の断面形を呈し、幅14m、深さ14m、地表下2mである。また南壁では幅11m、深さ2m、地表下25mのV字状の断面を呈し、最深部は溝中央付近となっている。規模の大きさや形状、堆積土の状況から人工的な溝ではなく、自然流路としての谷状地形（埋没谷）と判断した。当初、南壁に沿ってサブトレンチを入れて遺物の出方を探り、谷の大きさや形状をつかんだうえで谷の覆土を重機により掘削した。その過程で特に谷の西側、14号溝から谷の西側上層にかけて須恵器など多くの遺物が出土したが、谷の下層では目立った遺物があまり出土していない。また谷の下層は連続的な層の堆積を示し、どの層をもって底面として止めるべきか、判断がしにくい状況であった。この谷の西側、隣接調査区では谷をはさんで多数の竪穴群が検出されていることから、この谷が視覚的に集落の境界となっていたのではないかと考えられる。

## 第4節 遺 物

### 1号木戸遺跡

#### 1号竪穴（第54図、写真図版28）

1・4~11は土師器壺、2・3は土師器皿、12・13は土師器甕で、1・6は内面黒色処理を施す黒色壺である。土師器壺はいずれも口唇部が丸くのびた形を呈し、ロクロ成形、体部外面斜め手持ちヘラ削りとする。1が口径、器高ともに大形となる。4の底部外面に墨書「大川」、7の体部外面に底部側を上にして「□本」もしくは「斐」類似文字、11の体部外面に底部側を上にして「勿□」類似文字が書かれている。また2の皿内面には朱とみられる赤色塗料が付着するほか、3の底部外面に文字ではないが墨筆真がある。文字はいずれも細筆で繊細に書かれている。12・13のハケメ甕は寸胴で、口縁部が角口縁で肥厚する。全体的に10世紀前半代の土器群といえる。

#### 2号竪穴（第54図、写真図版28）

1は内面黒色の土師器壺。

#### 4号竪穴（第54図、写真図版28）

1は土師器の小形甕で、口縁部はごく短く、器壁は厚い。

#### 5号竪穴（第54・55図、写真図版28・39）

1~7は土師器壺皿類、8~11は灰釉陶器甕皿壺類、9・10は綠釉陶器甕、12~14は土師器甕、15は土師器置き甕、16は須恵器甕、17は砥石、18は鉈滓。

#### 6号竪穴（第55・56図、写真図版28・29）

1・2は土師器壺、3~5は土師器皿、6は土師器小形ハケメ甕、7は石帶である。これらの中でも3・5は口唇部が玉緑化し、とくに5は玉緑化が発達しており、1号竪穴遺物の混入かとみられる。1は内面に花弁状暗文をもつ手持ちヘラ削りの壺。2・3はわずかに口唇部が玉緑化しつつあるが、3の体部内面には屈折の痕跡が残り、古相を呈している。7は黒色の石帶（鉈尾）で、7×4.5cm、厚さ0.7cmの完形品。裏面には2孔1対で3ヶ所に紐留めの孔が開いている。上面、側面は非常に丁寧に研磨がなされているが、裏面は粗い整形痕を残している。8は24.5×20cmの台石で、北側周溝内からの出土である。

#### 7号竪穴（第56図、写真図版29）

1は内面に黒変部をもつ土師器壺。

#### 8号竪穴（第56・57図、写真図版29）

1は土師器黑色土器台付甕、2・3は土師器皿、4~7は土師器壺、8~10は土師器鉢。1は内面にヘラナデで暗文状とし内面を中心に黒色化した黒色土器。2~7はいずれも手持ちヘラ削りの甲斐型土器壺皿

で、口唇部は玉縁化しているが、1号堅穴と比較すると玉縁化はやや弱く、時間差があるとみられる。6は体部外面に底部を上にして書かれた墨書「吉」をもつ。8・9は口径39cmの大形のハケメ鉢で、口縁部は甕と同様に肥厚する。10は鉢底部であろう。

#### 9号堅穴（第57～59図、写真図版29・30・37）

1～13は土師器壺皿類、14～22は土師器甕、23・24は縁釉陶器碗、25は灰釉陶器碗壺類、26は須恵器甕、27～29は石器類、30・31は鉄製品である。土師器壺皿類は体部下半の手持ちヘラ削りがほとんど失われた甲斐型土器直後の土器群であるが、3・5・12にはわずかに手持ちヘラ削りが残る。口縁部の玉縁化は最盛期に比べると後退したようにみえる。底部はすべて回転糸切りのままである。1～6・12は壺、7～10は甕、11は大形壺、13は高台壺または皿であり、うち9は内面黒色甕。14・16・18は土師器甕、17は土師器小形甕、15は土師器鉢、19・20は羽釜、21・22は甕または羽釜の底部。甕鉢類は口縁部が肥厚し、器壁がやや厚みを増している。また18は頸部の括れを失いつつある甕である。また22の底部の肥厚帯はやや異質である。11の外面上には灯明皿に使用した際のタール状付着がある。27は磨石、28は砥石、29は磨り面をもつ叩き石。30は刀子で、長さ14.5cmあり、刃部長6.5cm、柄部長8と柄が非常に長い。31は板状鉄製品。

#### 10号堅穴（第59図、写真図版30・39）

1～6は土師器壺皿、7は小形甕、8は羽釜、9は置き竈、10は鉄釘角釘。土師器壺皿類は甲斐型土器直後の手持ちヘラ削りを消失した段階の土器で、ロクロ成形、底部回転糸切りとなる。器壁はやや厚く、口唇部には玉縁の丸味が残る。7は小形ハケメ甕で、器壁はやや厚い。9は胴部に円孔をもつ置き竈。

#### 11号堅穴（第60・61図、写真図版30・31）

1～17は土師器壺皿、18は土師器鉢、19・20・22は土師器羽釜、21は土師器小形甕、23は土師器甕または羽釜底部。土師器壺皿には壺（1～9・13・17）、甕（10～12・14～16）があり、手持ちヘラ削りをもつもの（4・6～9・13～16）、もたないもの（1～3・5・8・10・11・12）がある。また手持ちヘラ削りをもつものにも8のように底部の角から底面にかけて連続的にヘラ削りを行ったヘラ削りの簡略化傾向をもつ事例があり、手持ちヘラ削りの末期的様相を見ることができる。このように漸移的な様相を示している。1は黒色壺、17は大形の黒色甕である。18は口縁部と体部のつなぎがほぼ直線的になり、ハの字状に開く体部をもつハケメ鉢。20の羽釜は体部が丸く、鈎の部分が

断面三角形になる。21は口縁部が非常に短い小形甕。

#### 12号堅穴（第61・62図、写真図版31）

1～3は土師器壺皿、4～7は土師器甕。1は壺、2・3は甕で、口唇部が最も玉縁化した段階である。4～6は肥厚口縁のハケメ甕。7は小形のハケメ甕。

#### 13号堅穴（第62図、写真図版31・39）

1～7は土師器壺皿、8～10は土師器甕鉢、11は陶器鉢、12は鉄製品。土師器壺皿は手持ちヘラ削りをもち、口唇部が玉縁化した土器群で、1は甕、2～7は壺。これらのうち4は内面黒色処理された甲斐型壺で、通常よりもやや大形となる。2の体部外面には鋭利な釘状の先でつけた記号的な線刻文がある。8は口径17.5cm、器高15.5cmのハケメ甕で、内面のハケメは弱い。9は体部がハの字状になった鉢で、内面は幅広のヘラ状工具でなでている。

#### 14号堅穴（第63図、写真図版32）

1・2は土師器高台壺、3は灰釉陶器皿、4は須恵器甕。1・2はほぼ同形で、長い脚部をもつ皿形とみられる。

#### 15号堅穴（第63図、写真図版32・39）

1～8は土師器壺類、9は小形甕、10・11は土師器甕、12は土師器羽釜、13は灰釉陶器皿または碗、14は鉄製紡錘車。土師器壺類はいずれも甲斐型土器直後の手持ちヘラ削りを消失した段階で、口唇部には玉縁を残す。5は黒色土器壺で内面黒色処理が施されている。6は器壁が厚く、大形の塊。8は高台壺の底部付近。9は極小型といえる土器。10・11は括れが弱く、体部に直線的に移行する甕で、口縁部は肥厚する。12は鈎部が断面三角形で器壁が厚い羽釜。14は紡錘車のはずみ車の部分のみの円板。

#### 16号堅穴（第64図、写真図版32）

1～3は土師器壺で、甲斐型土器直後の様相を示す。2・3にはとくに内面に黒漆の付着が認められる。

#### 17号堅穴（第64図、写真図版32）

1は甲斐型土器直後の手持ちヘラ削りを消失した土師器壺、2は灰釉陶器碗、3は磨石。

#### 18号堅穴（第64図、写真図版32）

1・2・4・5・9は土師器皿、3・6～8は土師器壺、10は灰釉陶器碗。土師器壺皿は4が手持ちヘラ削りのない甲斐型土器直後の土器のほかはすべて玉縁化した口唇部が長くのがたものとなる。甲斐型土器最終段階の様相を示している。

#### 19号堅穴（第64・65図、写真図版32・33）

1は土師器壺、2・3は土師器皿、4は土師器高台壺、5～9は土師器甕・羽釜、10は縁釉碗または皿底部。

甲斐型土器皿（2・3）と甲斐型直後の坏（1）があり、また4は長脚の高台坏である。1には口唇部に3箇所のタール状付着があり、灯明皿として使われたことがわかる。5は堀、6～8は羽釜、9は小形甌底部で、羽釜には口径がやや大きいもの（7・8）と通常のもの（5）がある。6の羽釜の萼は完全に外れ、萼の接着面に胴部ハケメ痕が残る。

#### 20号豊穴（第65図、写真図版33）

1は土師器甌で内外面はハケメの弱いヘラでナデ調整を行っている。2は土師器坏。

#### 21号豊穴（第65・66図、写真図版33）

1・2は土師器坏、3～5は土師器甌・鉢。坏には手持ちヘラ削りが消失していることから、甲斐型直後といえる。

#### 22号豊穴（第66図、写真図版33・39）

1は鉢形土器で、器壁は非常に厚く、体部外面には多数の指痕による調整痕がみられ、内面はヘラナデ調整を行う。2は土師器坏で、口唇部にタール付着がみられる灯明皿。3は板状銅製品で、キセルを平らに潰したもの。

#### 24号豊穴（第66図、写真図版33）

1は土師質土器坏で、底部から体部下半の器壁はやや厚い。

#### 26号豊穴（第66図、写真図版33）

1は石器、撻文早期の長脚鍬で、押型文土器に伴う混入品であろう。

#### 27号豊穴（第66図、写真図版33）

1・2は土師器甌で、頸部は緩やかに外反し口縁部へと至る。内外面ともにヘラナデ調整を行う。2は山茶碗。

#### 28号豊穴（第66・67図、写真図版33・39）

1～7は土師器坏、8は土師器皿、9は黒曜石の石核。坏は口唇部が長くのびた玉縁となり、体部下半に手持ちヘラ削りをもち、底部は回転糸切りのち手持ちヘラ削りを行うが、いずれも糸切り痕を残したままヘラ削りをしている。9は混入とみられるが、后烟跡遺存でも7点の原石類が出土しているのが注目される。

#### 29号豊穴（第67図、写真図版33）

1は磨石。

#### 30号豊穴（第67図、写真図版34）

1・3は土師器坏、2・4は土師器皿、5は土師器小形甌。4は底部外面に線状の焼成後線刻をもつ。

#### 31号豊穴（第67図、写真図版34）

1は土師器小形甌、2は土師器甌。

#### 9号土坑（第67図、写真図版34）

1は土師質土器皿。体部外面に粘土板の合わせ目が残ることから、体部は粘土柱からの挽き出しではなく、粘土板を底部円板に載せるという成形技法とみられる。

#### 10号土坑（第67図、写真図版34）

1～3は土師器坏で、1・2の甲斐型直後に3の甲斐型土器が伴っている。1は内面黒色の黒色坏。

#### 16号土坑（第67図、写真図版34）

1は緑釉陶器皿の底部。

#### 13号ピット（第67図、写真図版34）

1は打斧。

#### 14号ピット（第67図、写真図版34）

1は土師器皿。

#### 15号ピット（第67図、写真図版34）

1は土師器高台坏または皿の底部。

#### 17号ピット（第68図、写真図版34）

1～3は土師器皿。4は内面黒色の黒色土器高台坏。

#### 19号ピット（第68図、写真図版35）

1～4は14号豊穴南西隅のピット内に2枚合わせで2セット出土した土師質土器坏で、2・3・1・4の組み合わせで出土し、3と1が身、2と4が蓋として用いられていた。口径は11.5～12cm、器高3～3.2cmとほぼ同じ法量を呈し、いずれも体部はやや直線的で、1・4は体部下半が直線的、2・3はやや丸みがあり、類似した土器をセットとして用いている。

#### 23号ピット（第68図、写真図版35）

1は打斧。

#### 37号ピット（第68図、写真図版39）

1は鉄滓。

#### 38号ピット（第68図、写真図版35）

1・2は土師質土器坏。

#### 45号ピット（第68図、写真図版35）

1・2は土師器坏で、うち1は内面黒色の黒色土器である。3は土師器高台坏の底部。

#### 遺構外（第68・69図、写真図版35・39）

1～4は土師器・土師質土器皿、5は土師器鉢、6・7は土師器甌、8は土師器羽釜、9は手捏ね土器、10は山茶碗坏、11は灰釉陶器小皿、12は灰釉陶器壺底部、13は須恵器壺底部、14は煙管、15・16は鉄製品で、16は刀子。

#### （2）后烟跡遺存

#### 1号豊穴（第70・71図、写真図版36）

1～5は土師器坏、6～13は土師器甌、15は土製紡錘車、16は石製砥石である。1・2は甲斐型坏で、底

径が大きく、やや深身であり、外面は体部下半を手持ちヘラ削りしたのち、主に上半中心として横方向のヘラナデをやや雜に行う。底部外面は手持ちヘラ削りののちヘラナデを行い、2では「十」の焼成後刻書がある。内面は見込部、体部内面ともに放射状暗文とする。3はいわゆる盤状坏で、器高は低く、底径は大きい皿状の坏。ロクロ成形ののち、内面はロクロナデを行い、暗文は描かれていない。底部外面には焼成後刻書「十」が認められる。4・5も刻書土器の例で、ともに底部内面に線刻があるが、部分的な破片のため、全体は不明である。いずれも文字というよりは記号的なものであろう。6～10は長胴で大形の甕、11～13は中形の甕、14は小形の甕である。器形は8・10・11が頭部を強く屈曲するのに対し、それ以外は丸味をもって曲げている。口縁部はやや長いものが多いが、とくに6は長く伸びている。9は角頭状の口縁断面を呈し、14は直線的に近い。内外面はハケメ調整を基本とするが、6の外面はハケメをもたないヘラ調整となる。また7の体部は上半で大きく丸く膨らむ特徴がある。15は2/3程度の破片であるが、推定径3.8cm、高さ2.3cmで、中央に推定径1cmの孔をもつ。16は小形砥石の破片。

#### 2号豎穴（第71図、写真図版36）

いずれも土師器で1は坏、2は鉢、3は小形甕、4は長胴甕である。1は底径が大きく、体部外面には横方向の密な放射状暗文、口唇部には横方向の暗文、内面見込部には放射状暗文、体部内面には横方向の暗文を描く。2は口径23cm、器高11.2cmの鉢で、外面は斜めヘラ削り調整とし、内面は目の粗いハケメ調整をしている。3は口径17.2cm、器高15cmの小形ロクロ甕で、外面は縦位ヘラナデとする。4は内外面ハケメ調整の甕で、底部外面には木葉痕をもち、底部に近い外面はヘラナデとし、上半を縦位ハケメ調整とする。器壁がのちの長胴甕よりも厚く、胸部が円筒形に近く、ずんぐりしているのが特徴的である。

#### 3号豎穴（第72図、写真図版36）

1は東壁寄り中央付近の床面直上で出土した完形の 小形甕形土器。頭部に段をもつ口縁の平底甕で、高さ13.8cm、口径11.6cmを測る。2は小形甕で、内外面にハケメ調整痕をもち、口唇部にはハケメと同一工具で施文された連続刺突文をもつ。

#### 4号豎穴（第72・73図、写真図版36・39）

1～4は土師器、5は須恵器甕、6は砥石。1はロクロ成形の深身の坏で、底部はやや丸みをもち、体部外面は縦方向の密な暗文を描く。2は小形甕、3は大形のハケメ甕。2は器高が短く、内外面はヘラ調整さ

れている。3は口縁部の屈曲が弱く、緩やかに聞く鉢形に近い甕。4はロクロ成形とみられる長胴甕で、ハケメ調整痕はない。6は須恵器甕または甕口縁部。6は長さ8.6cmの砥石。7～13は黒曜石の原石。繩文時代の混入品とみられる。

#### 5号豎穴（第73・74図、写真図版37）

弥生から古墳への移行期の土器群。1～3は台付甕、4・5は長胴甕、6～8は甕、9は高坏、10・11は塊形土器、12は甕。1～3はほぼ同形のハケメ調整の台付甕で、胸部中央に最大径をもち、丸く膨らんだ球形体部を呈し、口縁部は緩やかに大きくなる。底部は小さく、台をもつ。1・3がほぼ同じ大きさで、2は小型である。3は口唇部に連続刺突文をもつが、1・2はもない。4・5の長胴甕は混入品とみられるが、ともに頭部に丸味をもち、口縁部は水平に聞く。4は肩が張り、ヘラナデ調整をもつ。6～8は外面ヘラ磨き調整による甕で、6は単純口縁、7は折り返し状口縁となり、口縁部には蓋を固定するためとみられる2孔1対の細い穴が開いている。9は高坏の脚でヘラナデ調整を行う。10～12はやや厚い底部に直線的に聞く体部をもつ碗形を呈し、横または斜めのヘラ磨き調整をもつ。12には底部中央に径0.8cmの孔をもつ甕だが、器形は10・11と同じである。

#### 6号豎穴（第74図、写真図版37）

1は無文完形の土製紡錘車。直径4.7cm、高さ2.3cmを測る。中央に径1cmの孔をもつが、孔断面が直線的ではなく、中央が狭くなっている。

#### 7号豎穴（第74図、写真図版37）

1は土師器坏。

#### 1号溝（第74図、写真図版37）

1・2は繩文時代の打斧。

#### 3号溝（第74図、写真図版37）

1は押型文土器底部で、丸く突出した尖底土器外面には捺印押型文が施文され、底部先端は磨耗する。

#### 4号溝（第75図、写真図版37～39）

1は土師質土器、2は内耳土器、3は山茶碗、4は古瀬戸四耳壺、5～7は渥美甕、8は青磁碗、9～11は打斧、12は棒状鉄製品、13は銭貨「元豊通宝」であり、全体的にみて中世の遺物がみられ、調査区北側に位置する中村氏屋敷との関連性が指摘できる。

#### 11号溝（第75図、写真図版39）

1は鉄製角釘。

#### 14号溝（第75～77図、写真図版38）

1～4は土師器坏、5・6は土師器皿、7～10は灰釉陶器皿、11は灰釉陶器甕、12～21は須恵器甕または

甕、22はミニチュア土器、23は砥石。1・2は内面に放射状(花弁状)暗文をもつ坏で、体部外面は手持ちヘラ削りとし、1には外面底部寄りに墨痕が認められ、2には体部外面中央に墨書「倉」が書かれている。3は底部に削り出し高台をもつ内面花弁状暗文の坏で、体部外面は回転削りのうち横位ヘラ磨きを行う。4は内面花弁状暗文、外面横位暗文の坏。6は底部外面に墨書「若」をもつ。22は高さ3cmの小形円筒形の手握ね土器。

#### 40号ピット(第77図)

1は绳文中期中葉の土器片。2は打斧。

#### 62号ピット(第77図)

1はハケメ調整の土器器小形甕。2は須恵器高台坏。

#### 72号ピット(第77図)

1は土器器坏。

#### 1号谷(第77図、写真図版38)

1～4は土器器坏、5・6は土器器甕、7は灰釉陶器甕、8は灰釉陶器皿、9は須恵器壺G類、10は打

斧。1は器高が低く、口縁が大きく開く坏で、体部外面は連続指頭痕と手持ちヘラ削りがみられ、異質な土器器である。2は底径が大きく、器高の低い坏で、底部外面はヘラ切りのうち周辺手持ちヘラ削り調整が行われ、「小川」とみられる墨書文字がからうじて判読できる。3は1に類似した器形だが、内面の暗文はなど、調整技法が異なる。4は内面に密な放射状暗文、外面に手持ちヘラ削りのうち横位暗文を施す。

#### 遺構外(第78図、写真図版38)

1は内面見込部に放射状暗文、体部外面に縱位暗文、内面に横位暗文、底部には平行した暗文をいずれも密かつ丁寧に施しした深身の坏で、甲斐型初期にあたる。底部外面には「奉」とみられる焼成後線刻文字がある。2は柱状高台皿の高台部。3は陶器碗。4は青磁碗。5は绳文中期末・曾利V式土器。6・7は绳文早期押型文土器。8は绳文中期初頭の口縁部内面に角押文をもつ浅鉢。9～11は磁器製の環で、側面、上面には「25」「三五」の数字が書かれている。12・13は打斧。

表4 大木戸遺跡土器・陶磁器観察表(長は長石、雲は雲母、角は角閃石、石は石英、花は花崗岩、赤は赤色粒子、白は白色粒子、黒は黑色粒子の略)

頭	地	施	様	時	口・底・高	様法	色	施成	施主	注記	備考	
54	1	土	無	平安	16.8/1.9/4.4	外削内磨、底切削	外縁、内底、良	赤・白	179	田辺部、内底黒色		
54	1	土	無	平安	(12.0)/4.0/3.6	外底削り	底、良	赤	[K]203-213	7周付、内面赤系、底黒帯		
54	1	土	無	平安	(13.0)/5.0/4.2	外削内、底切削	底、良	赤	[K]199-212	1周付、底赤、底黒帯		
54	1	土	無	平安	(11.2)/4.0/4.15	外削内、底切削	底、良	赤	[K]122-1123	4周付、底黒帯(大川)		
54	1	土	無	平安	(12.2)/4.6/4.1	外削内、底切削	明赤端、良	赤・長	181+K193・カワ・903・カワ	7周付		
54	1	土	無	無彩色	(5.0)/0.6/0.7	外削内、底切削	外縁、内底、良	赤・長・黒端少	187	4周付、内底黒		
54	1	土	無	平安	(14.0)/4.4/4.5	外削内、底切削	外縁、内底、良	赤・長	113+209	約5周付、内面黒、底黒帯、外 底黒帯(?)		
54	1	土	無	平安	(12.0)/5.0/3.8	外底削り	次底付、良	赤・長	175+177	3周付		
54	1	土	無	平安	(11.2)/4.0/4.3	外底削り	次底付、紅縁	赤・赤	162+163・ショウ・1テ	約7周付、内面黒		
54	1	土	無	平安	(1.8)/-/-4.0	外削内	良	赤	161+164	2周付		
54	1	土	無	平安	(5.1)/-/-	外底削り	良	赤・長	110+112	6周付、休表面黒帯(?)		
54	1	土	無	平安	(68.6)/-	内外ハッキ	加刷一赤端、良	赤・黒	[K]112+・底下	外縁黒帯		
54	1	土	無	平安	(62.0)/-	内外ハッキ、内底削	赤・白端、良	赤・黒	172	内面黒帯		
54	1	土	無	無色灰	(10.8)/-	底赤切	外縁、内底、良	赤・黒	37	内面黒		
54	1	土	無	小形甕	平安	0.4/0.0/-	内面ハッキ、内ナナ	外明赤、内底、良	72	内面変色		
54	1	土	無	平安	12.5/3.6/2.2	底赤切	付、良	赤・長・黒	[K]139	元形、内面薄く変色		
54	2	土	無	平安	14.9/3.4/3.8	底赤切	根、良	赤・白	110+112+216+5テ	5周付、内面薄く変色		
54	2	土	無	平安	(12.0)/6.0/1.8	底赤切	明赤端、良	赤・長	118	4周付		
54	4	土	無	平安	(13.0)/7.0/1.8	底赤切	明赤端、黄端	赤・長	99+5テ	3周付		
54	5	土	無	平安	(14.0)/7.4/5.0	底赤切	明赤端、良	赤・長	116	2周付		
54	6	土	無	平安	(11.4)/-/-	外削内	根、良	赤・長	107+109+底下	7周付		
54	6	土	無	高台杯	平安	(11.0)/-	底赤付高台	根・一赤端、良	125	底赤外縁黒帯?		
54	6	土	無	平安	(14.0)/8.0/0.48	底赤切付高台、内底削	付赤、良、細縫、良	赤・白	219+220	2周付		
55	10	土	無	平安	-/-/-	外周削り、外面施擦	付赤、細縫、良	赤・白	131+132	2周付		
55	11	土	無	平安	(37.8)/-	外底削付高台、内底削	付赤、良	赤・黒	133	付赤		
55	12	土	無	平安	36.0/-/-	内外ハッキ	赤端、良	赤・黒	[K]2141	外縁赤端		
55	13	土	無	小形甕	平安	0.8/0.0/-	内面ハッキ	外縁赤端、内底、良	赤・赤・石・角	113+5テ	内面黒	
55	14	土	無	平安	(1.8)/-/-	内ハッキ、内ナナ	赤端、良	赤・角	129+~124+5テ	内外面、底黒、底部灰付		
55	15	土	瀬き鑑	平安末	(20.0)/-/-	内外ハッキ	根・良	赤・黒・黒	96・カワ・425・底下133	内外面黒		
55	16	土	無	平安	(66.0)/-/-	ナナ	良	白	121+底下1187	内外面黒		
55	17	土	無	平安	(11.5)/-/-	外削内、内底削付赤端々	明赤端、良	赤・白	205+166・ショウ・底下	約5周付		
55	2	土	無	平安	(0.0)/4.0/4.0	外削内	根、良	赤・白	ショウ99	約3周付、開溝出土		
55	3	土	無	平安	12.9/4.1/2.8	外底切削	赤端、良	赤・黒・黒	1014+101+カワ	11E充形		
55	4	土	無	平安	(12.0)/9.0/1.9	外底削り	黄端、良	赤・白	1013	2周付		
55	5	土	無	平安	(8.6)/5.0/3.6	内底削	根、良	赤・黒	[K]202	8周付		
55	6	土	小形甕	平安	(15.4)/-/-	内外ハッキ	根、良	赤・黒・角	ショウ1009+6テ	内外面黒		
55	7	土	無	平安	(12.0)/-/-	ナナ	根、良	赤・黒	カワ	11E充形、内外面黒		
56	8	土	高台	平安	12.2/2.6/2.8	内底削付ベナナ、底高台	底・黄端・赤・根、良	赤・白	243+17+964	8周付、内面黒		
56	9	2	土	無	平安	12.1/3.8/2.4	外底削り	良	253	充形		
56	9	2	土	無	平安	11.8/5.0/2.3	外底、削り	明赤端、良	赤・白・石	221+225K・252・カワ・599	7周付	
56	9	4	土	無	平安	14.3/-/-	外削内	赤・黄端、良	赤・白	229+31+254+タテ・147	内外面黒	
56	9	5	土	無	平安	(13.0)/4.3/4.0	外底削り	赤・黄端、良	赤・白	235+36+238+240+8テ	6周付	
56	9	6	土	無	平安	(12.7)/4.3/4.0	外底削り	根、良	赤・白	605	6周付、休表面黒帯書「吉」	
56	9	7	土	無	平安	(14.6)/-/-	外削内	根、良	赤・白	223	外面黒	









表10 后畠遺跡土製品観察表

図版	地点	No.	種別	時期	長/幅/厚cm 口/底/高cm	重さg	整形技法等	色調・焼成	胎土	注記	備考
71	1塚	15	新鋸車	奈良	3.5/1.5/0.8	14.1	ナデ	黄い黄褐色、良 相へ高い黄、やや 不規	白・黒・赤・青	1997	3削残、底1.0cmの孔
74	6塚	1	新鋸車	平安?	4.6/4.5/2.1	46.0	ナデ		長・黒	底1846	9削残、孔径0.9cm
77	14塚	22	手ねじ器	平安?	2.4/2.7/2.9	29.1	型抜き?	黄い黄褐色、良	長・角・黒	2056	9削残、内面円筒形の型 抜き底、底中央に穿孔 「三五」
78	遺構外	9	器皿輪	近代	3.5/3.5/1.0	12.4	型作9?	灰白、施釉、良	無	外	「三五」
78	遺構外	10	器皿輪	近代	3.4/3.4/1.0	11.8	型作9?	灰白、施釉、良	無	外	「三五」
78	遺構外	11	器皿輪	近代	3.2/3.2/0.8	9.5	型作9?	灰白、施釉、良	無	外	「三五」 「一五」

表11 后畠遺跡石製品観察表

図版	地点	No.	種別	長/幅/厚 cm	重さg	石材	色調	注記	備考
70	1塚	16	砾石	3.5/1.1/1.3	20.3	凝灰岩	黒褐色	1947	
72	4塚	6	砾石	8.5/5.1/3.3	199.0	花崗岩類	灰白	1661	5面使用
72	4塚	7	砾石	5.0/3.5/2.2	33.1	黒曜石	黒	1506	
72	4塚	8	砾石	5.5/3.5/2.5	51.8	黒曜石	黒	1663	
72	4塚	9	砾石	5.2/3.9/1.6	38.9	黒曜石	黒	1305	
72	4塚	10	砾石	4.8/3.9/2.2	46.1	黒曜石	黒	1634	
72	4塚	11	砾石	4.7/3.5/2.2	32.5	黒曜石	黒	1662	
73	4塚	12	砾石	4.6/4.0/2.7	46.1	黒曜石	黒	1523	
73	4塚	13	砾石	4.1/3.6/2.0	28.6	黒曜石	黒	1507	
74	1塚	1	打拂	10.5/5.1/0.9	64.8	粘板岩	青灰	1358	
74	1塚	2	打拂	12.8/5.5/1.5	156.3	粘板岩	青灰	1355	刃部磨耗
75	4塚	9	打拂	15.0/8.4/1.8	303.4	粘板岩	青灰	1709	
75	4塚	10	打拂	9.1/4.5/1.0	59.1	粘板岩	青灰	457	
75	4塚	11	打拂	13.9/6.1/1.9	170.5	千枚岩	青灰	1239	刃部欠損
77	14塚	23	砾石	5.9/2.8/2.5	58.2	凝灰岩	褐・黄灰	1886	壁の面3、正面を主に利用
77	40ビ	2	打拂	11.4/4.9/1.1	72.3	ホルンブルース	灰オリーブ	1822	刃部欠損
77	1谷	10	打拂	12.0/5.9/1.0	92.5	ホルンブルース	オリーブ黄	2110	刃部欠損
78	遺構外	12	打拂	9.0/3.2/0.9	57.8	粘板岩	灰	1817	刃部欠損
78	遺構外	13	打拂	16.9/5.4/1.3	134.4	ホルンブルース	オリーブ黄	1519	頭に附れる

## 第4章 総 括

### 第1節 遺構の変遷と各期の様相

大木戸・后畠遺跡は、千赤於川をはさんで東西に連なる集落遺跡であるが、一連の遺跡ではなく、千赤於川で東西に区別される別々の遺跡である。大木戸遺跡に関しては、バイパス建設時の調査履歴があり、本来それらのデータを統合したうえで検討すべきであるが、ここでは今回の成果についてのみ整理しておく。

両遺跡で検出された遺構の時期については、以下のように整理できる。

- I期 3世紀後半 后畠3・5号竪穴
- II期 8世紀後半 后畠1・2・4号竪穴、1号谷
- III期 8世紀末～9世紀後半 后畠14号溝
- IV期 9世紀第4四半期 大木戸6号竪穴
- V期 10世紀前半 大木戸1・8・11・12・13・18・19・28・30号竪穴、10号土坑、45号ビット
- VI期 10世紀後半 大木戸5・9・10・11・14・15・16・17・19・21号竪穴、9・10号土坑、17号ビット、后畠7号竪穴
- VII期 10世紀末～ 大木戸20・24号竪穴、19号ビット、38号ビット
- VIII期 13世紀～ 后畠4号溝

I期以前の遺物には古くは縄文早期の土器、石器があるが、遺構として取り上げるべきものがないことか

ら除く。

I期（弥生末）では大木戸遺跡には遺構がなく、后畠遺跡の東側の2軒（3・5号竪穴）が該当する。集落はさらに南側に展開する様相を示すが、同時期、同規模の竪穴2軒が竪穴の主軸方向を異にして隣り合っている。竪穴はともに4本柱穴で、炉は不明瞭であり、中でも5号竪穴は火災住居で、土器セットを原位置のまま床面に残したかのような状況で検出されている。それによれば土器は竪穴の隅、とくに北東隅が土器の保管エリアであった可能性がうかがえ、5号竪穴の状況から北東隅に壺、台付甕、瓶があることから貯蔵用。煮沸用の土器群、北西隅は煮沸用土器群が遺存している。2号竪穴でも北東隅には小形壺があり、一応貯蔵用土器、とみておく。

II期は后畠遺跡のみで、1号谷、東側の竪穴3軒（1・2・4号竪穴）が該当するが、1号掘立についても主軸方向が1・2号竪穴と類似し、位置が近いことから本時期と考えておく。3軒はいずれも北壁中央ないし東寄りに窓をもつ北竪で、1・2号竪穴はほぼ同規模、4号竪穴が小形である。I期の集落域を継承するようになに存在するが、I期とは時間的な隔たりが大きい。

III期は后畠14号溝のみである。1号谷が流路としての機能を失った可能性があり、この時期には早くも埋

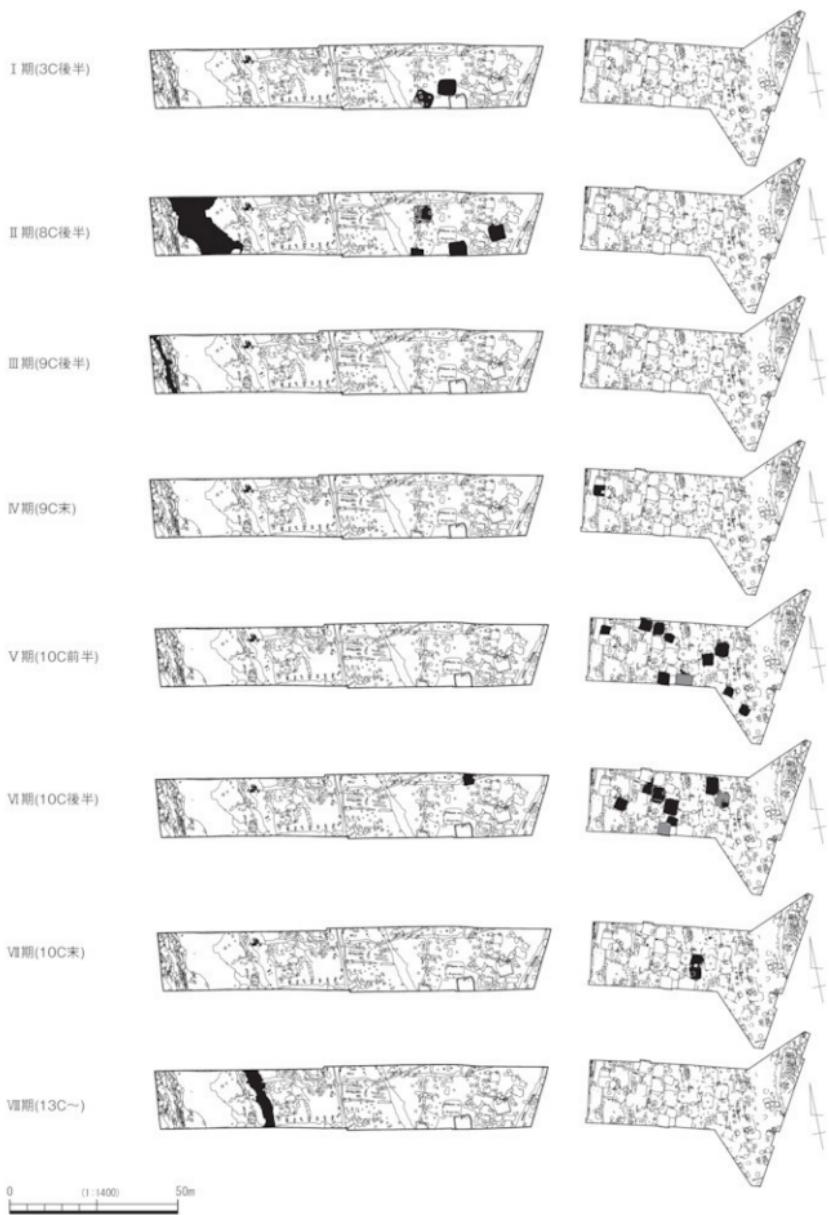


図6 大木戸・后畠遺跡の遺構変遷

没していたとみられ、それに代わるように1号谷のすぐ西側に14号溝が形成されている。

IV期の様相は定かではなく、大木戸6号竪穴のみである。后畠遺跡側でのIII期の集落が途絶え、后畠遺跡から居住跡が失われると、東側の大木戸遺跡側で集落の形成が始まる。その最初の段階となる。6号竪穴からは石帶鉈尾が出土しているが、石帶の所属時期、本段階に廢棄された要因について、集落の動向や他の遺物面から検討すべきところである。当然ながらIV期以前の本調査区周辺域で使用されたと考えられ、6号竪穴の居住者が遺棄した可能性も想定すべきはあるが、未調査部分に石帶を使用する人物が居住し、そう遠くない場所に使用の場があったと考えるのが妥当で、公的、祭祀的側面をもつ施設がこの周辺に存在したことを意味する。石製鉈尾としては、山梨県内で2例目の発見となった。

V期には大木戸遺跡において一挙に竪穴が集中的に存在する。それらは大木戸遺跡の西端から東縫にかけて展開するが、単独で存在する1・11号竪穴を除くと2軒ないし3軒でのまとまりをもつ傾向がみえる。すなはち8・12・13号竪穴、18・19号竪穴、28・30号竪穴で、竪穴の主軸方向が各群では類似傾向があり、規模としては大・少または大・中のセット関係がうかがえる。各群の並び、配置についてはまちまちであるが、おむね東西方向に並んでいる。ただし同時期かどうかは不明で、18・19号竪穴では19号竪穴にVI期との中间的な様相があり、時間差を想定すべきかもしれない。竈の位置は例えば8・12・13号竪穴ではいずれも南東隅に存在し、共通性がある。

VI期はV期の竪穴群が継続的に同規模で存続するとともに、1軒のみではあるが后畠遺跡にも東寄りに竪穴が出現する。大木戸遺跡の竪穴は細かく群分けするならば、IV期を継承するように3~4群に分けられるが、全体的には西寄りにまとまる傾向がある。ただし14~16号竪穴は切り合い関係をもち、17号竪穴と10号竪穴の位置関係についても隅が近接することから、同時存在とはいえない。とくに遺物の出土量が少なかった14・16号竪穴については、時期の再検討が必要であろう。これらのうち17号竪穴は規模が大きく、10号竪穴は小さいなど大小の格差がある。なお、V・VI期が大木戸集落のピークで、以後衰退に向かう。

VII期は大木戸遺跡中央に近接した2軒(20・24号竪穴)およびピットがあるのみとなる。ただし遺物がないため時期不明とされた29・30号竪穴が本期の所産の可能性はあるほか、22号竪穴の鉈は本期であろう。し

たがってさらに数軒の竪穴を加えた姿が本期の様相といえ、出土した土器量自体がそれまでと比べて減少していることから、木器挽皿類へ移行したと推測できる。

VII期は、遺構としては后畠4溝のみとなる。南流する南北の溝で、青磁碗片や常滑・渥美系の甕片を含むことから13~14世紀代の遺構といえる。北側にある中世居館跡とされる中村氏屋敷に関連した溝とみられ、中村氏屋敷の時期や性格について言及しうる資料といえる。中村氏は金山衆の伝承があり、青梅街道沿いにある黒川金山との関連を示しているが、甲州市塙山地域にはそうした伝承屋敷が多い。いずれにしても居館周辺に水利としての堰を張り巡らし、生産城としての水田開発が行われていたことを示している。

このように大木戸・后畠遺跡は后畠遺跡でのI・II期と、大木戸遺跡でのV~VII期に集落が存在し、とくにV・VI期(10世紀前半~後半)に竪穴が増大した集落といえる。現在のバイパスをはさんだ東側、距離にして100mにある五反田遺跡でも同時期の大規模集落が調査されていることから、遺跡群の密度が高い地域といえ、郷の中心的性格をもつ何らかの求心的な施設がこの一带に想定でき、手がかりとしては熊野神社の存在を想起すべきであろう。

## 第2節 墨書・刻書土器と関連資料

大木戸・后畠遺跡出土の墨書土器には以下の例がある。

大木戸1号竪穴2(墨痕)・4「大川」・7「□木」ないしは「斐」?・11「勿」・3(墨痕)、8号竪穴6「吉」、后畠14号溝1(墨痕)・2「舍」・6「若」、1号谷2「小川」

時期的には、V期の大木戸1号竪穴にまとまった事例があるほか、后畠1号谷2のようにII期の8世紀後半に遡る古手の事例、III期の9世紀第3の事例があり、なかでも「大川」「斐」?「勿」?など細筆書の達筆な事例を含む点は本遺跡の特徴として指摘できる。また「大川」が川の名、あるいは地名を表す可能性が考えられるが、この点について后畠1号谷(8世紀後半)に「小川」があり、ともに「お」で始まる読みで、「川」が付くという共通点をもつ。二つの土器には時期差があり、出土地点も異なるものの、現在遺跡の東を流れる重川(おもかわ)との関連性があると考えたい。重川は、「甲斐国志」卷之二十三 山川部第四には「重川 又面川・母川ニ作ル」と記載され、古くからの呼称名であったことがいえるが、墨書土器は本地域と川が関連することを示唆する資料といえよう。この地域は延喜式によれば甲斐國山梨郡於曾郷に相当し、とく

に今回の調査区周辺地域を別に横井郷とよび、熊野社を勧請したのちに字名を熊野とするようになった、と言い伝えられている。この熊野社は現在約800m西南に立地する熊野神社で、大同2年（807）創建と伝えられ、現在、拝殿1棟と本殿2棟は国指定重要文化財である。中でも本殿は鎌倉時代建立で、文保2年（1318）の建替えが判明している。伝承ではもと字横井の場所に熊野社があったといい、水害の影響で現地点に移転したとされている。今回の調査では、神社に関する遺構は検出されていないが、后烟遺跡14号溝「舍」（9世紀第4）は施設名を示すものであろう。1号谷出土の須恵器壺G類や綠釉陶器碗の存在は、祭祀性のある施設で用いた器種と考えることができる。

また刻書土器には以下の例がある。

大木戸13号竪穴2（記号？）、30号竪穴4（記号？）、后烟2号竪穴2「十・3「十」・4（記号？）・5（記号？）、遺構外1「奉？」

時期的にはⅡ期（后烟2号住）、V期（大木戸13・30号住）があり、記号の類を主とするなかで后烟2号住の「十」には祭祀的な意味合いを感じるほか、后烟遺構外1の「奉？」は「奉」であれば神に捧げる器、という意と解釈することが可能で、先の熊野社との関連性を想起せざるをえない。

このように少數ではあるが祭祀的な墨書、刻書土器の存在を指摘したが、そうした遺物と関連性があるものとして大木戸6号竪穴出土の石帶鉈尾をあげておく。神主の装束として石帶はふさわしく、そうした人物がこの集落にいたことを物語るものと想像をたくましくしてみたい。

### 第3節 石帶鉈尾について

6号竪穴からは黒色の石帶鉈尾が出土した。石製腰帶具は、平成11年（1999）年刊行の『山梨県史』によれば山梨県内で15例の出土例があり、その内訳は延方9点、丸綱5点、鉈尾1点である。出土遺跡としては朝氣遺跡（甲府市）、宮ノ前遺跡（韮崎市）、横畠遺跡（笛吹市御坂町）、竜ノ木・大原遺跡（笛吹市一宮町）、新居道下遺跡（南アルプス市、旧若草町）、東久保遺跡（北杜市高根町）、柳坪遺跡（北杜市長坂町）、城下・原田遺跡（北杜市大泉町）である。鉈尾に限ると大原遺跡W30号住の緑色鉈尾のみであった。その後、中央市の上庄遺跡において、10世紀前半の包含層にともない白色鉈尾が出土したことから、県内ではこれまでに本例を含めて3例の石帶鉈尾が出土したことになる。

### 第4節 おわりに一大木戸集落の公的側面

大木戸遺跡の平安時代集落を特徴付ける出土遺物に石帶鉈尾、綠釉陶器がある。鉈尾は6号竪穴から、綠釉陶器は5号竪穴、15号竪穴より出土している。第2節で墨書き器の文字に達筆な細筆書が多い点、「舍」といった何らかの施設名がある点などを考え合わせると大木戸集落の郷の中心的な性格が浮上する。さらに以前調査、報告された大木戸遺跡のデータを加え、周辺の五反田遺跡の状況との比較することにより、大木戸遺跡の公的側面を指摘することができるだろう。新塩山バイパス建設時には、今回の調査区東に接するようにな南北に通る道路部分が発掘調査され、報告書では重川周辺の平安時代遺跡群について、以下のように整理されている（山梨県ほか2003）。

バイパス地点では重川に沿うようにして分布する西烟遺跡、下西烟遺跡、影井遺跡、大木戸遺跡、五反田遺跡から9世紀前半～12世紀代の住居跡21軒が検出された。8世紀前半～9世紀後半では少なく、10世紀前半～12世紀代に集落はピークを迎える。とくに10世紀後半から11世紀前半に一挙に住居数が増大し、重川台地の上部から下部へと集落域が移る様相がある。また同時期に集中的に綠釉陶器段皿などが存在するが、住居からではなく溝からの出土が多く、特殊な役割をもっていたのではないか。影井遺跡出土の鉄製鉈や大木戸遺跡の青銅製刀装具などの特殊遺物が出土しており、当地域が交通の要衝であった等の理由で拠点的集落が営まれた可能性を示唆するという。

また店舗建設に伴う五反田遺跡の報告書では、遺跡の特徴について以下のように整理している（山梨文化財研究所ほか2016）。

古墳初期あるいは8世紀前半～中葉ころに大溝を掘削し、利水施設を整備して集落が定着をみたのち、10世紀後半から11世紀前半にかけて集落は隆盛するが、熊野神社の伝承にあるようにすぐ東を流れる重川の氾濫によって集落移転があったのではないか。13・14世紀になるとこの地域一帯が甲斐国を中心として繁栄するが、その前夜にあたる平安末には灰釉陶器の出土量や綠釉陶器の存在が示すように、集団の質的な高さがうかがえる。

今回の調査区でも、周辺遺跡の状況と基本的に大きな違いがないことがわかり、この地域一帯の平安末をピークとした隆盛、その後の集落断絶という現象を追認することができた。こうした様子を物語るのが綠釉陶器などの出土品であるが、石帶鉈尾や墨書きを加えたことで集落の性格の一端が見え始めたところである。

そのほか興味深い遺構・遺物として后畠遺跡4号堅穴出土の黒曜石原石7点の出土、大木戸遺跡14号堅穴19号ピット出土の重ね合せ容器がある。

黒曜石原石は后畠4号堅穴より7点出土したほか、大木戸遺跡28号堅穴より1点出土した。后畠4号堅穴例7点は、重さ28.6～51.8gで、やや不揃いではあるが、大きさは長さ4.5～5.5cm、幅3.5～4.0cmときわめて類似し、大きさの面で揃えられた原石群といえる。大きさについてどのような意味があるのか、他遺跡出土例との比較検討が必要ではあるが、4号堅穴例程度の原石だと石器製作のための剥片を取ることが可能であろう。ただしあまり打撃された形跡がなく、いずれも表面に古い風化面をとどめている。それらが8世紀後半代の堅穴から出土したことから、奈良時代における黒曜石利用があったという解釈もありうる。しかし第41図で断面投影したこれらの出土位置をみると、それらは堅穴覆土から5点、床面直上および床面近くから2点が出土している。したがってほとんどが堅穴埋没過程での流れ込みであることが判明し、縄文時代の黒曜石原石が何らかの理由で奈良時代堅穴覆土に混入した、といえる。こうした原石は、縄文時代では時々堅穴床面に穿たれた小ピット中から一括埋納された状況で出土することがある。したがって縄文時代の黒曜石埋納遺構がもともと4号堅穴付近に存在し、それが堅穴覆土にまとめて混入するに至った過程を想定するはかない。つまり堅穴の周堤等に紛れていた原石が堅穴埋没過程で堅穴内部に流れ込んだものと想像できる。時期については、后畠遺跡では押型文土器が出土していることから、早期の可能性が高いが、早期に一括埋納事例がどの程度存在するのかわからぬ。

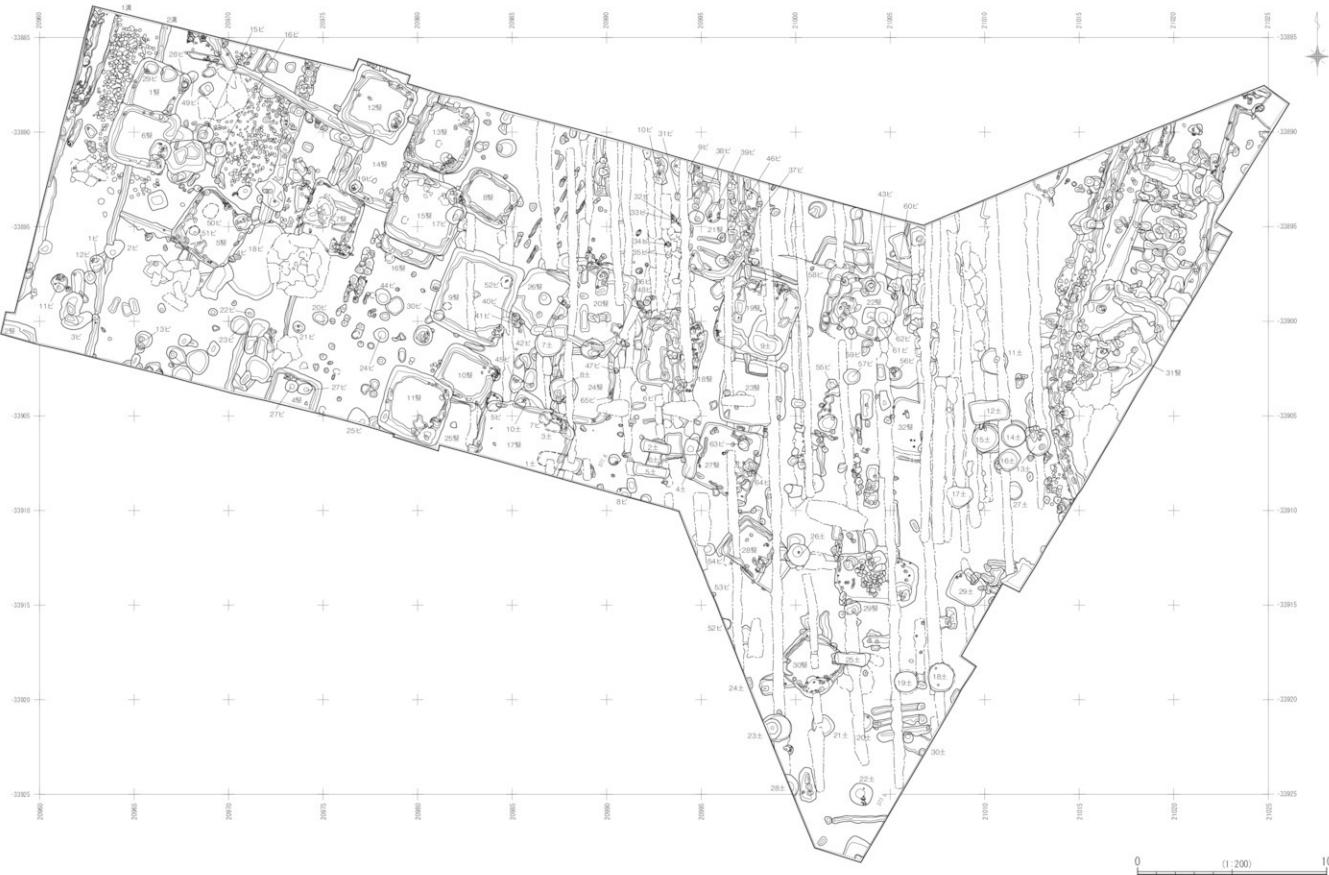
19号ピットについては、14号堅穴の時期がVI期なのに対し、土器がVII期であることから、堅穴の時期とは時間差があるといえる。堅穴の時期認定が正しければ

ピットは堅穴と無関係であり、堅穴居住者の胞衣容器や堅穴建築時の地鎮具の可能性はない。したがって屋外での土器皿を用いた埋納遺構といえ、明確な根拠はないものの集落内の道端（衢=ちまた）における地鎮等、祭祀行為などを想定してみたい。土器内に遺物が入っている可能性を想定し、慎重に土壤を観察したが、何も見つかっていない。土器の直径に収まる程度の小形の有機物が入っていたことは推定してよいだろう。合わせての容器が2セットあった、という意味についても考察すべきでは、どういう意味をもつのが興味深いが、まずは類例を集成し、出土状況や時期の検討が必要となる。今後の課題としたい。

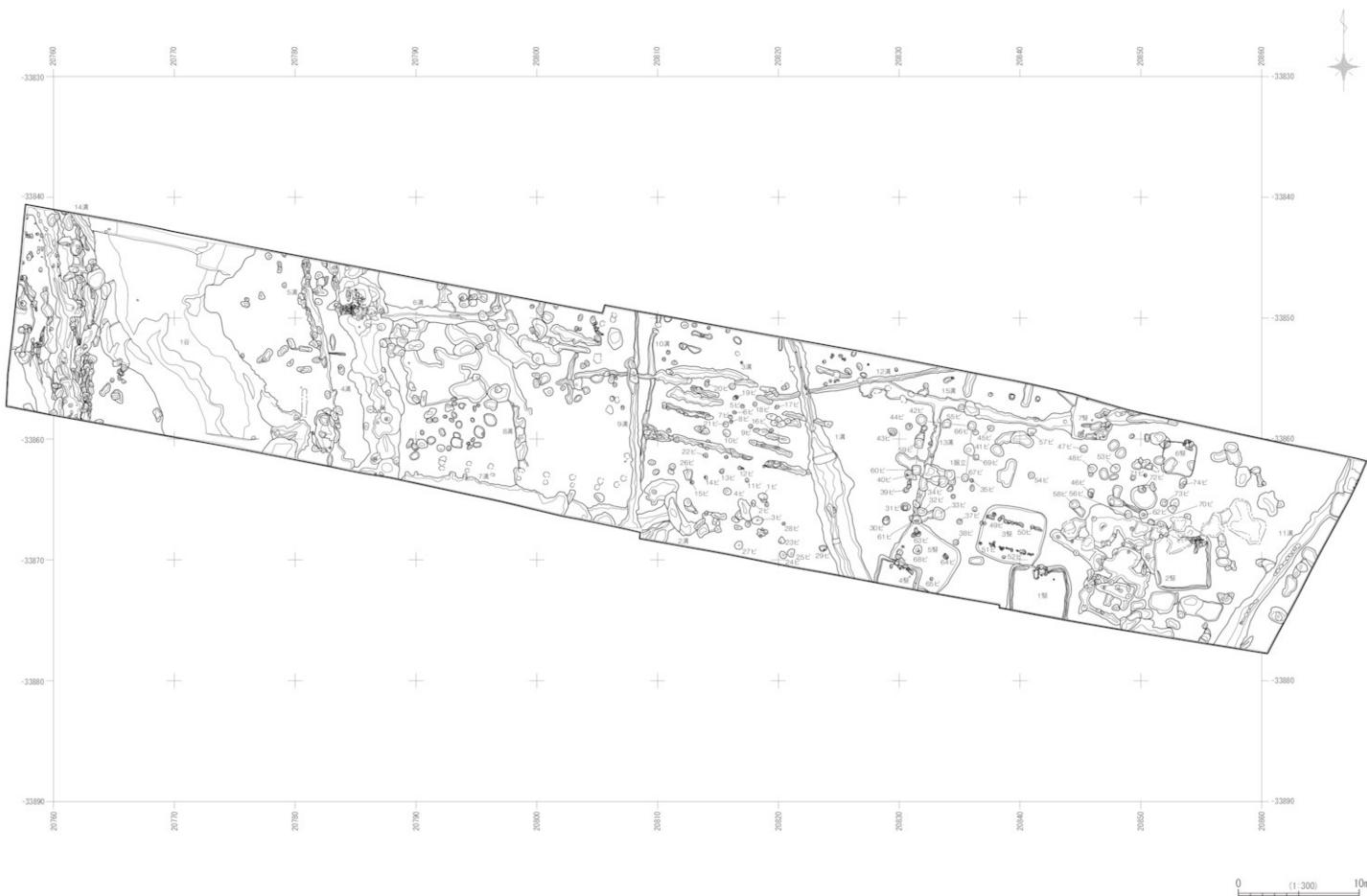
なお最後に発掘調査から本書刊行までの間、関係者の方々には厚く御礼申し上げるしだいである。とくに道路建設の事前調査ということでブドウ畠の棚の片付けを待って調査が行われたが、耕作者には調査協力に対してご理解いただき、ご迷惑をおかけした。調査にさいしては工事と埋蔵文化財調査の工程について甲州市役所建設課を中心に調整していただき、滞りなく調査実施することができた。また参加スタッフの皆さんには年末年始の調査をいとわず、寒い中調査にあたっていただいた。すべての方々、諸機関には感謝申し上げたい。

#### 【参考文献】

- 佐藤八郎ほか校訂 1968『大日本地誌体系 甲斐国志』雄山閣  
山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2考古（遺構・遺物）』  
山梨県教育委員会ほか 2003『大木戸遺跡一国道411号（塙山東バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書一』  
山梨文化財研究所ほか 2016『五反田遺跡—ナフコ甲州店建設に伴う発掘調査報告書一』

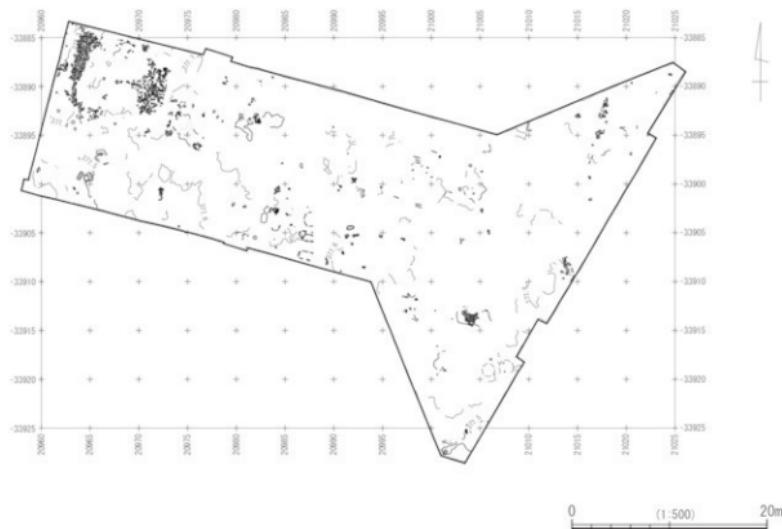


第1図 大木戸遺跡全体図

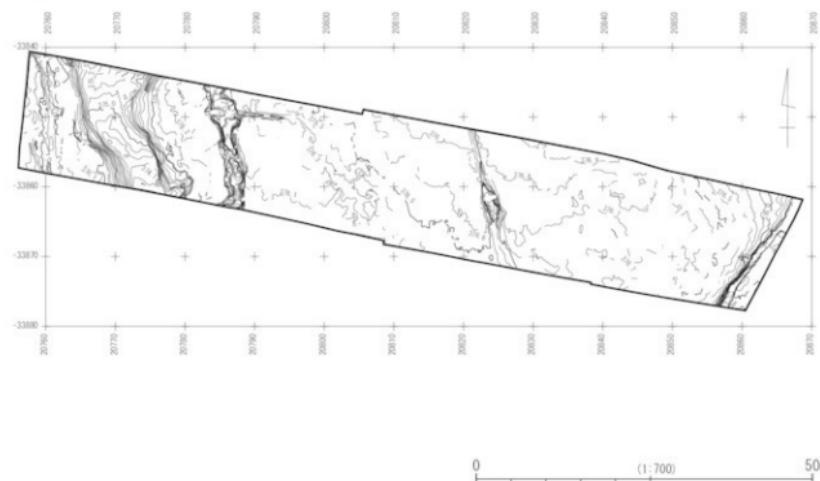


第2図 后畠遺跡全体図

大木戸遺跡

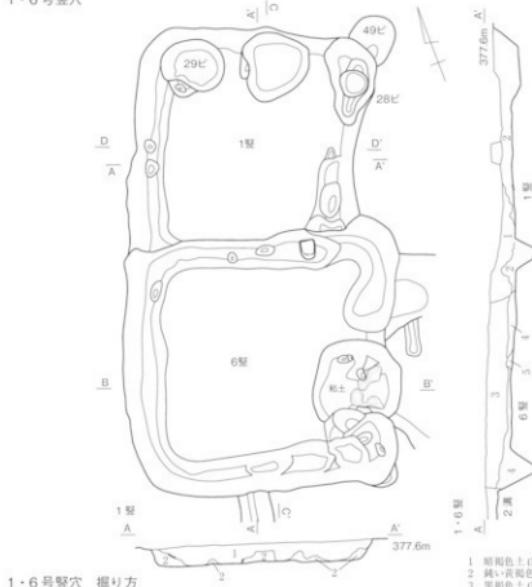


后畠遺跡



第3図 大木戸・后畠遺跡地形図

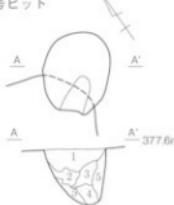
1・6号竪穴



1・6号竪穴 摂り方

- 1 黄褐色土 (10YR3/3) 砂粒、礫土粒、炭化物入。  
純い黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色ブロックや多。砂粒入。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 黒褐色土主体。1層よりも黒褐色、砂粒、褐色小ブロック入。しまり強。
- 3 黄褐色砂質土 (10Y3/3) 黑色土と同質の砂質中に1層の黒褐色ブロックを含む。しまり強。
- 4 黑褐色砂質土 (10YR2/3) 3層よりも黒褐色有。砂粒や多。しまり強。
- 5 純い黄褐色砂質土 (10YR4/3) ブロック状に入り込んだ黄褐色土。

49号ピット



- 1 黒褐色砂質土 (10Y3/2) 砂粒やや多。黒色小ブロック  
や多。砂粒小ブロック入。しまり強。
- 2 黒褐色砂質土 (10Y3/2) 黒褐色土主体。1層よりも黒褐色、  
砂粒、褐色小ブロック入。しまり強。
- 3 黄褐色砂質土 (10Y3/4) 黑色土と同質の砂質中に1層の  
黒褐色ブロック入。しまり強。
- 4 黑褐色砂質土 (10Y3/3) 3層よりも黒褐色有。砂粒や多。  
しまり強。
- 5 褐色砂質土 (10YR4/4) 砂粒やや多。遺迹に近い。

0 (1:40) 1m

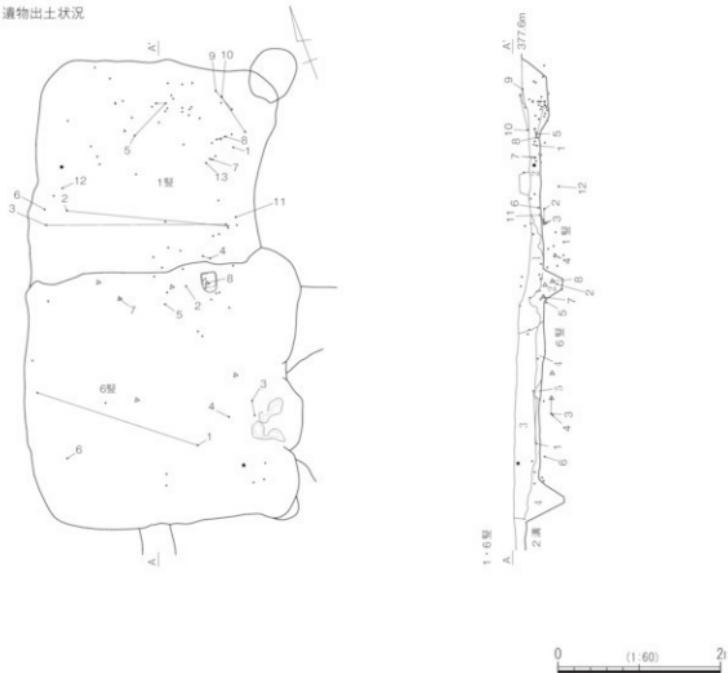
1・6号 摂り方

- 1 黑褐色砂質土 (10YR2/3) 砂粒やや多。壤土粒。しまり強。黒色のブロックと同質入。
- 2 純い黄褐色砂質土 (2SY6/0) 地山と同質の砂質中に1層の黒褐色ブロックを含む。しまり強。
- 3 黄褐色砂質土 (10YR2/3) 壕下解。壤土小ブロック、炭化物入。砂粒や多。
- 4 純い黄褐色砂質土 (10YR4/3) 壕下解。黑色土ブロック入。炭化物やや多く入。

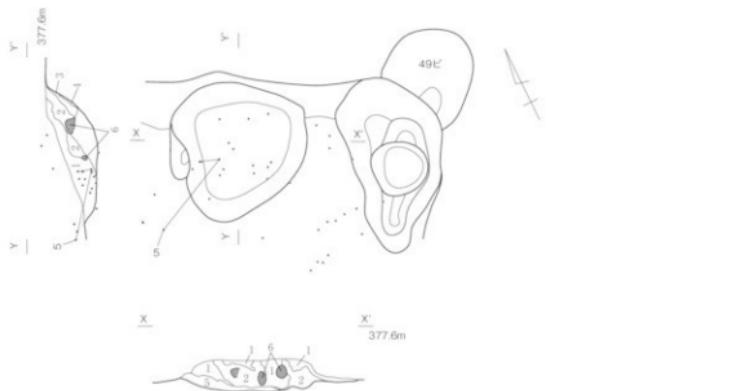
0 (1:60) 2m

第4図 大木戸1・6号竪穴、49号ピット

1・6号竪穴 遺物出土状況



1号竪穴 漆



1 黄褐色砂質土 (BYR2-3) 塗土ブロック・燒土粒・炭化粒入。ローム小ブロック入。しまり強。砂粒やや多。

2 黄褐色砂質土 (BY5-4) ややオーリーブ色かった砂質土。堆山に近い。遺物の構成材が。しまりやや強。焼土ブロック入。

3 黄褐色砂質土 (BY4-4) 燃土粒・ローム粒・燒土粒含む。

4 細褐色土 (GY4-1) 地山の質地したもの。

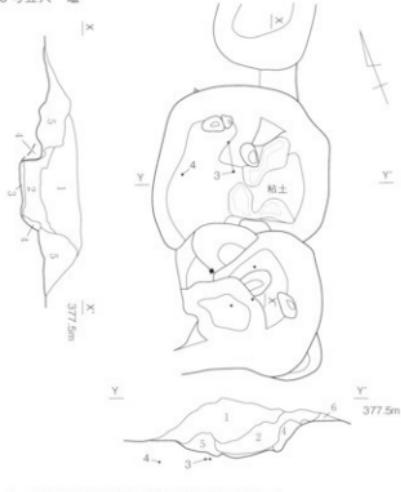
5 黄褐色砂質土 (GY4-2) 地山底土層。炭化物・燒土粒含む。しまり強。

6 焼土ブロック φ3~5cm 大のブロック多。



第5図 大木戸1・6号竪穴

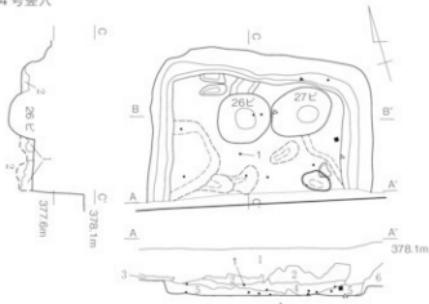
## 6号豊穴 窓



- 1 黒褐色砂質土 (IOYR3-4) 砂粒やや多。焼土小ブロック、炭化粒入。しまり強。
- 2 黒褐色土 (IOYR2-4) 1層粗粒。砂粒やや少。1層より密。燒土ブロック入。
- 3 明褐色砂質土 (IOYR3-3) 地山の砂質土を多く含む。焼土粒入。
- 4 黒褐色砂質土 + 焼土 (IOYR4-3) 焼土層。もしくは焼土ブロック主体。焼土の被覆部分。
- 5 黑褐色土 (IOYR4-3) 電柵柱土。ローム粒・砂粒やや多。焼土粒入。
- 6 褐色砂質土 (IOYR4-4) 地山。

0 (1:30) 1m

## 4号豊穴



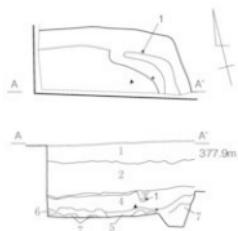
- 1 黃い黒褐色土 (IOYR5-3) 表土。黃褐色ブロック混入。塊状。
- 2 黄褐色土 (IOYR5-3) 表土の砂質土層。黄褐色の混入が見られる。
- 3 明褐色土 (IOYR6-3) しまり有。粘性なし。
- 4 黑褐色土 (IOYR3-3) 一部土素の混じり有。黄褐色土の混入有。
- 5 黑褐色土 (IOYR3-4) しまり有。粘性やや有。黄褐色ブロックの混入有。
- 6 褐色土 (IOYR4-6) しまり有。一部塊状の影響有。

## 4号 袋り方



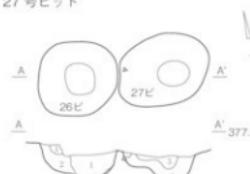
- 1 黑褐色砂質土 (IOYR2-3) 砂粒。ロームブロックやや多。黑色ブロックとの混土。しまり強。燒土粒入。
- 2 黃い黒褐色砂質土 (IOYR4-3) 地山と同質。黒色小ブロック入。

## 2号豊穴



- 1 鮎い黄褐色土 (IOYR4-3) 表土耕作土。
- 2 黄褐色土 (IOYR4-2) 緩入。灰色味強。
- 3 黑褐色土 (IOYR4-4) 水田底土か。砂質土。
- 4 黑褐色土 (IOYR3-2) 黄褐色ブロック。炭化粒入。しまり・粘性有。
- 5 黑褐色土 (IOYR2-2) 黑味強い。しまり・粘性有。やや砂質。
- 6 黑褐色土 (IOYR3-3) 黄褐色ブロックやや多。砂質土。しまり・粘性有。
- 7 鮎い黄褐色土 (IOYR4-2) 道山の崩土。

## 26・27号ビット



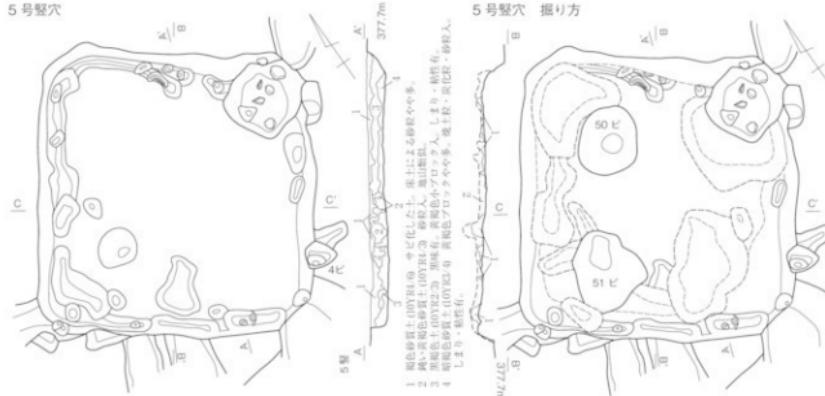
- 1 黑褐色土 (IOYR3-2) 褐色ブロックやや多。塊状有。しまり強。
- 2 黑褐色土 (IOYR3-4) 褐色粒・褐色ブロックやや多。しまり強。
- 3 黑褐色土 (IOYR3-3) 1層より6.95m底。褐色ブロック・焼土粒入。
- 4 鮎い黄褐色砂質土 (IOYR4-3) ローム粒や多。砂粒入。しまり強。

0 (1:40) 1m

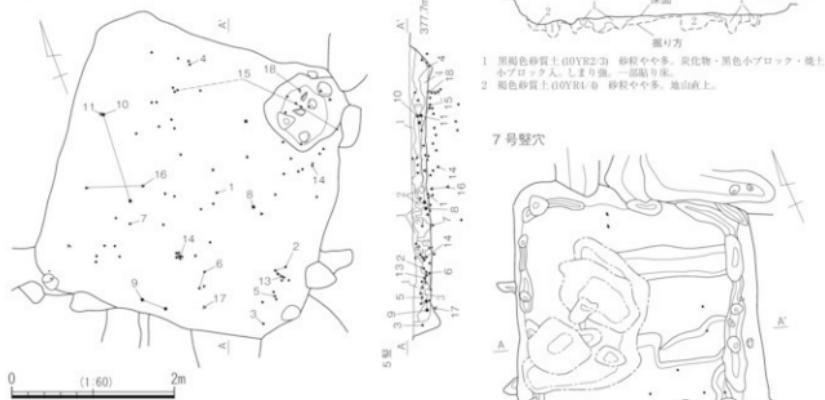
0 (1:60) 2m

第6図 大木戸2・4・6号豊穴、26・27号ビット

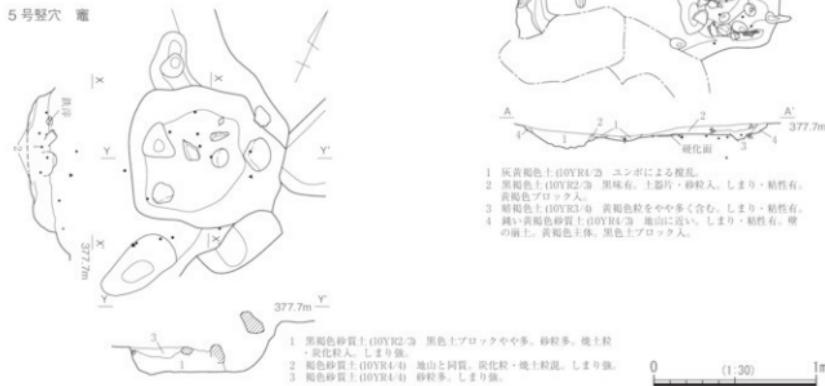
5号整穴



5号整穴 遺物出土状況



5号整穴 壁



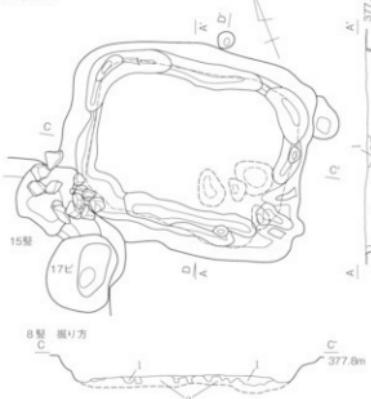
第7図 大木戸5・7号整穴

## 7号竪穴 振り方



- 1 黒褐色砂質土 (0YR2/2) 褐色ブロック・焼土粒・炭化粒やや多。しまり強。  
2 黄褐色砂質土 (0YR4/0) 地山とは同質。砂粒やや多。燒土粒・黒色土小ブロック入。

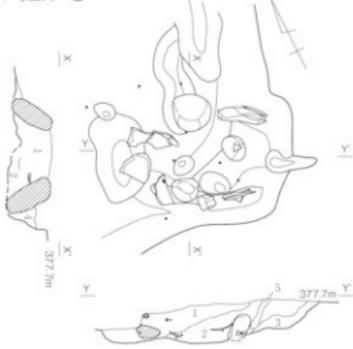
## 8号竪穴



## 8号竪穴 遺物出土状況



## 7号竪穴 窓



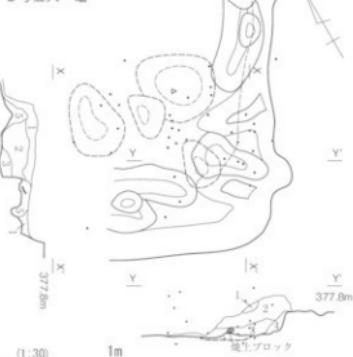
- 1 黒褐色土 (0YR2/2) 繩上ブロック入。繩上粒・炭化粒やや多。しまり有。黒灰有。砂粒入。  
2 黄褐色土 (0YR3/0) 繩上粒・砂粒やや多。全体に薄ぐ赤味有。しまり有。繩上小ブロック入。  
3 褐色砂質土 (0YR4/0) 地山直上。しまり強。振り過ぎ。  
4 黄褐色砂質土 (0YR4/0) 地山直上。しまり強。  
5 黄褐色土 (0YR4/2) 煙丸。

0 (1:30) 1m

## 8号竪穴 窓

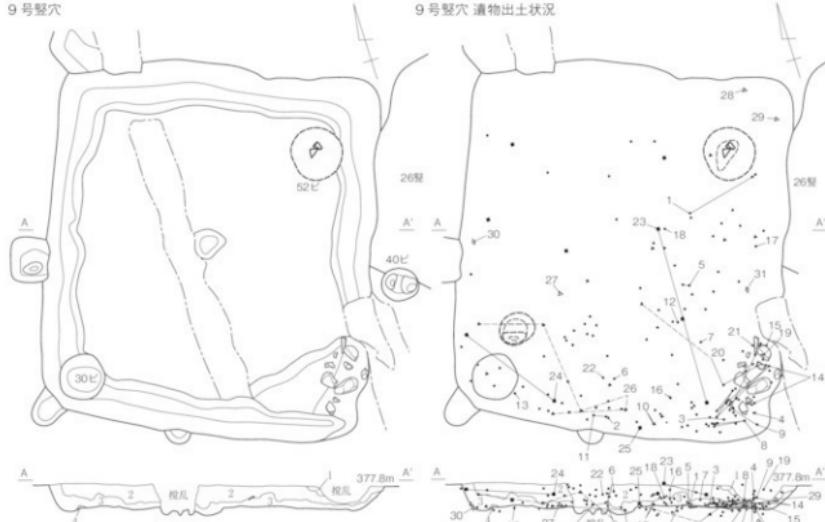
- 8号  
1 黄褐色砂質土 (0YR4/0) 横丸。密。しまりや弱。  
2 黑褐色土 (0YR2/3) 砂粒やや多。褐色小ブロック・炭化物  
しまり強。一部粘性有。  
3 黄褐色土 (0YR3/0) 黄褐色ブロック少。砂粒入。(やや砂質)  
しまり強。  
4 黄褐色砂質土 (0YR4/0) 墓蓋土。地山と同質。黒褐色小ブロック入。  
しまり強。粘性有。  
8号 破り方  
1 黑褐色砂質土 (0YR2/0) 繩上小ブロック・燒土粒・炭化粒入。  
砂粒やや多。しまり強。一部貼り土。  
2 銀色黄褐色土 (0YR4/0) 黑褐色小ブロックや多。砂粒やや多。  
3 黑褐色土 (0YR3/0) 繩上ブロックや多。土器片入。  
炭化物入。  
4 黑褐色土 (0YR3/0) やや密。炭化粒入。  
5 黄褐色砂質土 (0YR4/0) 繩上粒・褐色粘質土。砂粒  
やや多。灰色味強。繩上ブロック多。

## 8号竪穴 窓

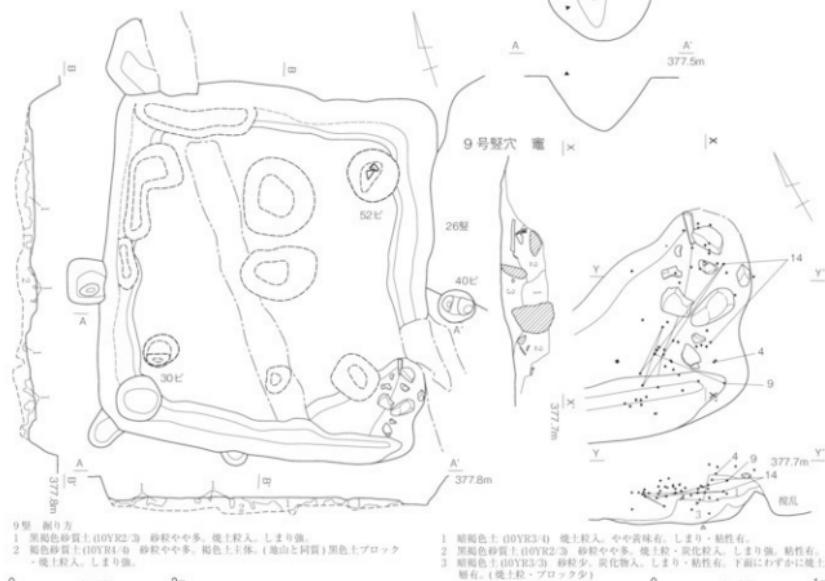


第8図 大木戸7・8号竪穴

9号整穴

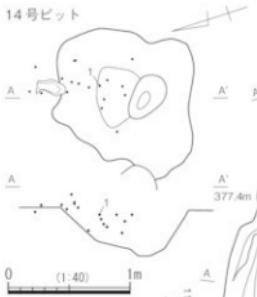
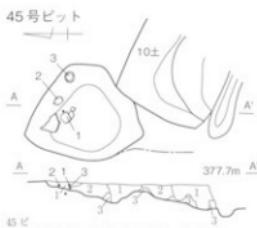


9号整穴 掘り方

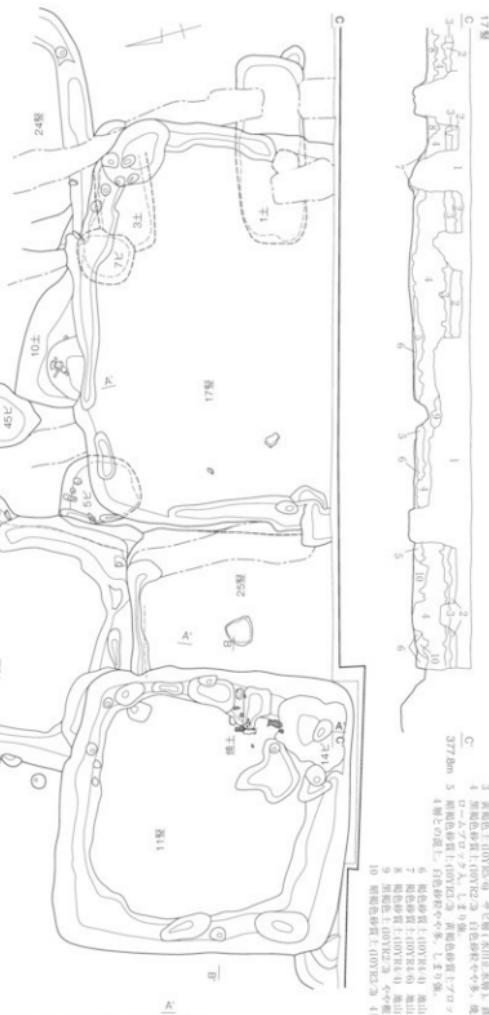


第9図 大木戸9号竪穴、52号ビット

10・11・17・25号竪穴



- 1 黑褐色砂質土(OYR2-2) 砂粒や多。炭化粒・燒土粒入。しまり強。  
2 黄褐色砂質土(OYR3-2) ローム(地山)の黄褐色小ブロック入。  
3 黄褐色砂質土(OYR3-3) 砂粒や多。炭化粒入。  
4 黄褐色砂質土(OYR3-4) 硬塑。黄褐色ブロック多。しまり強。  
5 黑褐色砂質土(OYR2-3) 地山の褐色粒含む。剛塑覆土。しまり強。



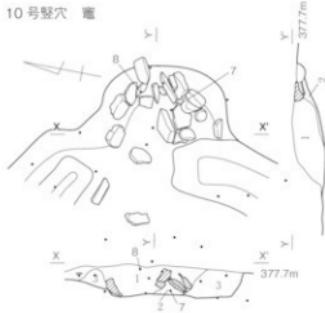
0 (1:60) 2m

第10図 大木戸10・11・17・25号竪穴、14・45号ピット

10・11・17・25号竪穴 掘り方

- 1 黒褐色砂質土 (HYR2-3) 砂粒やや多。褐色ブロック入。  
燒土粒・炭化粒入。しまり強。
- 2 褐色砂質土 (HYR4-4) 地山颗粒。黑色土小ブロック入。  
砂粒やや多。しまり強。a
- 3 黑褐色砂質土 (HYR2-3) 砂粒やや多。褐色土小ブロック入。  
黑色土小ブロック入。地山颗粒。しまり強。
- 4 黑褐色砂質土 (HYR3-3) ローム小ブロック・黒色土小ブロック入。  
6層頃。しまり強。
- 5 銀い黄褐色砂質土 (HYR4-3) ロームブロック多。壁面土。しまり有。
- 6 黑褐色土 (HYR2-3) ロームブロック・黒色土小ブロック入。しまり有。

10号竪穴 築

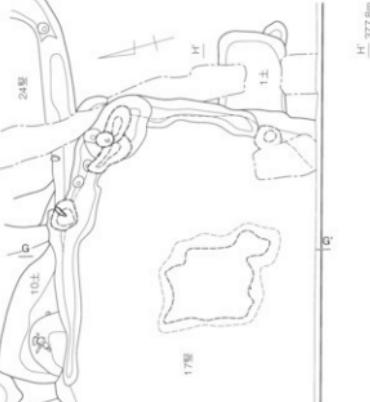


- 1 黑褐色砂質土 (HYR2-3) 焼土上ブロック・砂粒やや多。
- 2 黑褐色砂質土 (HYR3-3) 地山山頂。燒土上ブロック入。
- 3 褐色砂質土 (HYR4-4) 柔らかい土らしい。砂粒やや多。しまり強。

17號



G' 378.2m

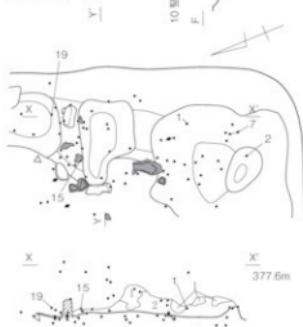


H' 377.8m



I' 378.2m

11号竪穴 築



- 1 黑褐色砂質土 (HYR2-3) 砂粒やや多。燒土上粒・炭化粒・燒土小ブロック入。しまり強。
- 2 オリーブ褐色砂質土 (HYR4-4) ブロック状。焼土粒入。燒土ブロック入。しまり強。



J' 378.2m

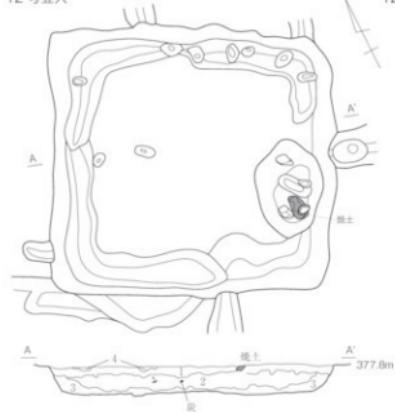
第11図 大木戸10・11・17・25号竪穴

10・11・17・25号竪穴 滯物出土状況



第12図 大木戸 10・11・17・25号竪穴

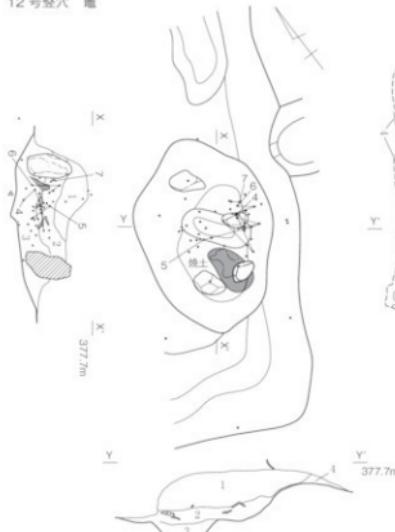
12号竪穴



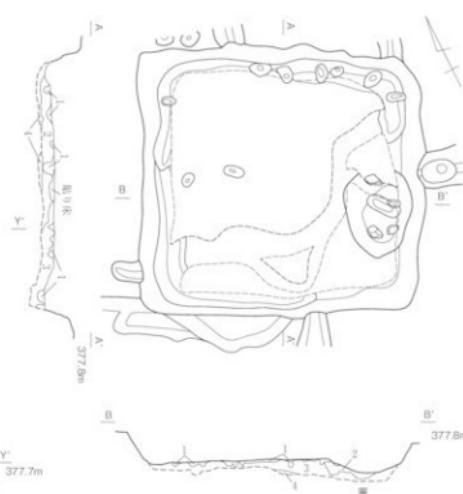
12号竪穴 潜物出土状況



12号竪穴 墓



12号竪穴 掘り方

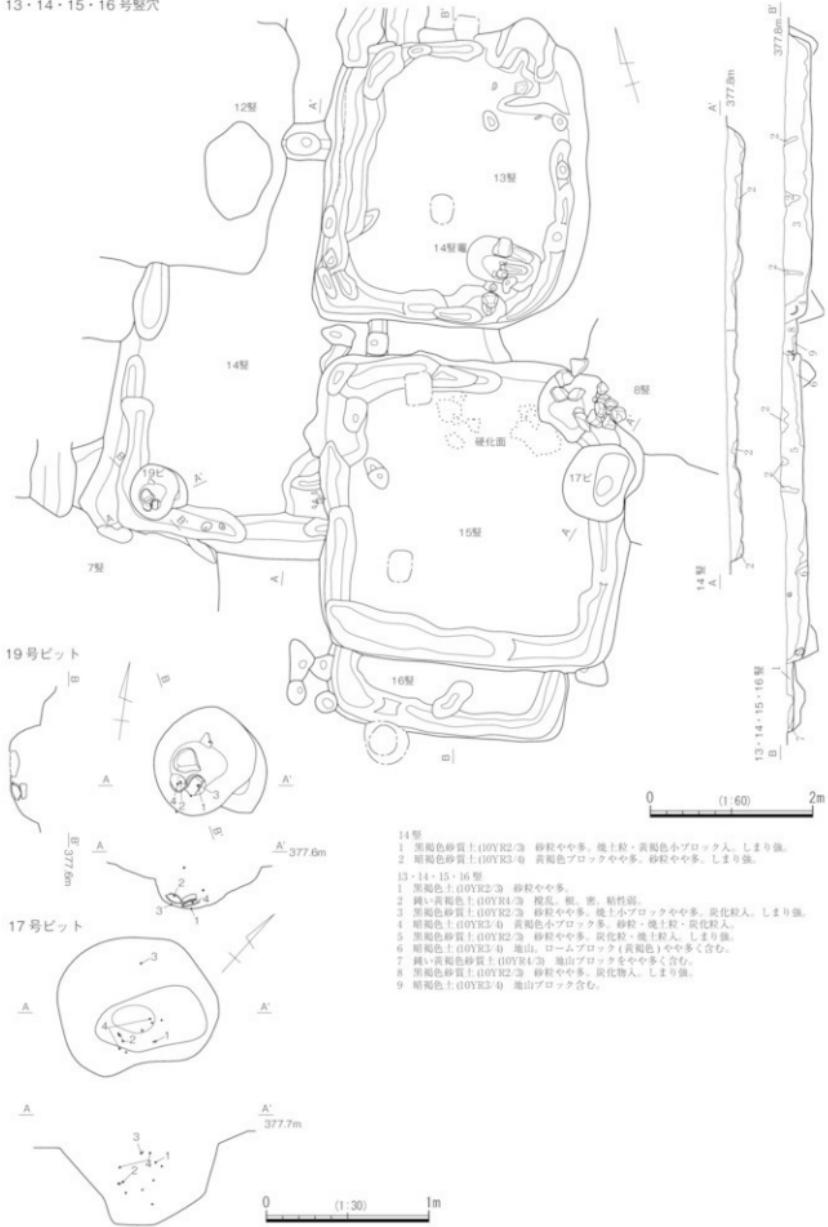


1 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 砂粒・堆土粒・堆土小ブロックや多。しまり強。  
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 壁上小ブロック・土器片多。砂粒や多。ローム粒入。  
3 黑褐色砂質土 (10YR2/3) 砂粒・ローム粒や多。炭化物・堆土粒入。  
4 褐色土 (10YR4/4) ローム粒土。



第13図 大木戸12号竪穴

13・14・15・16号竪穴



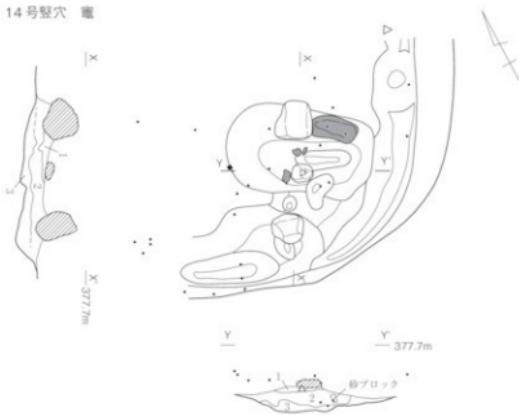
第14図 大木戸13-16号竪穴、17・19号ピット

13・14・15・16号竪穴 遺物出土状況



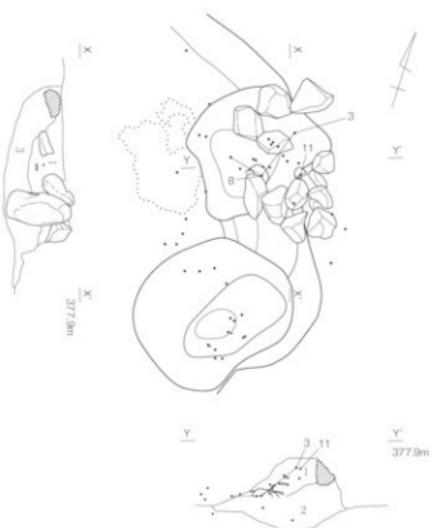
第15図 大木戸13~16号竪穴

14号竪穴 縮



- 1 黒褐色土 (0YR2-3) 硅土ブロック・塊土粒やや多。砂粒入。  
 2 黒褐色砂質土 (10YR2-3) 硅土粒・炭化粒入。砂ブロック入。しまり強。  
 3 脳褐色土 (10YR3-3) ローム粒・砂粒入。

15号竪穴 縮

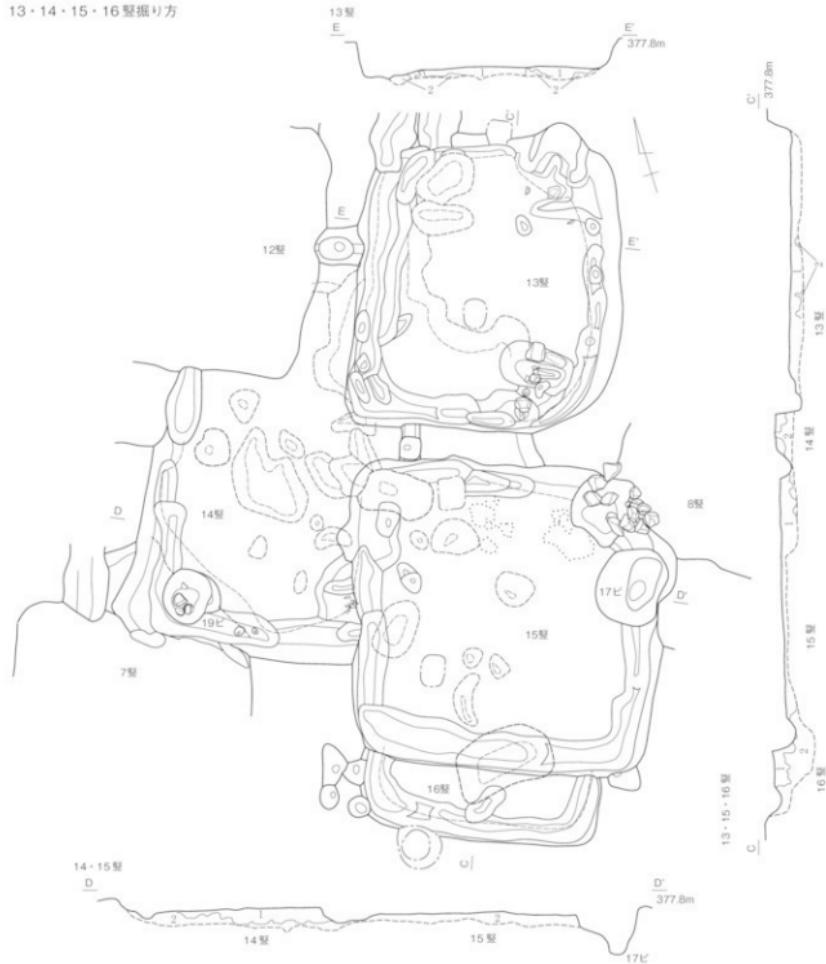


- 1 黒褐色砂質土 (0YR2-3) 砂粒やや多。硅土粒・炭化粒入。土器片入。しまり強。  
 2 脳褐色砂質土 (10YR3-3) ローム粒やや多。しまり強。硅土粒・炭化粒入。  
 3 脳褐色砂質土 (10YR3-4) 電地熱土。

0 (1:30) 1m

第16図 大木戸14・15号竪穴

13・14・15・16号掘り方



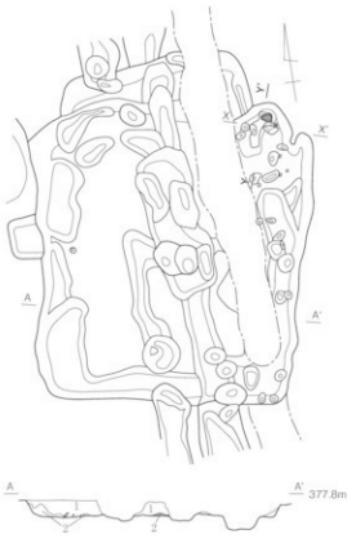
13・14・15・16号 掘り方  
1 黒褐色砂質土 (10YR3/3) 砂粒やや多。塊土粒・炭化粒入。  
2 銀・黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黑色土小ブロック・塊土粒入。砂粒やや多。

0 (1:60) 2m

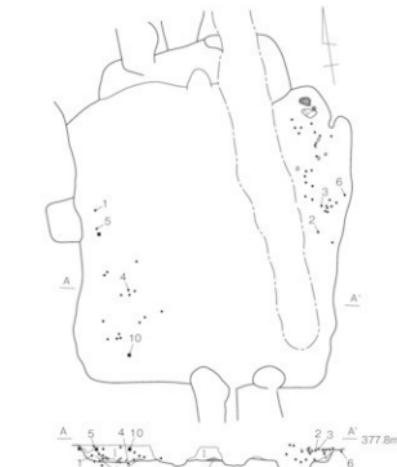
第17図 大木戸13~16号竪穴

## 18号竪穴

## 18号竪穴 遺物出土状況

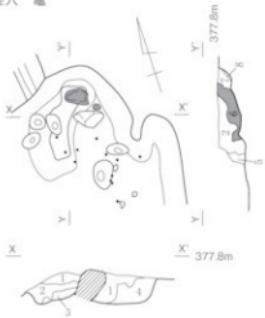


- 1 黒褐色砂質土 (D0YR2/3) 白色砂粒や多。炭化物・焼土粒・ローム粒入。  
ローム小ブロックや多。しまり強。粘性石。.  
2 褐色砂質土 (D0YR4/4) ローム粒・ロームブロック多。焼土粒・炭化物入。



## 18号竪穴 掘り方

## 18号竪穴 窓



- 1 黒褐色砂質土・焼土混 (D0YR2/3) 焼土小ブロック多。  
砂粒や多。ローム小ブロック入。しまり強。  
2 褐色砂質土・焼土 (D0YR4/4) 黄褐色土中に焼土小ブロックを多く含む。砂粒入。しまり強。  
3 黑褐色砂質土 (D0YR2/2) 黒味強。ローム粒入。  
4 褐褐色砂質土 (D0YR3/6) 魔術部のローム粘土主体。  
5 黑褐色砂質土 (D0YR2/2) 砂粒や多。焼土粒・小ブロック入。  
6 焼土ブロック  
7 褐褐色砂質土 (D0YR3/4) 砂粒や多。焼土粒入。  
8 褐色砂質土 (D0YR4/4) 地山に近い。

0 (1:30) 1m

## 第18図 大木戸18号竪穴



- 1 黒褐色砂質土 (D0YR2/3) 黒褐色土と褐色土の混土。砂粒や多。  
しまり強。燒土小ブロック入。  
2 褐色砂質土 (D0YR4/4) 砂粒や多。黑色土小ブロック含む。  
しまり強。燒土粒入。

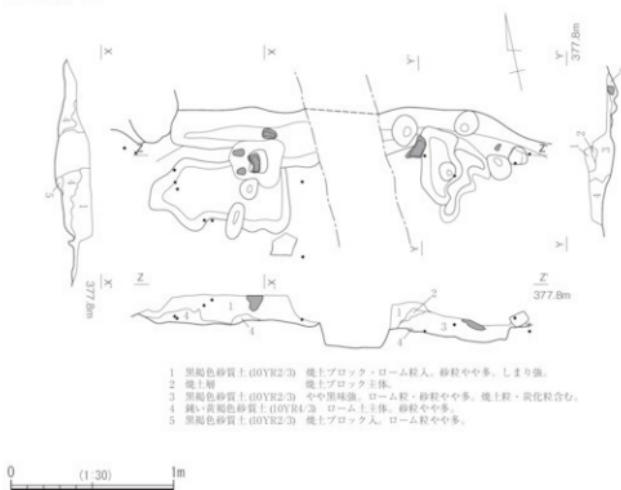
0 (1:60) 2m

19号竪穴

19号竪穴 遺物出土状況

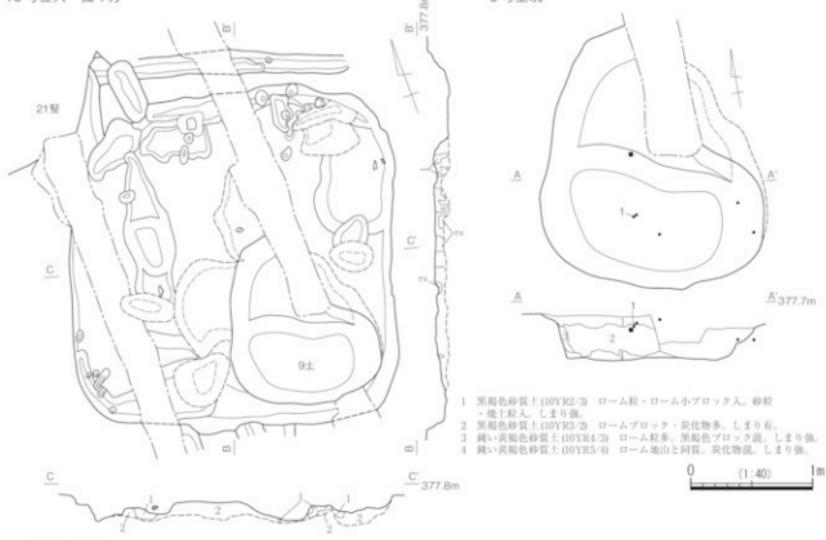


19号竪穴 猫



第19図 大木戸19号竪穴

19号竪穴 挖り方



23号竪穴



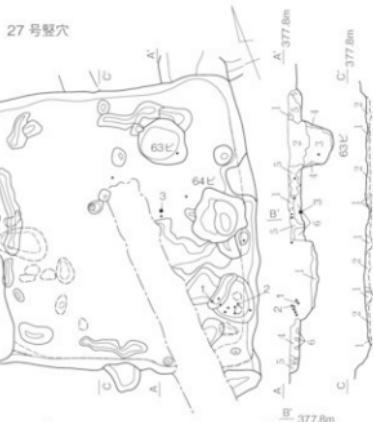
23号 挖り方



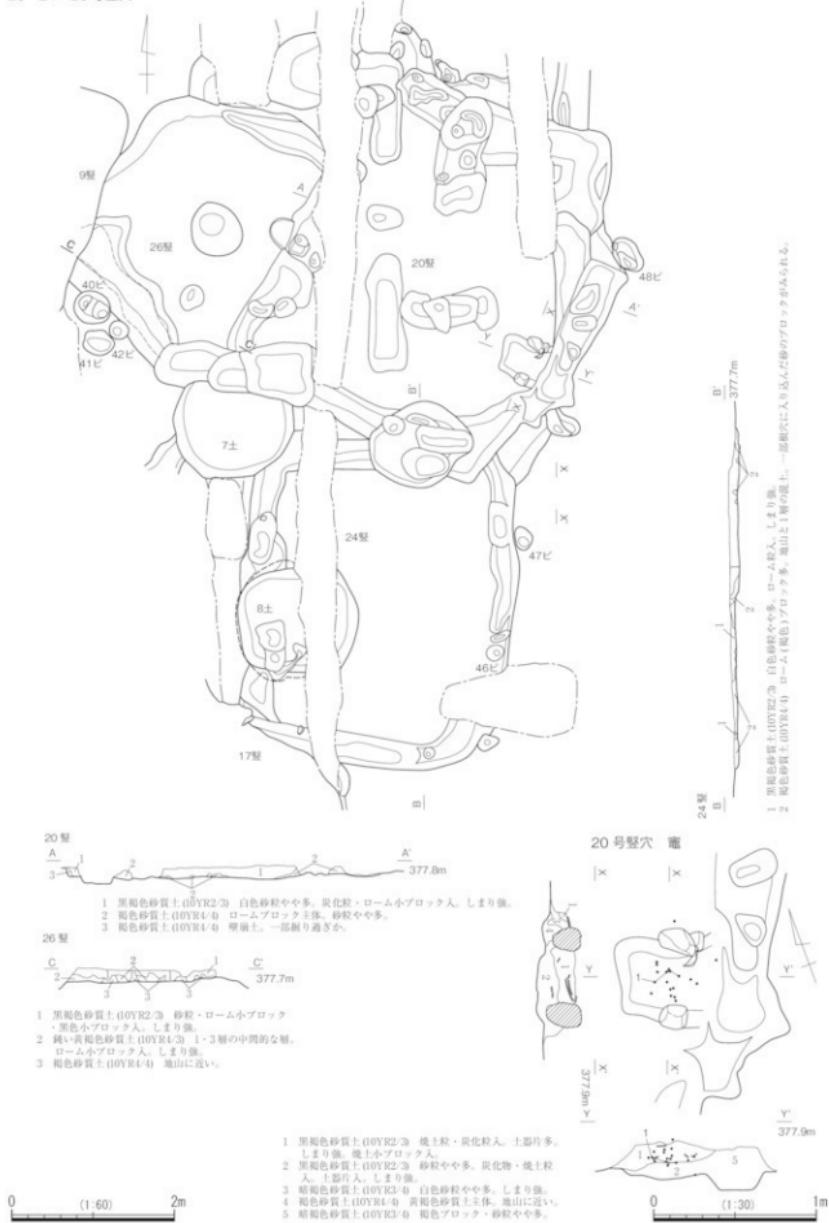
9号土坑



27号竪穴

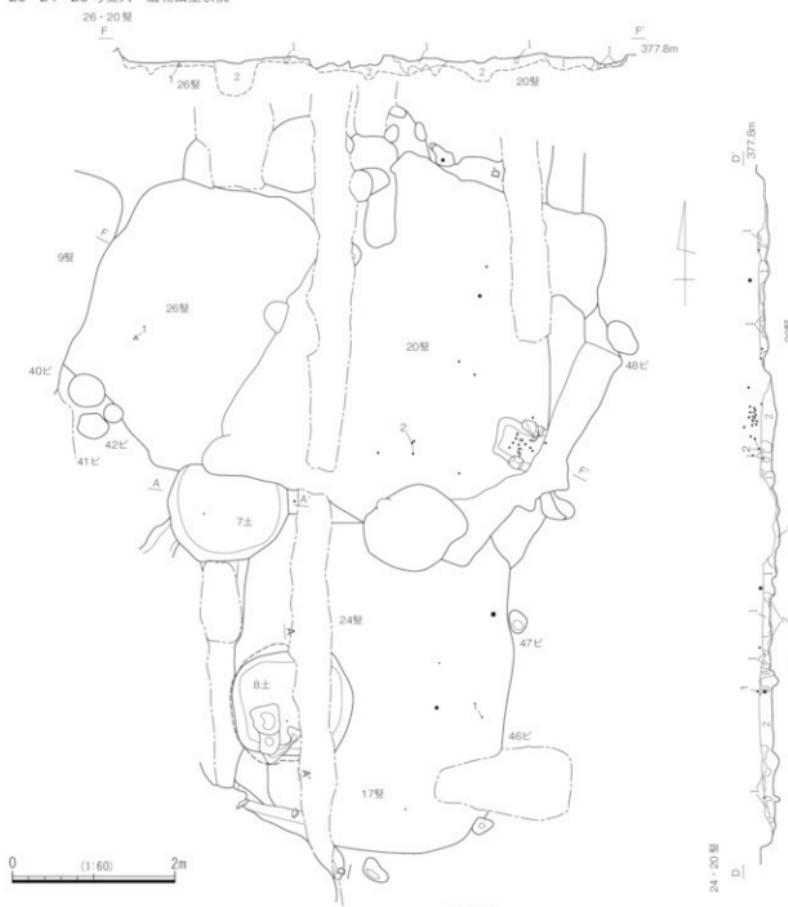


第20図 大木戸19・23・27号竪穴、9号土坑

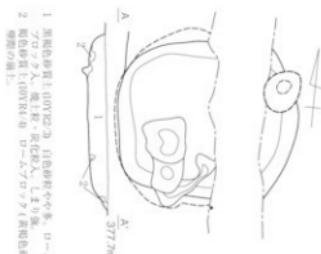


第21図 大木戸20・24・26号堅穴

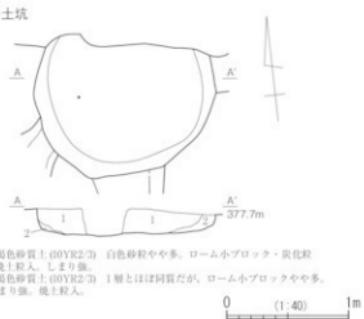
20・24・26号竪穴 遺物出土状況



8号土坑

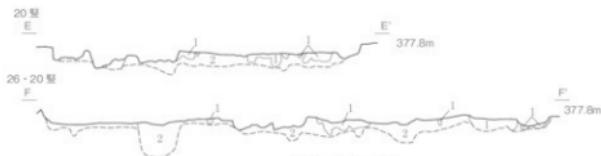
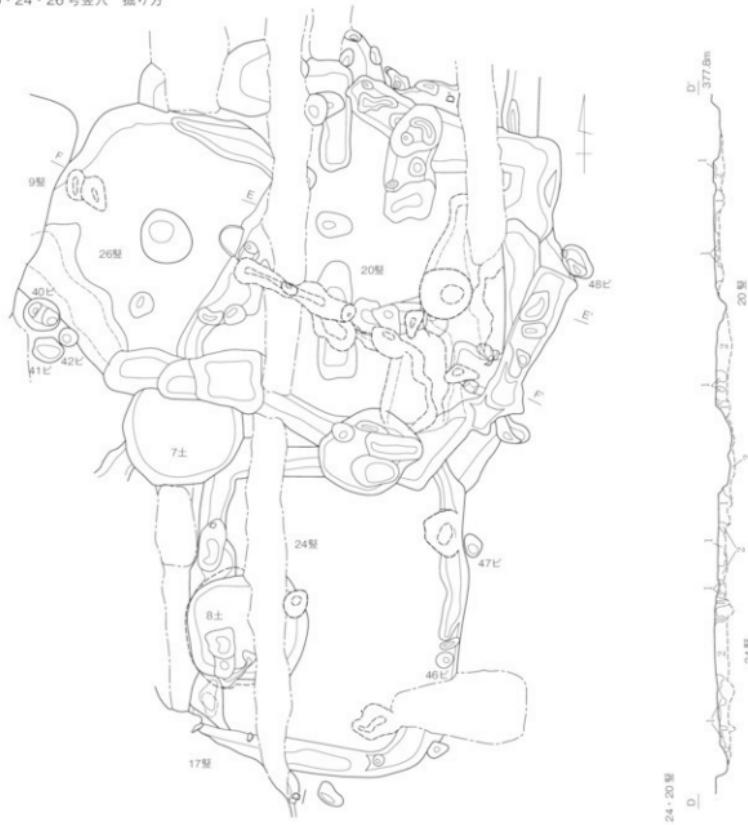


7号土坑



第22図 大木戸20・24・26号竪穴、7・8号土坑

20・24・26号竪穴 掘り方



20・24・26壁 掘り方  
 1 黒褐色砂質土(OYR2-3) 細色ブロック入。砂粒や砂多。塊上粗・炭化物入。しまり強。  
 2 黄褐色砂質土(OYR4-4) 黒色土小ブロック入。砂粒や砂多。塊上粗入。しまり強。地山類似。

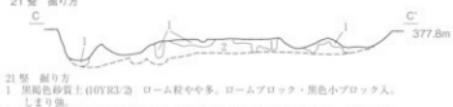
0 (1:60) 2m

第23図 大木戸20・24・26号竪穴

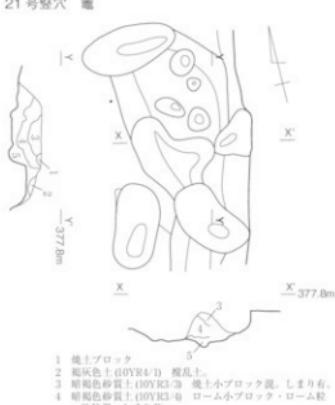
## 21号竪穴



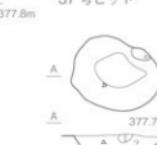
## 21号 織り方



## 21号竪穴 圖



## 37号ビット



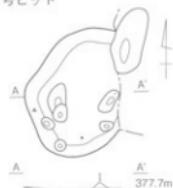
1. 黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土  
 2. 黑褐色土 (10YR3/2) 黑褐色土  
 3. 黄褐色土 (10YR4/3) 地山。

## 38号ビット



1. 黑褐色砂質土 (10YR3/2) しまり強。  
 2. 黄褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土  
 3. 黄褐色砂質土 (10YR4/3) 地山直上。

## 39号ビット



1. 黑褐色砂質土 (10YR3/2) 黑褐色土  
 2. 黄褐色砂質土 (10YR4/4) 砂粒土。しまり強。

## 46号ビット



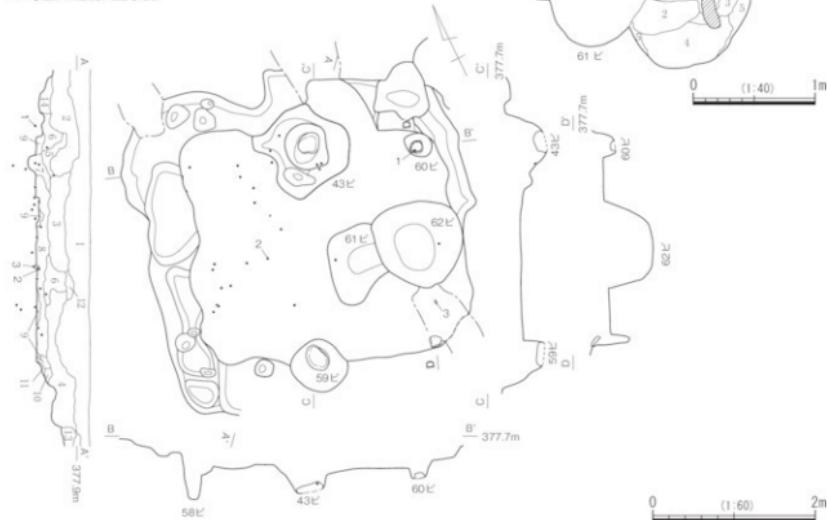
0 (1:40) 1m

第24図 大木戸21号竪穴、37~39・46号ビット

## 22号竪穴

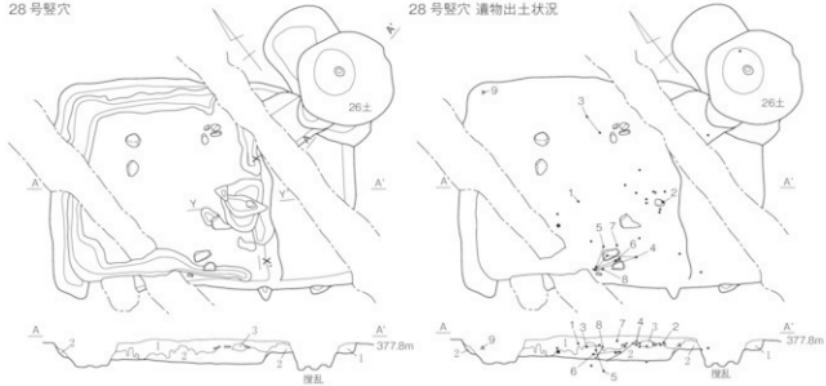


## 22号竪穴 遺物出土状況



第25図 大木戸22号竪穴、62号ピット

28号竪穴

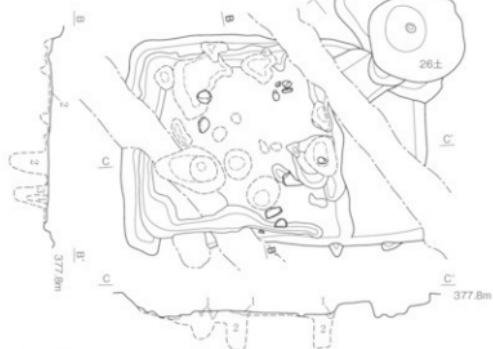


1 黒褐色砂質土 (0YR2/3) 砂粒やや多。しまり強。ローム小ブロック入。  
塊土粒、炭化粒入。

2 脱い黄褐色砂質土 (0YR1/3) 砂粒やや多。しまり強。ローム粒主体。

3 硫土層

28号竪穴 挖り方



28号 窪り方  
1 黒褐色砂質土 (0YR2/3) 砂粒やや多。塊土粒入。柱穴内は堅面状。

2 黄褐色砂質土 (0YR3/4) 砂粒やや多。塊土粒・黒色小ブロック入。

3 黑褐色砂質土 (0YR2/3) 黄褐色の土壁。黒色上ブロックと黄色上ブロックが斑状に混じる。  
塊土粒入。しまり強。

28号竪穴 墓

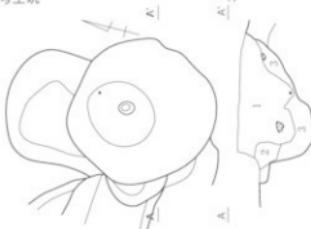


1 黒褐色砂質土 (0YR2/3) 塊土ブロック混。しまり強。  
塊土ブロックやや多。砂粒やや多。炭化物入。

2 黄褐色砂質土 (0YR2/3) 砂粒やや多。黒色小ブロック入。  
しまり強。黄色ブロック入。

3 脱い黄褐色砂質土 (0YR4/3) ローム粒多。堆山直上。

26号土坑



1 黒褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒やや多。ローム小ブロック入。  
塊土粒・炭化物入。

2 黄褐色砂質土 (0YR3/2) 砂粒やや多。

3 黑褐色砂質土 (0YR3/3) 砂粒やや多。ローム粒入。しまり強。

0 (1:60) 2m

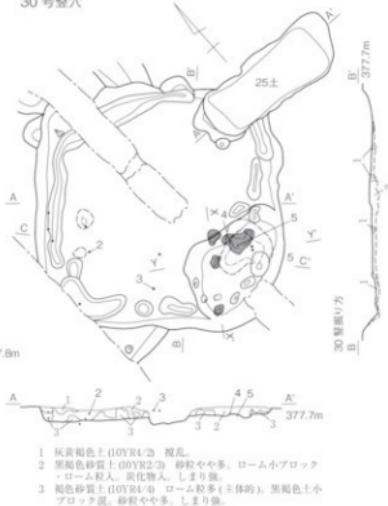
0 (1:40) 1m

第26図 大木戸28号竪穴、26号土坑

29号竪穴



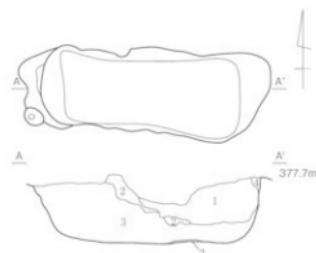
30号竪穴



30号竪穴 窓



25号土坑

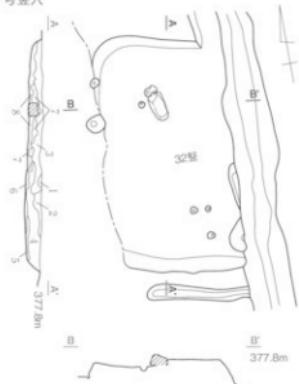


第27図 大木戸29・30号竪穴、25号土坑

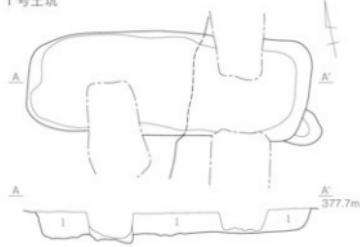
31号竪穴



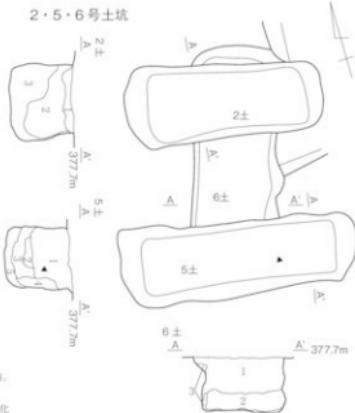
32号竪穴



1号土坑



2・5・6号土坑



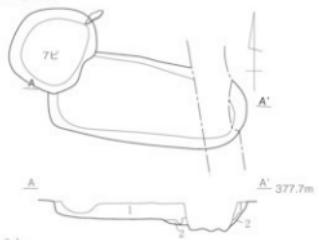
4号土坑



- 5土  
1 布褐色砂質土 (HOYR2/3) 砂粒やや多。ロームブロック多。炭化物有。  
2 黒褐色土 (HOYR3/2) 黒味有。ローム小ブロック入。  
3 黒褐色砂質土 (HOYR2/3) 1層に細粒。ロームブロック多。砂粒やや多。しまり強。  
4 黒褐色砂質土 (HOYR2/3) 黒味強。ローム小ブロック入。しまり強。  
5 黒褐色土 (HOYR2/3) ローム小ブロック・砂粒入。  
3層よりロームブロックの入り方は少ない。しまり強。
- 6土  
1 布褐色砂質土 (HOYR2/3) 砂粒・ローム小ブロック・炭化物や多。塊状入。しまり強。  
2 黒褐色砂質土 (HOYR3/2) やや黒味有。ローム小ブロックやや多。砂粒・炭化物入。しまり強。  
3 黄い黒褐色土 (HOYR4/3) 黄褐色土一部振り過ぎか。塊状の混在有。
- 2土  
1 布褐色土 (HOYR3/4) 黄色小ブロックやや多。砂粒入。しまり強。
- 4土  
1 黒褐色砂質土 (HOYR2/3) 砂粒多。炭化物、塊状入。ロームブロックやや多。  
2 黃い黒褐色砂質土 (HOYR4/3) ロームブロック。ローム土。地盤一部振り過ぎ。

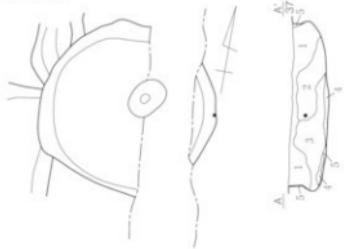
第28図 大木戸31・32号竪穴、1・2・4～6号土坑

3号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (HYR2-3) 砂粒やや多。しまり強。埴土粒・炭化粒有。  
2 褐色砂質土 (HYR3-3) しまり強。ローム粒多。ロームブロック有。

11号土坑



- II 土  
1 黒褐色砂質土 (HYR1C-2) ロームブロックやや多。霜降り状に入る。  
しまり強。砂粒やや多。炭化物入。  
2 鑄い黄褐色砂質土 (HYR4-2) ローム粒主体。砂粒やや多。黒色小  
ブロック・黒色小ブロック入。しまり強。埴土颗粒。  
3 黒褐色土 (HYR3-4) 黒色土層が2層ほど中間に畳状に入る。炭化物  
粒入。  
4 黒褐色土 (HYR2-3) 黒味強。ローム小ブロック入。しまり強。  
5 褐色砂質土 (HYR4-1) 塩山と同質。ローム土。

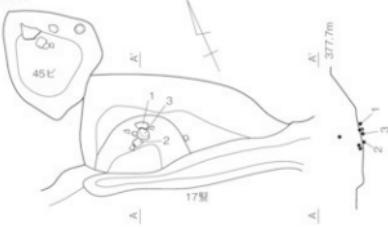
13号土坑



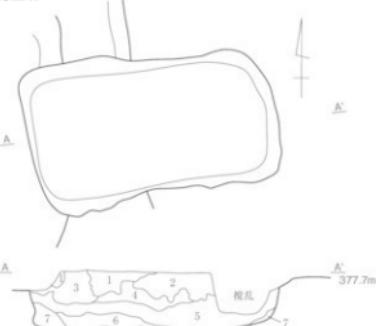
- 13号  
1 黒褐色砂質土 (HYR2-3) ローム小ブ  
ロック多。砂粒やや多。しまり強。  
2 褐色土 (HYR4-4) ブロック状。  
3 黒褐色土 (HYR4-4) 塩山。拂り過ぎか。

0 (1:40) m

10号土坑

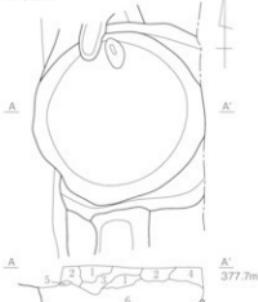


12号土坑



- 12号  
1 黒黄褐色砂質土 (HYR5-2) 棘丸土。黄色ブロック・黒色  
ブロックの混入。しまり弱。  
2 鑄い黄褐色砂質土 (HYR4-2) 褐色砂質土と黑色土の混入。霜降り状に  
混じる。砂粒・黒色小ブロックやや多。しまり強。  
3 黒褐色砂質土 (HYR2-3) 黄色土ブロック・砂粒やや多。しまり強。  
炭化物入。  
4 黒褐色砂質土 (HYR2-3) 砂粒やや多。ローム小ブロック入。しまり強。  
5 黒褐色砂質土 (HYR4-2) ロームブロック・ローム粒多。黑色土小  
ブロック入。しまり強。  
6 黒褐色砂質土 (HYR2-3) 黑色土主体。ローム小ブロック・埴土粒・炭  
化物入。しまり強。  
7 鑄い黄褐色砂質土 (HYR4-3) 黑色粒・黑色土小ブロック混。ローム粒  
主体。しまり強。

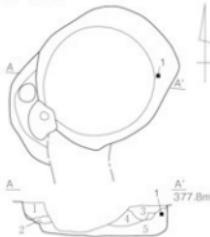
15号土坑



- 15号  
1 黒褐色砂質土 (HYR2-3) 砂粒。ローム小ブロック入。  
しまり強。棘丸か。  
2 鑄い黄褐色砂質土 (HYR4-3) ローム粒多。黑色粒入。  
しまり強。棘丸か。  
3 黑褐色土 (HYR4-2) 棘丸土。しまり弱。  
4 黑褐色砂質土 (HYR4-3) ローム小ブロック入。ローム  
小ブロックやや多。ローム小ブロックが霜降り状に  
混じる。しまり弱。

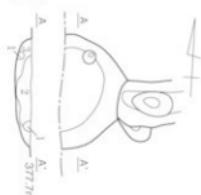
第29図 大木戸3・10~15号土坑

16号土坑



- 16上 黄褐色土 (0YR4/2) 植木。  
2 黑褐色土 (0YR4/2) 植木に伴う褐色土層。  
3 土坑の上に載る。  
3 断面砂質土 (0YR2/4) ローム粒・ローム  
ブロック多。黒褐色小ブロック。しまり有。  
4 黑褐色砂質土 (0YR2/3) 砂粒や多。黒味強。  
5 黑褐色砂質土 (0YR2/3) ローム小ブロック  
(崩壊状)・ローム粒や少。しまり強。

20号土坑



- 20上 黑褐色土 (0YR5-6) ブロック状。地山類似。  
2 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。ローム  
粒・ローム小ブロック・黒褐色・炭化物入。  
しまり強。  
3 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。黒褐色  
・ローム小ブロック入。2割2りやローム粒多。  
しまり強。

23号土坑

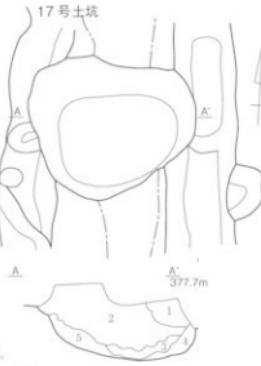


- 19上 1 黑褐色砂質土 (0YR2/2) ロームブロック・ローム粒崩落状に混入。  
2 黑褐色砂質土 (0YR4/2) ローム粒入。砂粒や多。  
しまり強。  
3 鮎形黄褐色砂質土 (0YR4/2) 黒色小ブロックとロームブロックの  
混入。崩落状。砂粒や多。しまり強。  
4 鮎形黄褐色砂質土 (0YR4/2) ロームブロックを崩状に含む。黑色  
土層。砂粒や多。しまり強。  
5 断面砂質土 (0YR2/3) ローム粒・ロームブロックを多く含む。  
黑色小ブロック多。砂粒や多。しまり強。  
6 鮎形黄褐色砂質土 (0YR4/3) 崩壊土。黑色土小ブロック入。

- 23下 1 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。ローム小  
ブロック・ローム粒入。しまり有。  
2 黑褐色砂質土 (0YR2/2) ローム小ブロックや多。  
ローム粒入。1割とはば同質・ローム小ブロック多。  
しまり強。  
3 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 根に入り込んだ2割。  
4 断面砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。ローム粒多。  
黒味弱。塵入。しまり強。

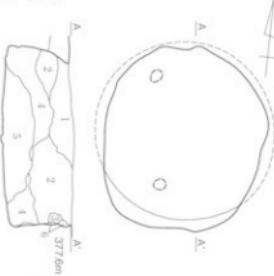
- 22上 1 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。炭化物・ローム  
ブロック入。しまり有。  
2 鮎形黑褐色砂質土 (0YR4/2) ローム粒主体。黒褐色小  
ブロック多。しまり強。葉石入 (φ 4 ~ 8cm)  
15 ~ 20ヶ入。赤変帶有。  
3 黑褐色砂質土 (0YR2/2) ローム粒入。砂粒や多。しまり強。

17号土坑



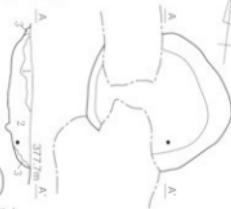
- 17上 1 断面砂質土 (0YR4/2) 砂粒や多。ローム粒  
しまり強。  
2 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。ローム  
ブロック・ローム粒入。しまり強。  
3 鮎形黒褐色砂質土 (0YR4/2) ローム粒や多。  
4 鮎形黒褐色砂質土 (0YR4/2) 地山直上。ロームブロック入。  
しまり強。  
5 黃褐色砂質土 (0YR5-6) 地山直上～地山。  
しまり強。一部削り消す。

18号土坑



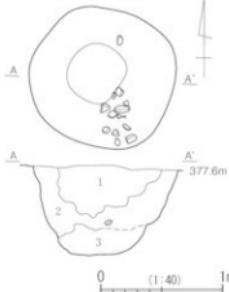
- 18上 1 黑褐色砂質土 (0YR2/2) ローム小ブロック入。  
粗粒土混入。炭化物・土栓粒入。しまり強。  
2 黑褐色砂質土 (0YR2/2) ローム粒・ローム小  
ブロックを崩壊状に含む。砂粒や多。  
しまり強。  
3 黑褐色土 (0YR3/2) ローム粒入。  
4 鮎形黄褐色砂質土 (0YR4/2) ローム・ローム  
ブロックと黒褐色土の混入。崩壊に互觸する。  
5 鮎形黄褐色砂質土 (0YR4/2) ロームブロック・  
ローム粒中に黑色土小ブロックを崩壊状に含む。  
4割に近い。砂粒や多。しまり強。

21号土坑



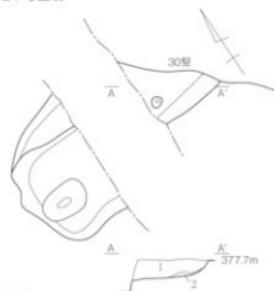
- 21上 1 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 炭化物・ローム  
小ブロック入。砂粒や多。しまり強。  
2 黑褐色砂質土 (0YR2/2) 砂粒や多。炭  
化物・ローム粒・ローム小ブロック入。しまり強。  
3 鮎形黄褐色砂質土 (0YR4/2) ローム粒・  
ロームブロック多。黒色小ブロック入。地山直上。

22号土坑



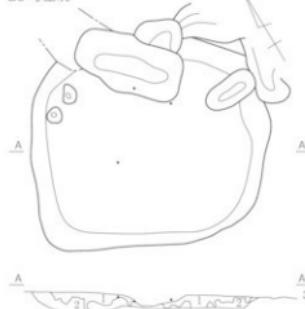
第30図 大木戸16~23号土坑

## 24号土坑



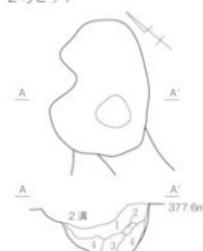
- 24土  
1 黒褐色砂質土(HYR2-2) 砂粒やや多。燒土粒・ロームブロック・炭化物・ローム粒入。しまり強。  
2 黄褐色土(HYR4-0) 地山直上・地山。

## 29号土坑



- 29土  
1 黑褐色砂質土(HYR2-2) 砂粒やや多。燒土粒・ローム粒入。しまり強。  
2 黄褐色砂質土(HYR4-0) 砂粒やや多。燒土粒・炭化物入。黒色小ブロック入。しまり強。

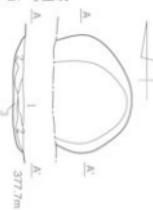
## 2号ピット



- 2ピット  
1 黑褐色土(HYR3-3) 黑味有。炭化物有。  
2 黄褐色土(HYR2-2) 黄色土のブロック。  
3 焼土粒(HYR2-3) やや黒味有。柱状状。  
4 黑褐色砂質土(HYR3-0) 黑褐色砂をやや多く含む。1層に高い。

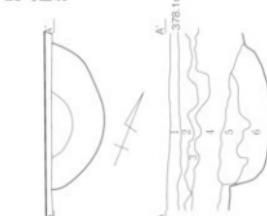
5. 焼物含む。

## 27号土坑



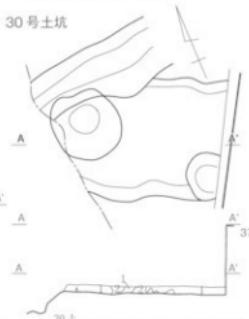
- 27土  
1 黑褐色砂質土(HYR4-2) 楊丸。  
2 黑褐色砂質土(HYR2-2) 黄色  
小砂粒。砂粒やや多。黒味。  
3 黄褐色砂質土(GSYR3-0) 地山が  
酸化した層。粒分がサビ化した  
黒色粒が多く含む。燒土粒? 有。

## 28号土坑



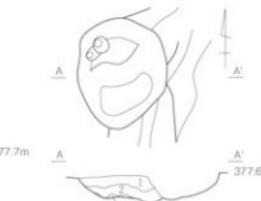
- 28土  
1 黑灰色土(HYR4-0) 表土。耕作土。  
2 黄褐色土(HYR4-0) 表土・泥水田解か。  
3 黄褐色土(HYR4-0) 田の泥水田か。しまり強。  
4 黑褐色砂質土(HYR2-2) ローム小ブロック・砂粒。  
5 黑褐色砂質土(HYR2-2) ロームブロック混土。  
6 黑褐色砂質土(HYR2-2) ローム小ブロック入。  
5層とは同じ。しまり強。  
7 黄褐色砂質土(HYR5-0) 地山。

## 30号土坑



- 30土  
1 黑褐色砂質土(HYR2-3) 砂粒やや多。  
燒土粒・炭化物入。しまり強。  
2 黄褐色砂質土(HYR4-0) ローム土・休  
砂粒やや多。黑色土小ブロック入。  
しまり強。

## 1号ピット



- 1ピット  
1 黑褐色砂質土(HYR3-0) 黄褐色砂質ブロックを  
多く含む。しまり強。  
2 黑褐色土(HYR2-2) 1層と同質だが、黄褐色ブ  
ロックは殆ど含まれない。しまり強。  
3 黄褐色砂質土(HYR4-0) 地山。砂質土。しまり有。

## 4号ピット



- 4ピット  
1 黑褐色砂質土(HYR2-2) 黑褐色  
ブロック多。砂粒多。しまり強。  
2 黄褐色砂質土(HYR4-0) 地山。砂粒多。  
しまり強。

## 6号ピット



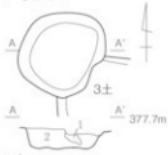
- 6号ピット  
1 黑褐色砂質土(HYR2-0) 砂粒やや多。  
しまり強。燒土粒。  
2 黄褐色土(HYR4-0) しまり強。一部  
3層で柱状層が認められる。黄褐色ブ  
ロック大。砂粒やや多。  
3 黃褐色砂質土(HYR5-0) しまり強。  
柱状層少。地山。

- 3ピット  
1 黑褐色土(HYR3-2) 砂質土。黒味有。6ピ  
しまり強。柱状有。燒土粒。  
2 黄褐色土(HYR3-2) 黄色の地山と同  
質のブロックを多く含む。  
炭化物・焼土粒。しまり強。  
3 黄褐色砂質土(HYR4-0) しまり有。  
地山。

0 (1:40) 1m

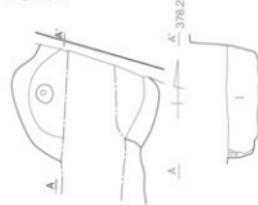
第31図 大木戸 24・27~30号土坑、1~6号ピット

## 7号ピット



- 7ビ  
1 黄褐色土 (0YR4/4) ローム粒主体。砂粒や多。塊状入。  
2 黒褐色砂質土 (0YR2/3) 砂粒や多。ローム (黄色) 小プロック入。しまり強。塊状・炭化粒入。

## 9号ピット



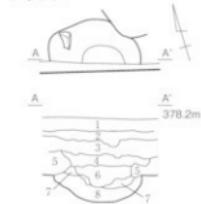
- 9ビ  
1 塗褐色砂質土 (0YR2/2) ロームブロックや多。砂粒入。炭化粒入。  
2 黑褐色砂質土 (0YR4/4) ロームブロック多。砂粒、ローム粒や多。しまり強。

## 11号ピット



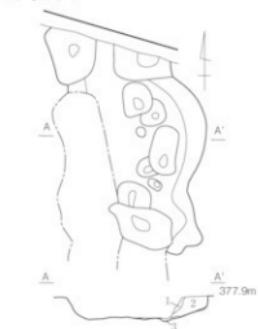
- 11ビ  
1 塗褐色土 (0YR3/3) 砂粒含む。塊状・炭化粒・しまり強。黒味強。  
2 黑褐色土 (0YR4/0) 地山と1層の混土。しまり強。塊状。

## 8号ピット



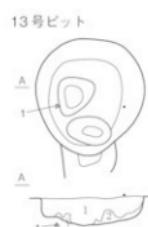
- 8ビ  
1 从黄褐色土 (0YR4/2) 細の耕作土。砂粒入。炭化粒入。  
2 黄褐色土 (0YR5/2) 固水層。砂粒や多。塊状入。  
3 黄褐色土 (0YR5/4) 固水層の止水層。サビ灰着。  
4 塗褐色土 (0YR3/3) ローム小プロックや多。砂粒入。  
5 鮎い黄褐色土 (0YR4/4) 黄褐色  
(ローム) 砂粒入。  
6 黄褐色土 (0YR4/4) ローム小プロック、ローム粒入。やや灰味強。しまりやや弱。  
7 鮎い黄褐色土 (0YR4/3) ローム小プロックや多。ローム粒入。  
8 黑褐色砂質土 (0YR2/3) ローム粒入。やや黒味強。しまり有。 (段丘かも)

## 10号ピット



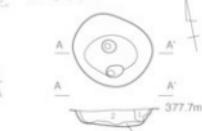
- 10ビ  
1 从黄褐色土 (0YR5/2) 混乱土。ローム粒や多。  
2 黑褐色砂質土 (0YR2/3) 黑色砂粒や多。ローム小プロック・塊土・ローム粒入。しまり強。  
3 黑褐色質土 (0YR4/4) 地山と同質。無り強。ローム上。

## 13号ピット



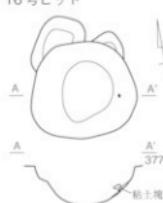
- 13ビ  
1 塗褐色土 (0YR3/3) 黑味強。塊状入。ローム小プロック入。しまりやく弱。  
2 黄褐色土 (0YR4/4) 地山ローム土。砂粒入。しまり有。

## 21号ピット



- 21ビ  
1 黄褐色土 (0YR2/2) 黑味強。  
2 黄褐色砂質土 (0YR1/2) 砂粒・黑色小プロック・塊土等混入。しまり強。  
3 鮎い黄褐色砂質土 (0YR4/3) 黑褐色土小プロック入。しまり強。地山直上。

## 16号ピット



粘土地

## 18号ピット



- 18ビ  
1 黑褐色砂質土 (0YR3/2) 黑味強。褐色土ブロックや多。しまり強。  
2 鮎い黃褐色砂質土 (0YR3/3) 黄褐色砂質土主体。砂粒少。多。黑色小プロック入。しまり強。  
3 黃褐色砂質土 (0YR3/3) 黄褐色砂質土主体。砂粒少。多。黑色小プロック入。しまり強。  
4 从灰褐色土 (0YR1/2) 塗土。

## 20号ピット



- 20ビ  
1 黑褐色土 (0YR2/2) 黑味強。

2 黄褐色砂質土 (0YR3/0) 砂粒・黑色小プロック・塊土等混入。しまり強。

3 鮎い黄褐色砂質土 (0YR4/3) 黑褐色土小プロック入。しまり強。地山直上。

## 22号ピット



- 22ビ  
1 黑褐色土 (0YR3/2) 黑味有。黑色小プロック主体。  
2 黄褐色土 (0YR5/5) 黄色味ある土 (ヤギ化した土)。

3 鮎い黄褐色砂質土 (0YR4/3) 黑色小プロック入。黑色味や多。

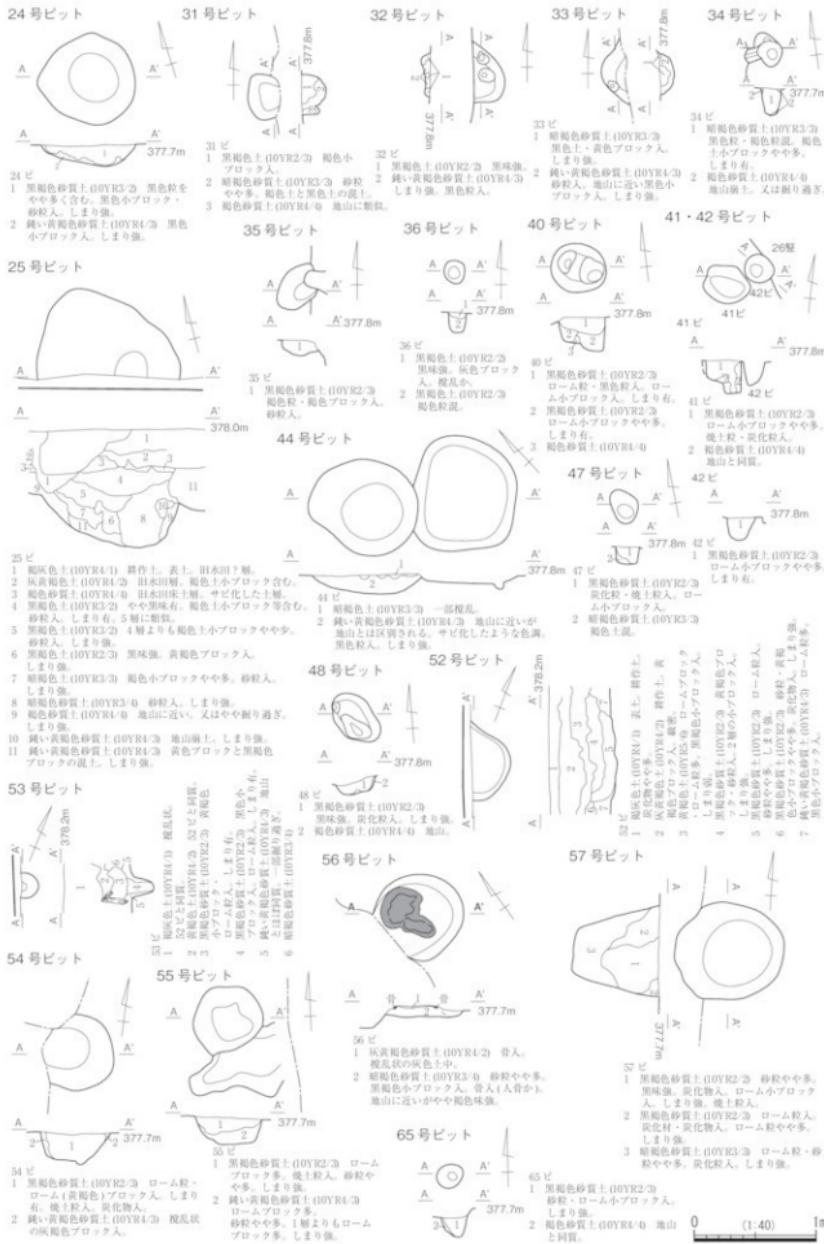
## 23号ピット



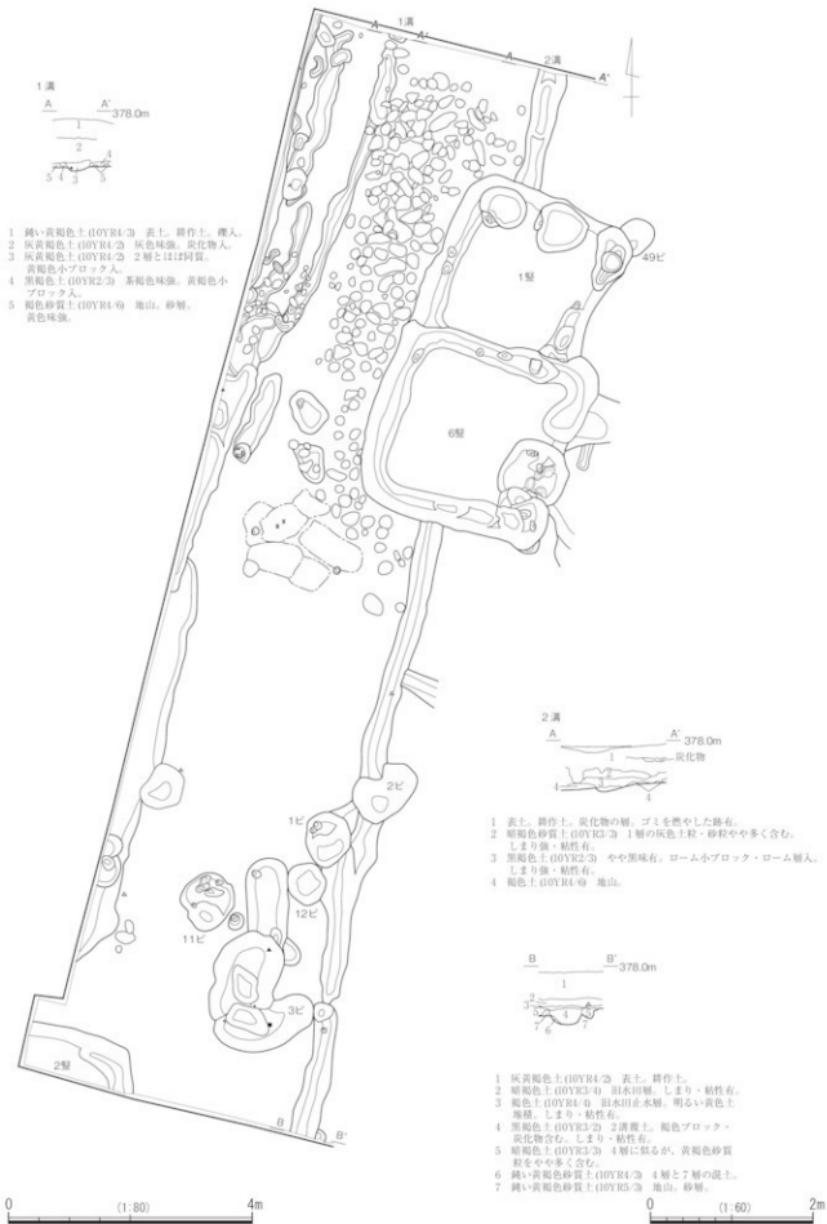
- 23ビ  
1 黑褐色土 (0YR2/2) 黑味有。  
2 鮎い黄褐色砂質土 (0YR4/3) 砂粒入。しまり強。黑色小プロック入。

0 (1:40) 1m

第32図 大木戸7～13・15・16・18・20～23号ピット



第33図 大木戸24・25・31~36・40~42・44・47・48・52~57号ビット



第34図 大木戸1・2号溝

1・3号竪穴

3層

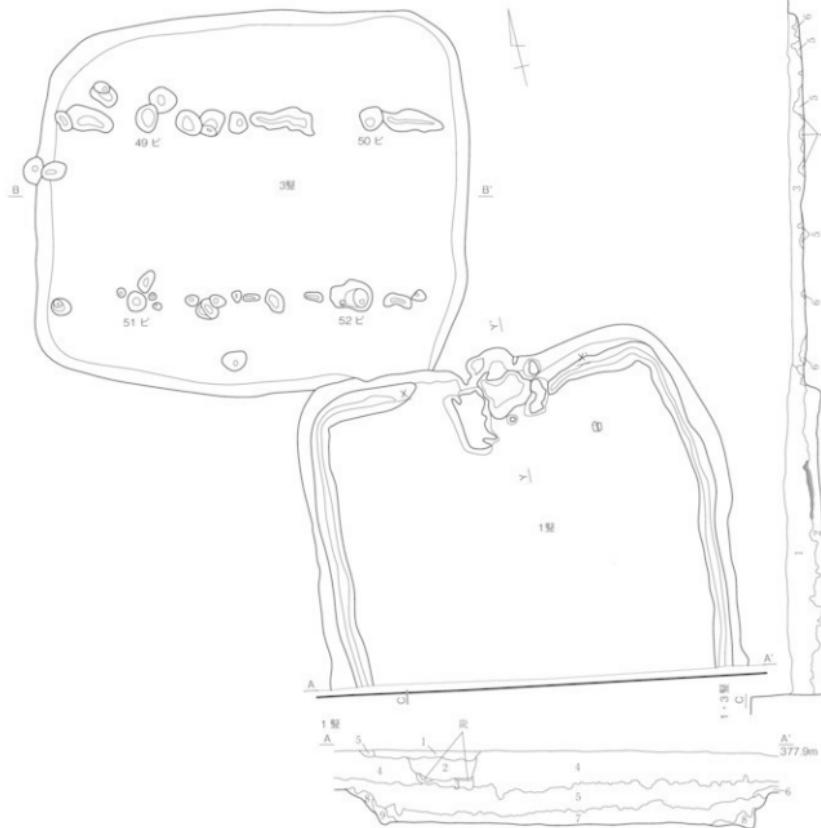


3層

- 1 黒褐色砂質土 (10YR3-2) 砂程や多。燒土粒、炭化粒や少。ローム小ブロック入。しまり強。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR2-3) 1層よりも頂部右。炭化物、燒土小ブロック、ローム粒入。ローム小ブロック、ロームブロック入。
- 3 黑褐色土 (10YR2-4) ローム小ブロック、ローム粒や多。黒色人。しまり有。
- 4 黑褐色土 (10YR2-3) 黒味強。8層に鉛鉱。
- 5 細い黄褐色土 (10YR4-3) 3層よりもローム粒多。ローム小ブロック入。
- 6 黄褐色土 (10YR4-4) ローム土主体。じやや直上。3層との混土。
- 7 黄褐色土 (10YR4-2) 混乱土。黒色土ブロック入。
- 8 黑色土 (10YR2-1) 黑味強。ロームブロック混。灰黃褐色ブロック混。炭化物、燒土粒入。しまり有。
- 9 黄褐色土 (10YR3-4) 灰黃褐色小ブロック混。ローム粒入。

i

C-C' 377.2m

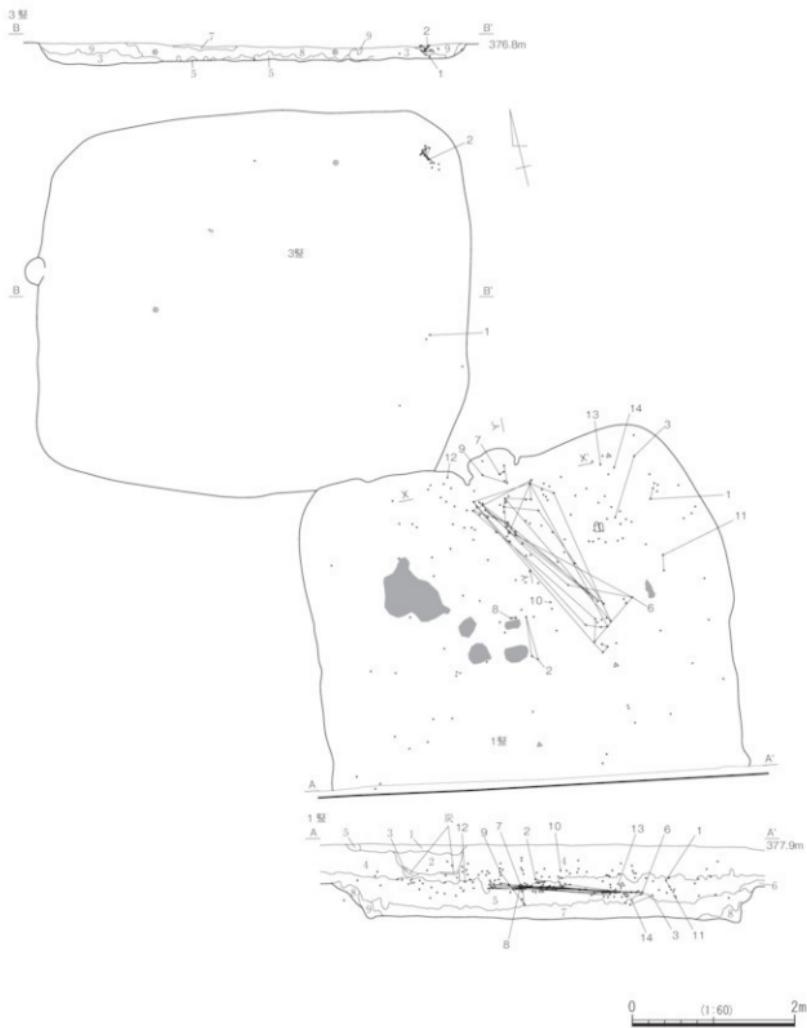


- 1層
- 1 黄褐色砂質土 (10YR4-4) 表土層。
- 2 燃土層 高年のゴミ焼き跡。灰・燒土・炭化層の互層。
- 3 黄褐色砂質土 (10YR4-2) 粘性・しまりなし。表土の混入。1～3層は同じ概況。
- 4 黄褐色砂質土 (10YR4-2) 燃土層。表土層。
- 5 黑褐色砂質土 (10YR3-2) 黄褐色土小ブロック混。炭化物・燒土粒。土器入。黒色土ブロック。しまり有。
- 6 細い黄褐色土 (10YR4-4) 地山削取の土。
- 7 黑褐色砂質土 (10YR4-3) 黑味強。ローム小ブロック入。燒土粒・炭化物入。しまり有。
- 8 黄褐色砂質土 (10YR4-4) 黑褐色土混土。燒土層か。しまり強。ローム土主体・多。
- 9 黑褐色土 (10YR3-2) ローム小ブロックや多。しまり有。



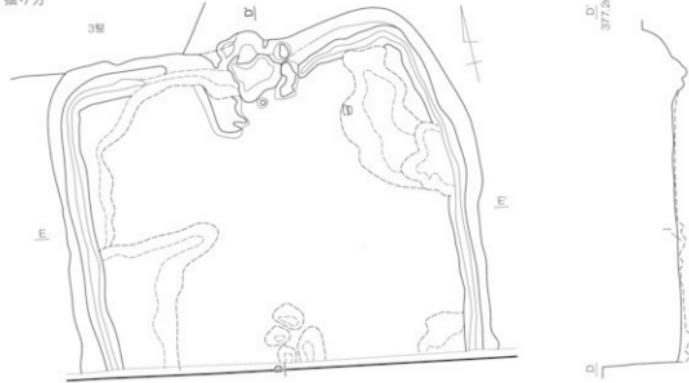
第35図 后畠1・3号竪穴

1・3号竪穴 遺物出土状況

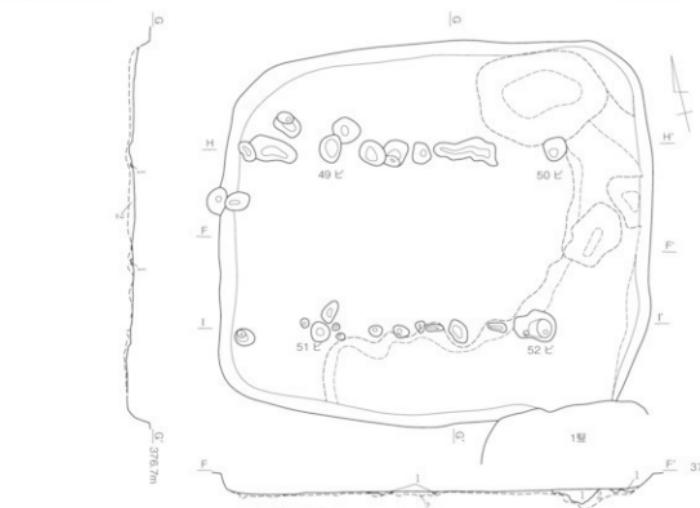


第36図 后烟1・3号竪穴

1号竪穴 挖り方

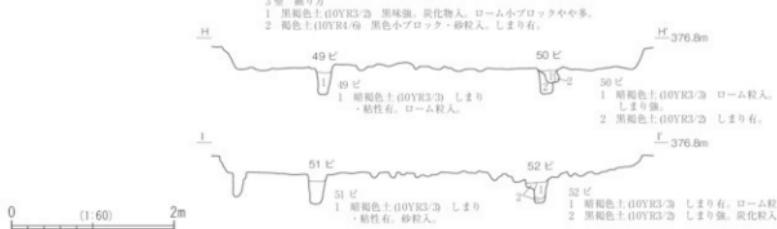


3号竪穴 挖り方



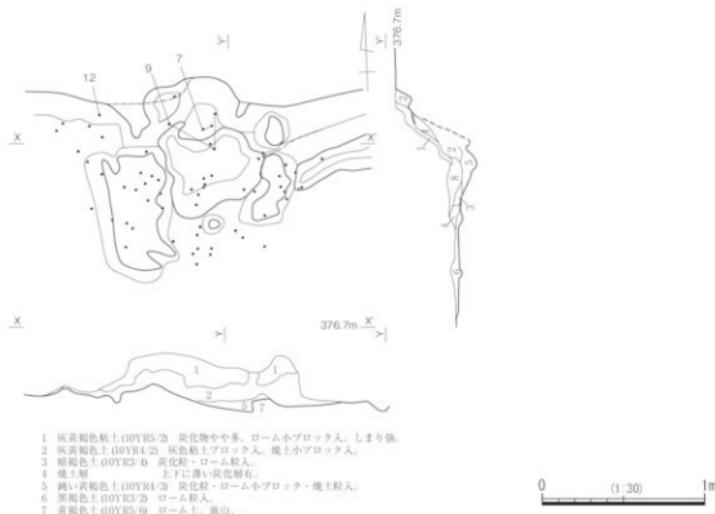
3号 挖り方  
1 黒褐色土 (0YR3-2) 黒味強。炭化物入。ローム小ブロックや多。  
2 黄色土 (0YR4-0) 黑色小ブロック・砂粒入。しまり有。

1 黒褐色砂質土 (10YH3-2) 炭化物や多。  
ロームブロック多。  
2 黄色砂質土 (0YR4-0) 地山類似。黑色  
小ブロック。

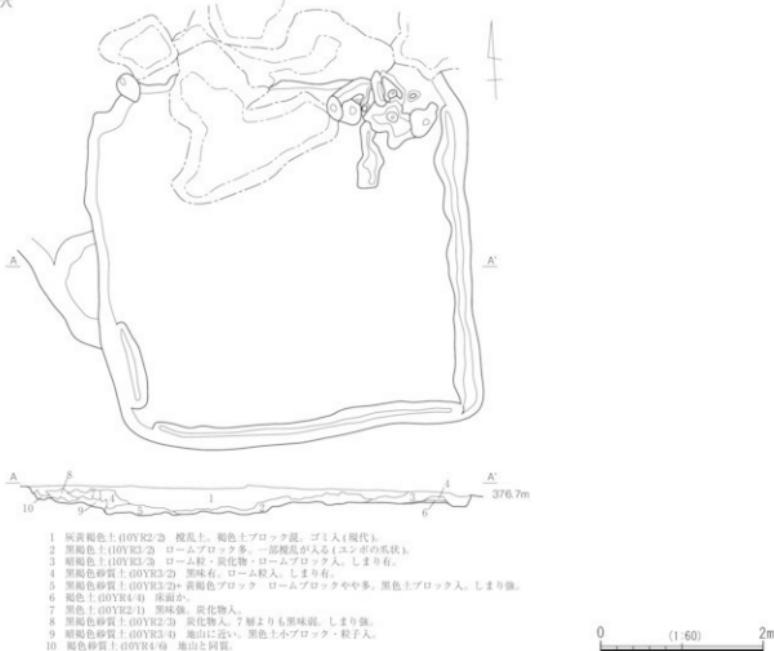


第37図 后畠1・3号竪穴

1号豊穴 窓



2号豊穴

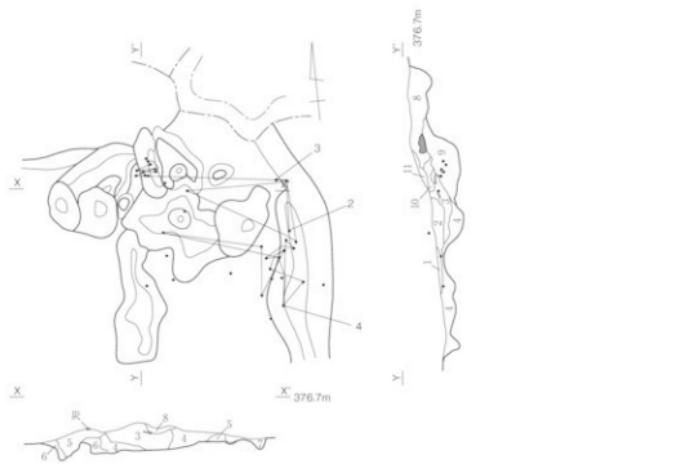


第38図 后畠1・2号豊穴

2号竖穴 遺物出土状況



2号竖穴 磷



- 1 黄褐色土 (G0YR4/2) 下層に薄い炭化層を含む。ローム粒・ローム小ブロック有。灰層含む。
- 2 黄褐色土 (G0YR4/2) 1層とはほぼ同じ。礫土小ブロック・灰色小ブロック入。炭化物入。
- 3 斜褐色土 (I0YR3/3) ローム小ブロックやや多。礫土小ブロック・灰色小ブロック入。炭化物入。
- 4 斜褐色土 (I0YR3/3) ローム小ブロック・ローム粒やや多。黄色小ブロック入。跳状。
- 5 斜褐色土 (I0YR3/3) ローム小ブロック・ローム粒やや多。灰色小ブロック入 (礁粘土状)。
- 6 黄褐色土 (I0YR3/3) 煙山と同質のローム小ブロック多。炭化物入。
- 7 斜褐色土 (I0YR3/4) ローム粒・ローム小ブロック・灰色小ブロック入。
- 8 薄い黄褐色土 (I0YR4/3) ローム粒・ローム小ブロック・灰色小ブロック入。
- 9 黑褐色土 (I0YR3/2) 煙瓦土。炭化材。やや多。
- 10 岩灰土粘土 (G0YR5/3) 瓦の軸上か。しまり強。
- 11 黒褐色土 (7.5YR3/2) 8層に伴う煙瓦土。

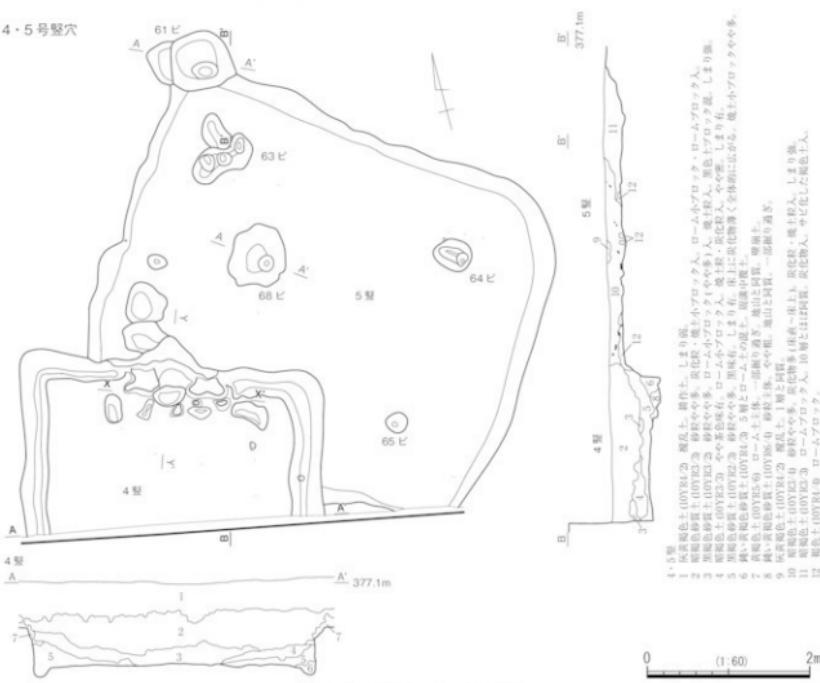
第39図 后畠2号竖穴

2号竪穴 掘り方



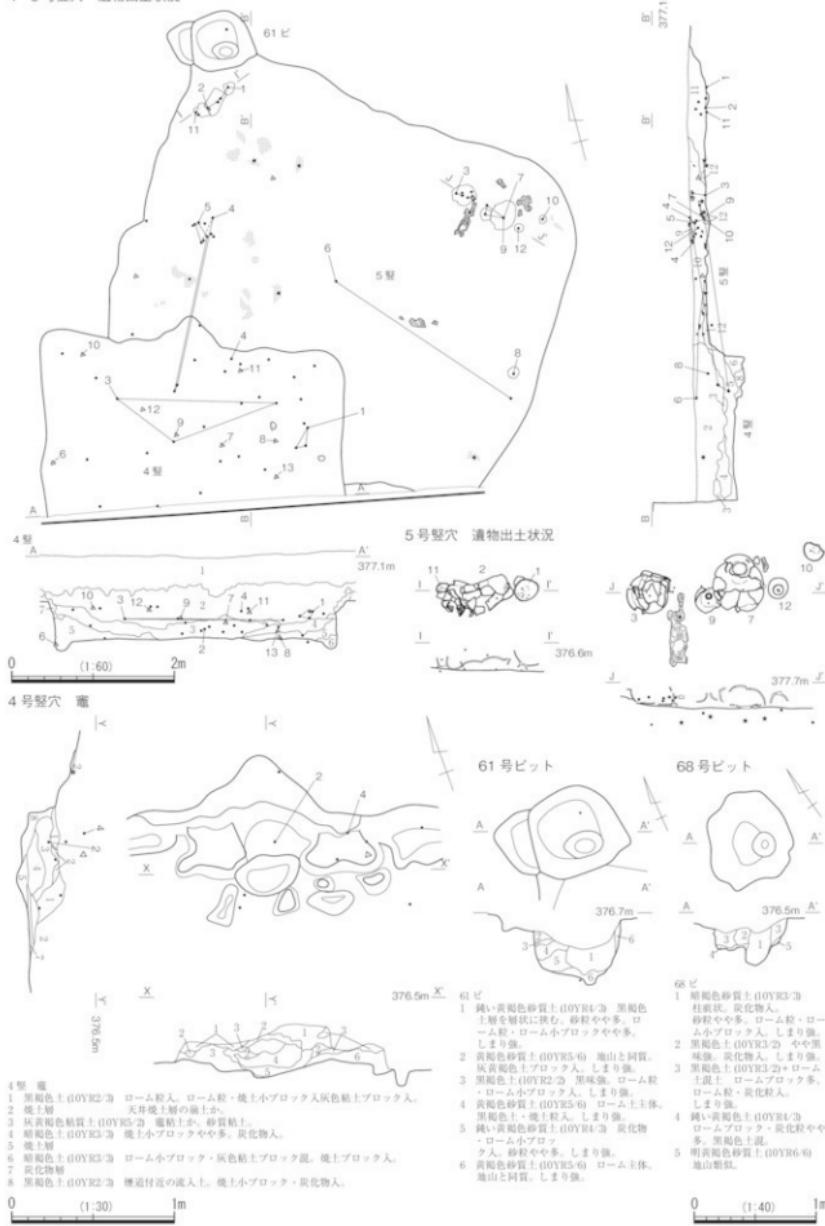
1 黒褐色土 (0FYR2-3) ローム小ブロックやや多。炭化物入。焼土小ブロック入。  
2 褐色砂質土 (0FYR4-4) 黒褐色小ブロック入。砂粒やや多。炭化物・焼土入。

4・5号竪穴



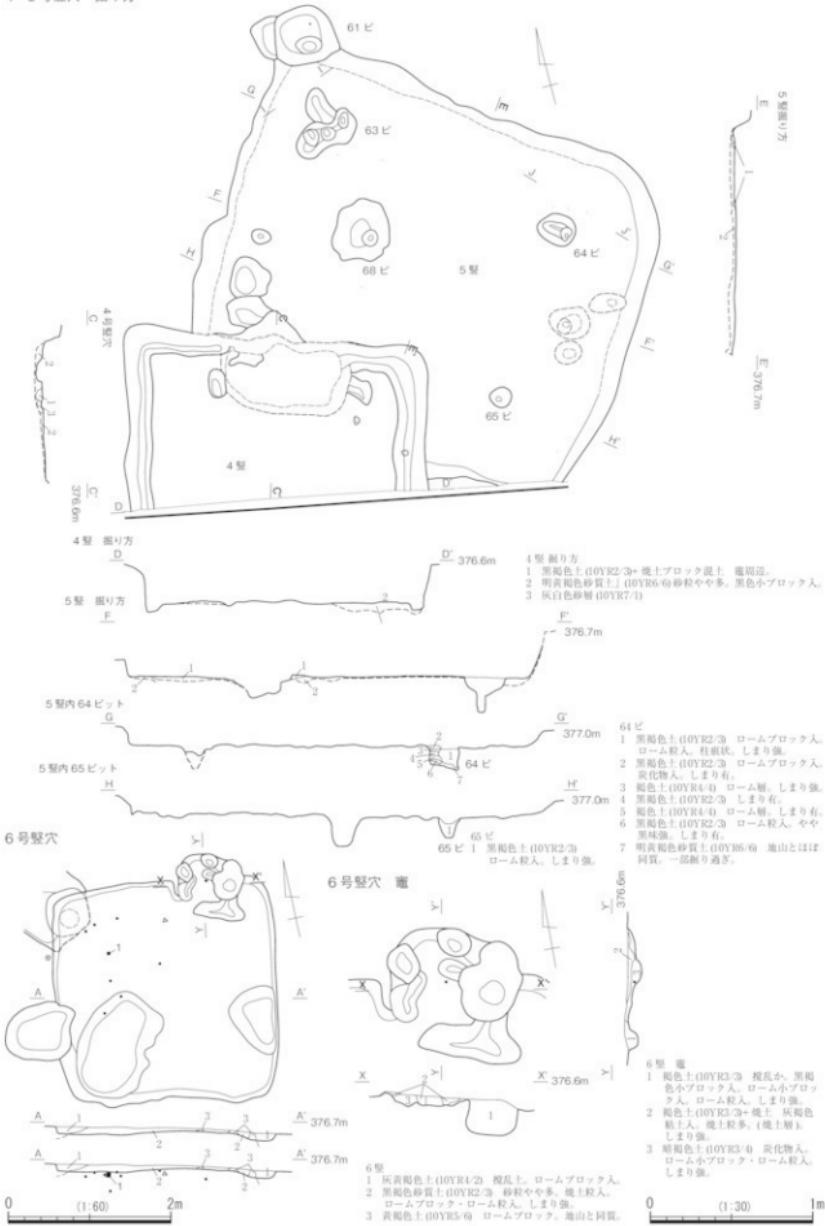
第40図 后畠2・4・5号竪穴

4・5号竪穴 遺物出土状況



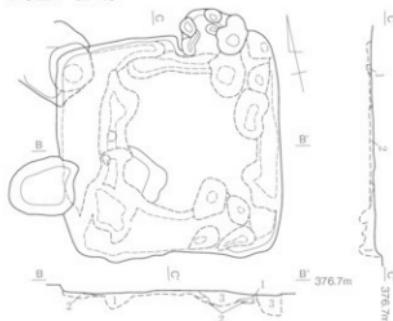
第41図 后畠4・5号竪穴、61・68号ビット

4・5号竪穴 振り方

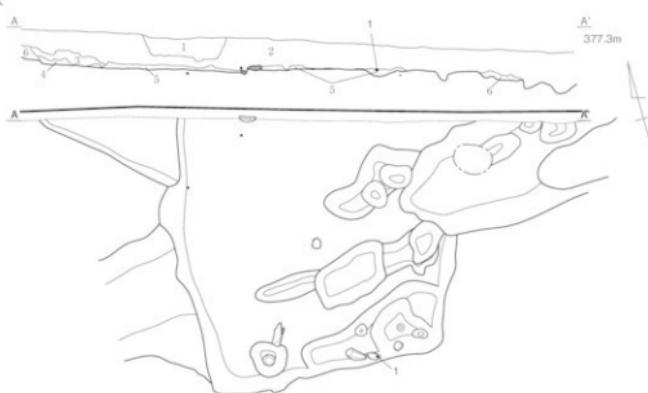


第42図 后烟 4～6号竪穴

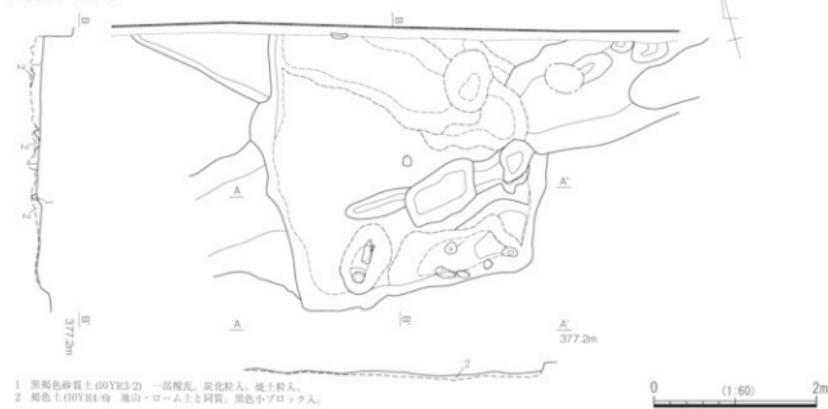
6号堅穴 振り方



7号堅穴

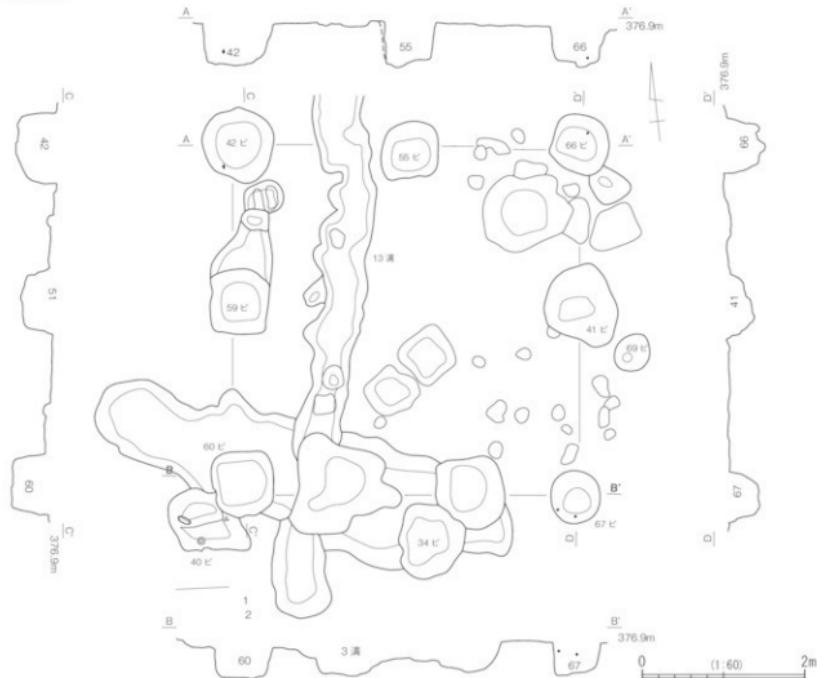


7号堅穴 振り方

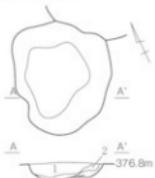


第43図 后畠6・7号ビット

1号掘立柱

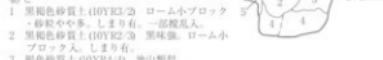


34号ビット



- 灰黃褐色土 (0YR4-2) 塗瓦土。
- 黒褐色土ブロック層。
- 褐色砂質土 (0YR2-2) 黑味有。ローム粒入。
- 褐色砂質土 (0YR4-4) 地山鉱質。

40号ビット



- 褐色砂質土 (10YR2-2) ローム小ブロック。

・砂粒やや多。しまり有。

- 黒褐色砂質土 (10YR2-2) 黑味強。ローム小ブロック入。

- 褐色砂質土 (10YR4-4) 地山鉱質。

1 黃褐色土 (0YR5-6) ロームブロック・燒土粒入。

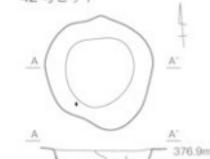
2 灰褐色砂質土 (10YR3-3) 燒土粒・黑褐色土・小ブロック。ローム小ブロック入。

3 褐色砂質土 (10YR4-2) ローム粒・ローム小ブロック入。

4 褐色砂質土 (10YR4-3) 黄褐色土層と黒褐色土層の互層。黑色土ブロック入。

5 黄褐色土 (0YR5-6) 燃山と同質。ローム土・燒土粒。

42号ビット



- 暗褐色砂質土 (10YR3-4) 砂粒やや多。ローム粒入。

2 灰褐色砂質土 (10YR3-3) ローム小ブロ

ク・砂粒やや多。燒土粒・炭化粒入。

3 黑褐色砂質土 (10YR3-3) ローム粒入。

4 黑褐色砂質土 (10YR4-4) 砂粒やや多。ローム粒・ローム小ブロック入。やや

黄味有。しまり強。

1 黃褐色砂質土 (10YR3-3) 灰黃褐色ブ

ロック・ロームブロック混。燒土粒・

炭化粒・砂粒やや多。

2 黑褐色砂質土 (10YR2-3) 黑味強。炭

化物・砂粒やや多。燒土粒・

砂粒やや多。しまり有。

3 黄褐色砂質土 (10YR4-4) ローム粒やや多。

4 黄褐色砂質土 (10YR5-6) 燃山と同質。ローム土・燒土粒。

41号ビット



- 暗褐色砂質土 (10YR3-3) 灰黃褐色ブ

ロック・ロームブロック混。燒土粒・

炭化粒・砂粒やや多。

2 黑褐色砂質土 (10YR2-3) 黑味強。炭

化物・砂粒やや多。燒土粒・

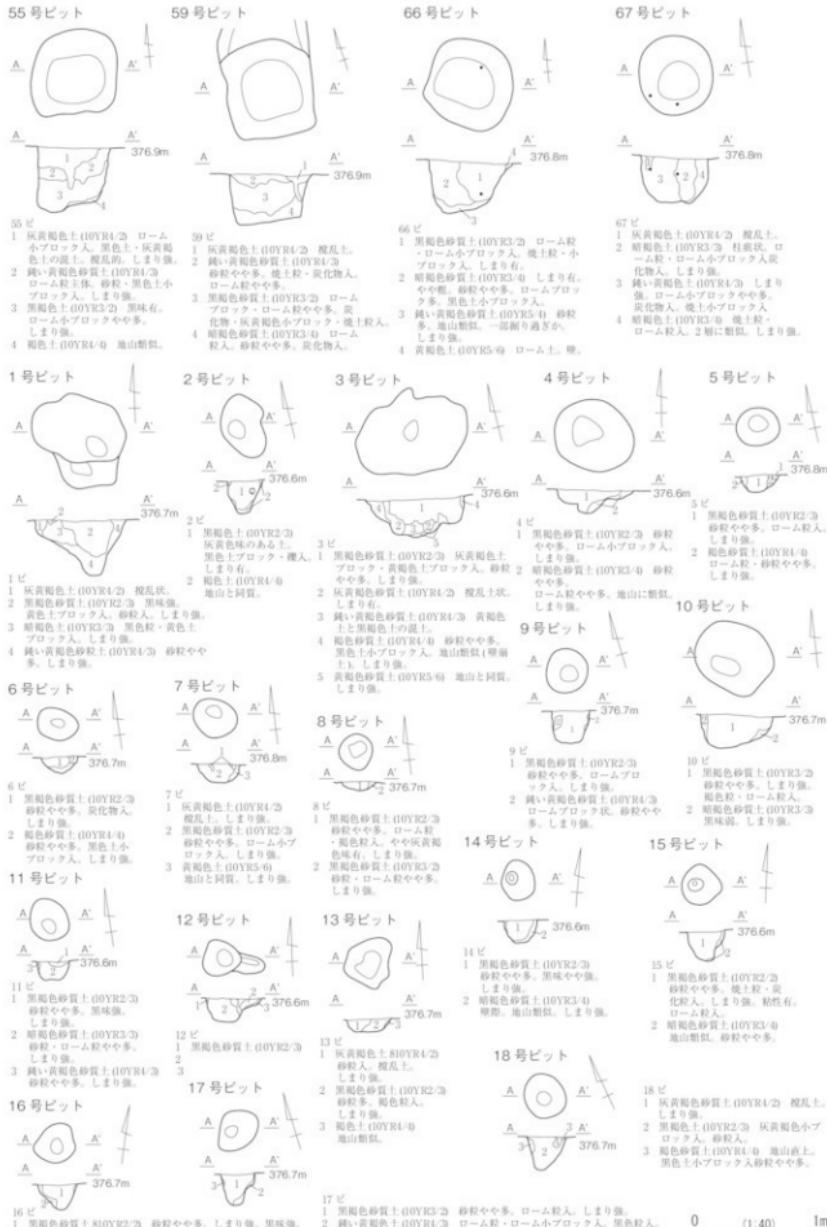
砂粒やや多。しまり有。

3 黄褐色砂質土 (10YR4-4) ローム粒やや多。

4 黄褐色砂質土 (10YR5-6) 燃山と同質。ローム土・燒土粒。

0 (1:40) 1m

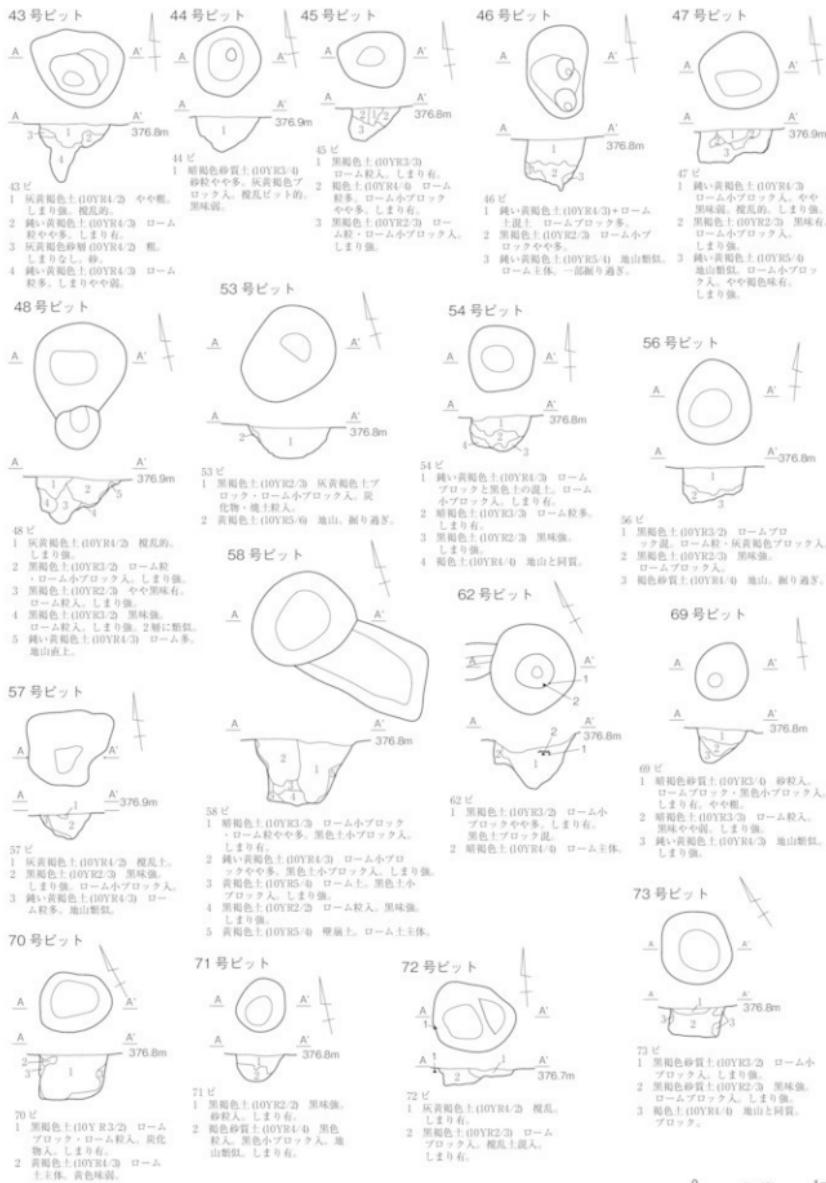
第44図 后畠1号掘立、34・40~42・60号ビット



第45図 后畑1~18・55・59・66・67号ピット



第46図 后畠19~33・35~39号ビット

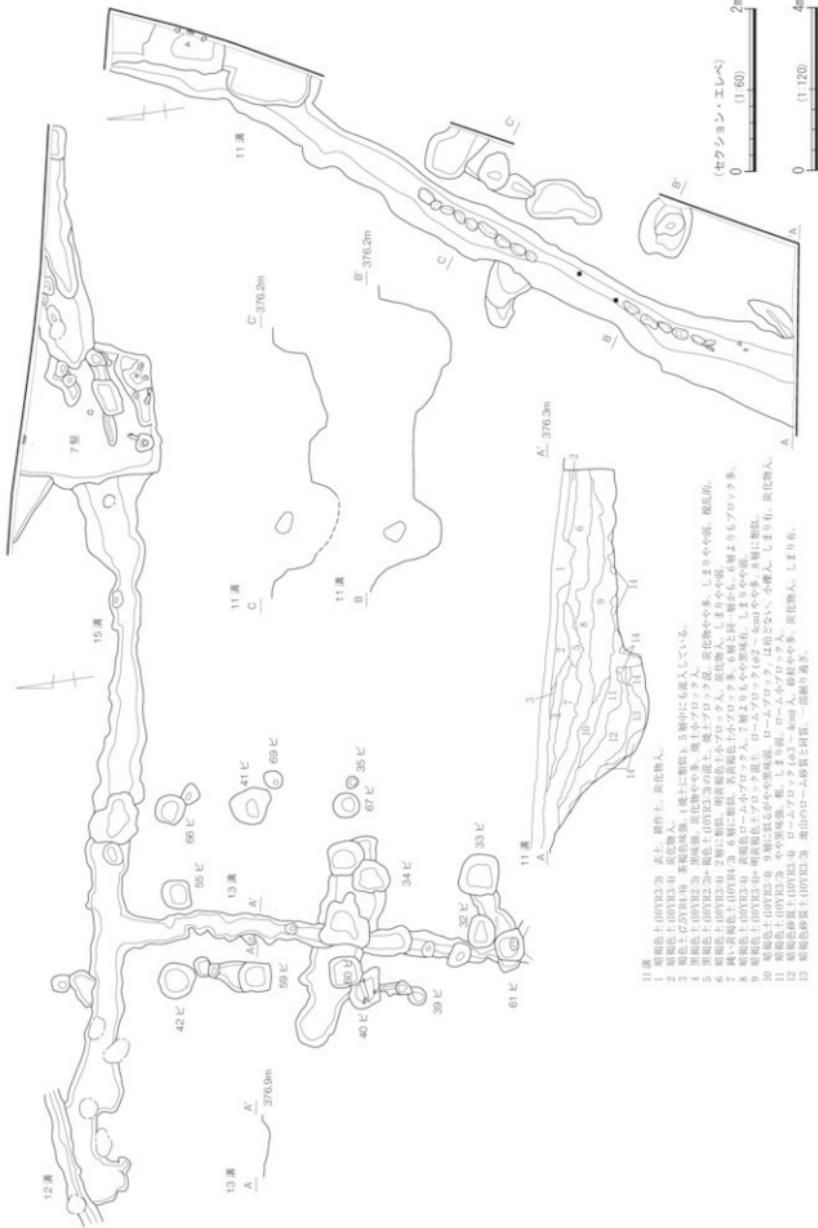


0 (1:40) 1m

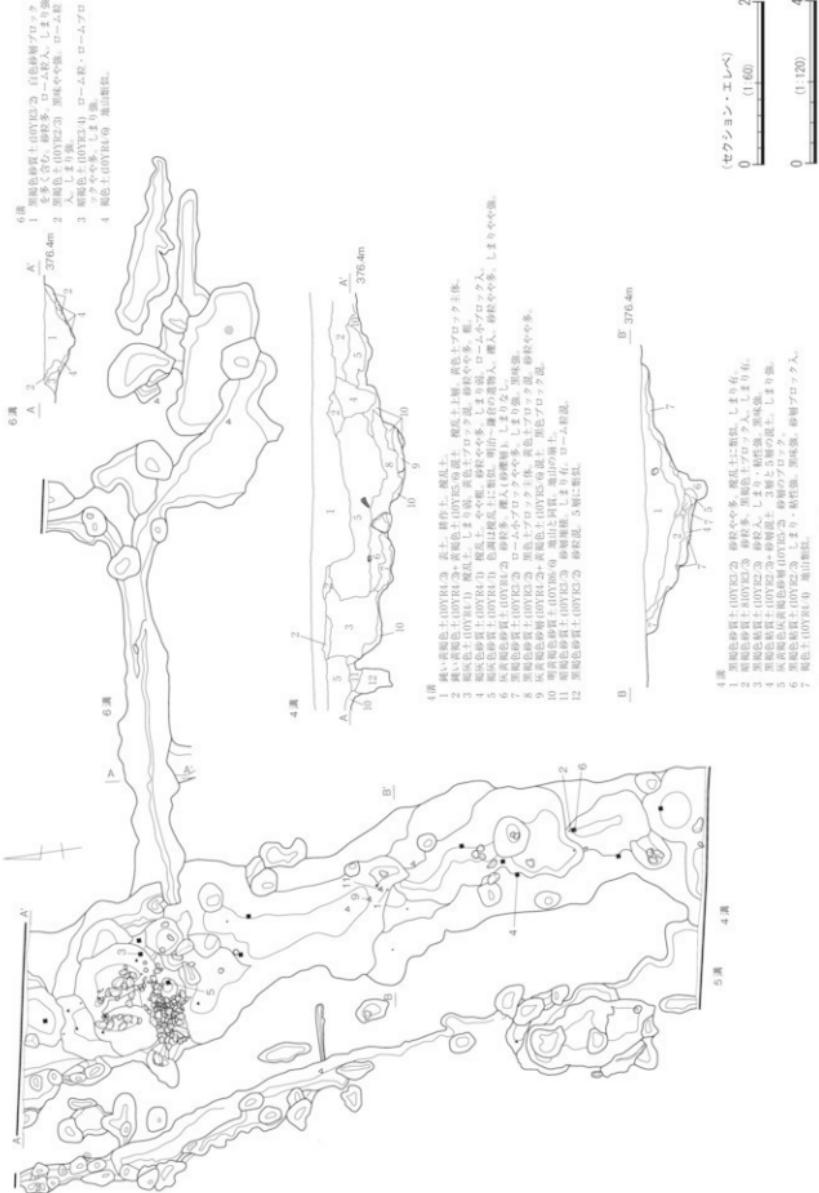
第47図 后畠43~48・53・54・56~58・62・69~73号ビット



第48図 後畠 1・12号溝

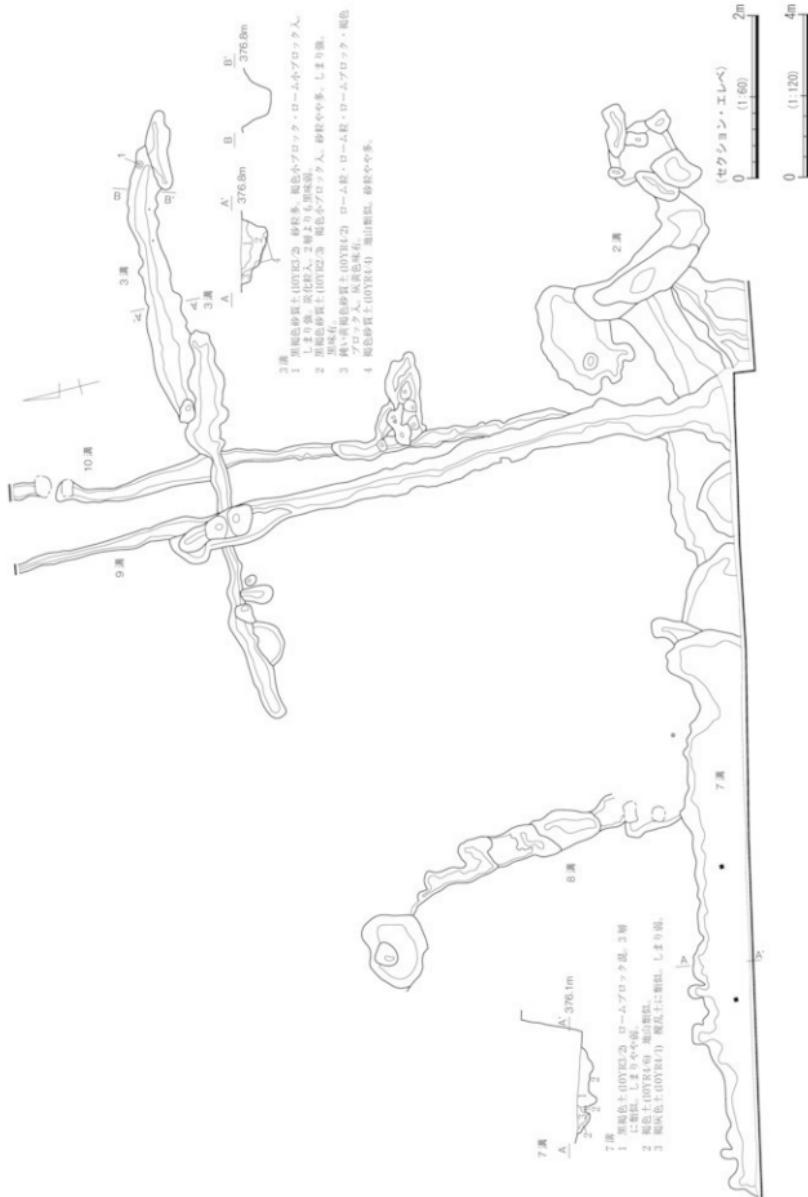


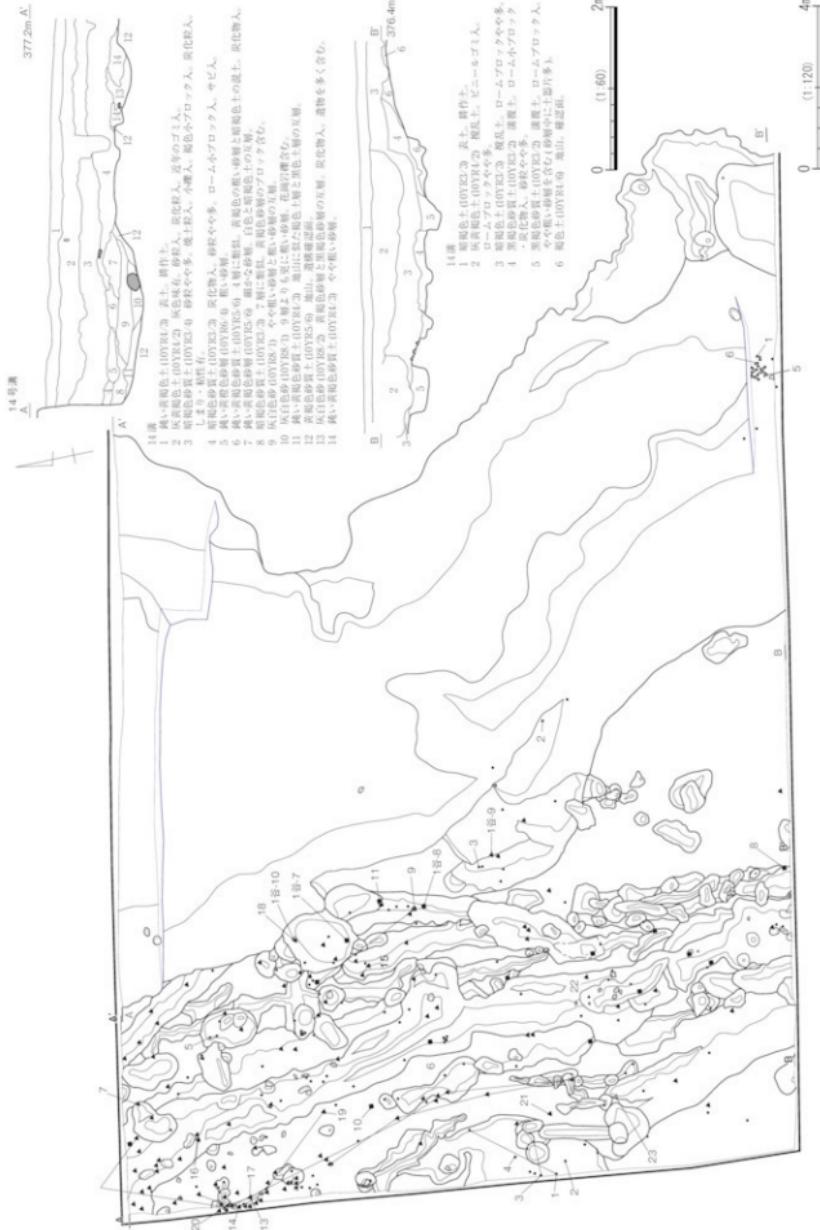
第49図 後畠11~13号溝



第50図 後畠4～6号溝

第51図 后烟2・3・7～10号溝





第52図 后烟14号溝、1号谷



1 森林地帯 + (0)YR12.2 帶上・樹木上  
2 林、森林上・(0)YR12.2 帶上・樹木上  
3 斜面地帯 + (0)YR12.2 帶上・樹木上  
4 草原地帯 + (0)YR12.0 帶上・樹木上  
5 斜面地帯 + (0)YR12.0 帶上・樹木上  
6 斜面地帯 + (0)YR12.2 帶上・樹木上  
7 白色地帯 + (0)YR12.0 帶上・樹木上  
8 白色地帯 + (0)YR12.0 帶上・樹木上  
9 白色地帯 + (0)YR12.0 帶上・樹木上  
10 白色地帯 + (0)YR12.0 帶上・樹木上  
11 黒褐色地帯 + (0)YR2.2 帶上・樹木上  
12 黑褐色地帯 + (0)YR4.2 帶上・樹木上  
13 黑褐色地帯 + (0)YR4.2 帶上・樹木上  
14 K16地帯 + (0)YR7.1 帶上・樹木上  
15 地下水帯 + (0)YR4.0 帶上・樹木上  
16 黑褐色地帯 + (0)YR7.2 帶上・樹木上  
17 削面地帯 + (0)YR7.0 帯上・樹木上

## 1号谷 南壁

1 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帯上・土上  
2 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帯上・土上  
3 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
4 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
5 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
6 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
7 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
8 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
9 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
10 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
11 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
12 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
13 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
14 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
15 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
16 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
17 黄褐色地帯 + (0)YR12.0 帶上・土上  
18 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
19 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
20 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
21 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
22 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
23 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
24 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
25 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
26 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上

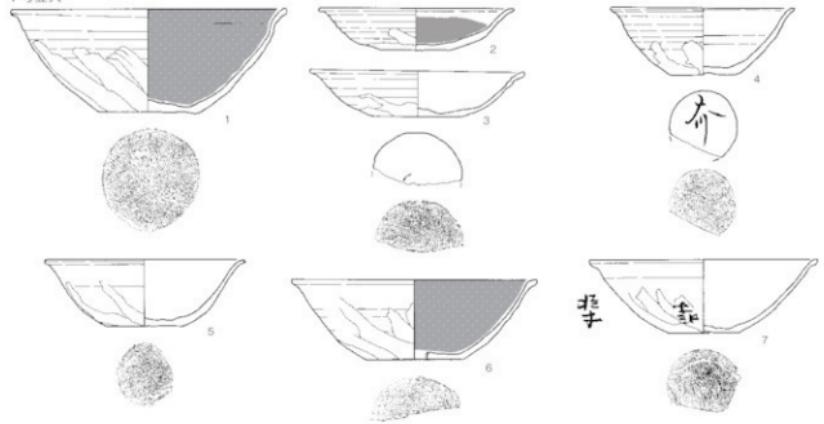


第53回 后畠山谷

0 (1:60)

24 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
25 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
26 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
27 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
28 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
29 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
30 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
31 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
32 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上  
33 黄褐色地帯 + (0)YR12.2 帶上・土上

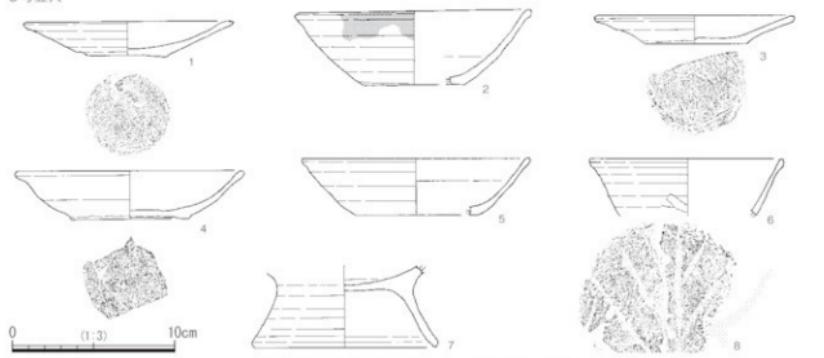
## 1号竪穴



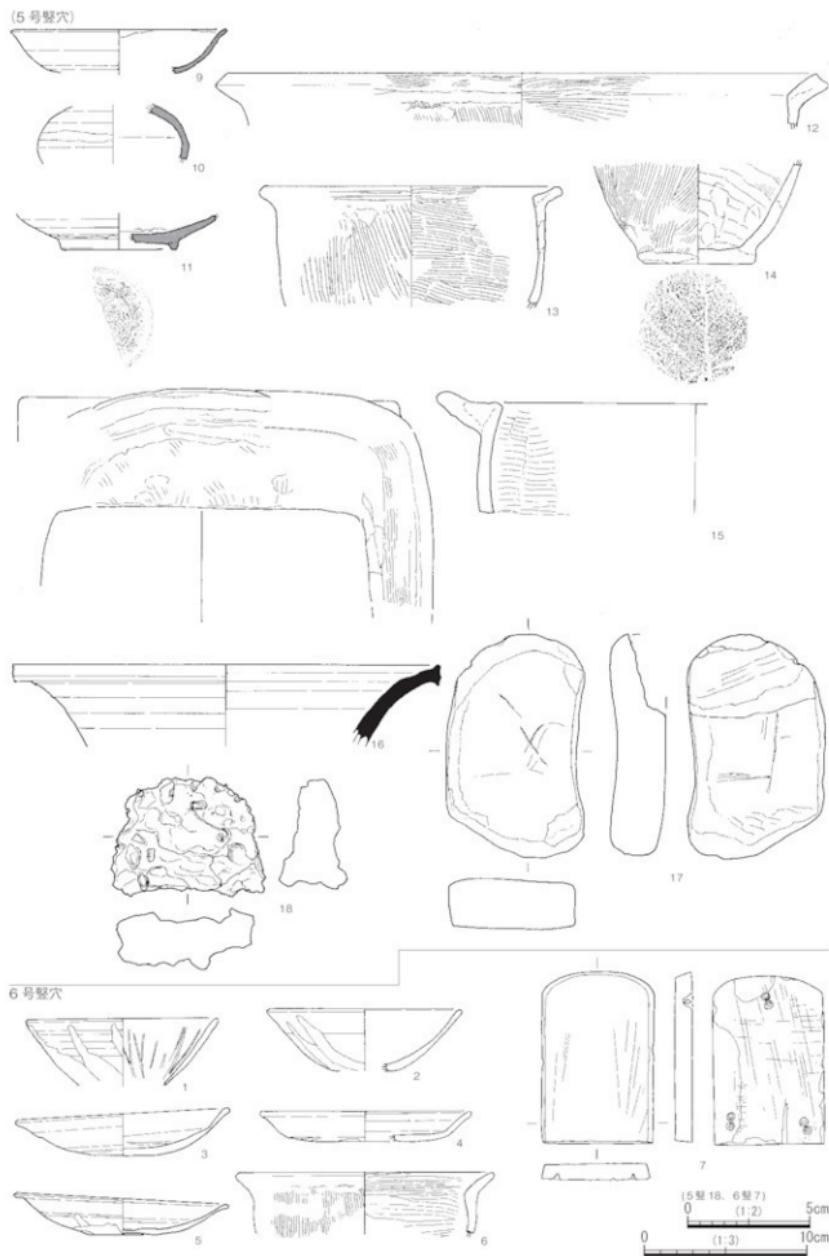
## 2号竪穴



## 4号竪穴

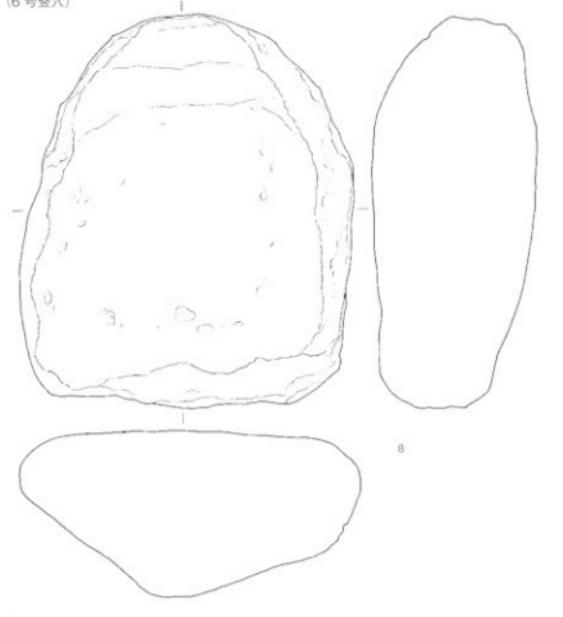


第54図 大木戸1・2・4・5号竪穴 遺物



第55図 大木戸5・6号竪穴 遺物

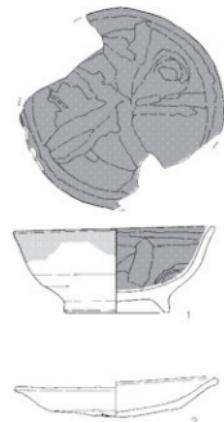
(6号竪穴)



7号竪穴

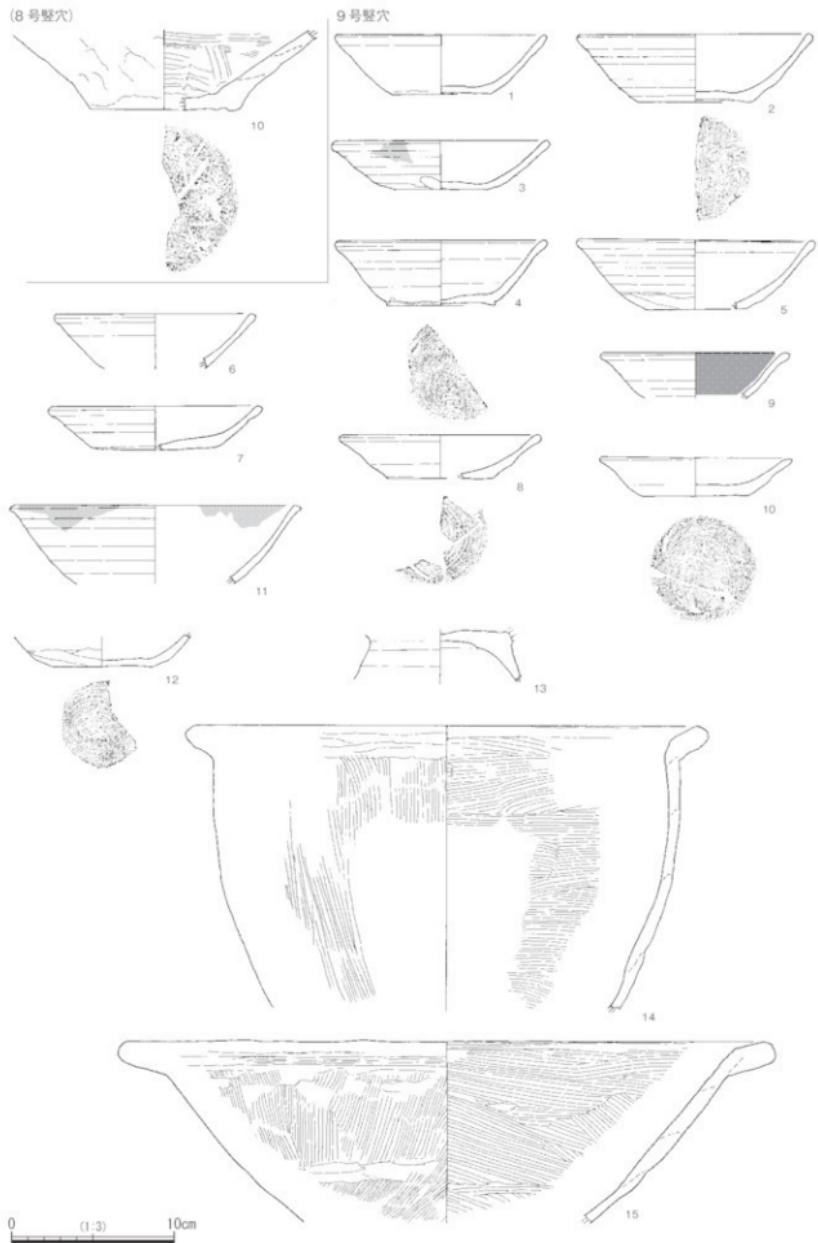


8号竪穴



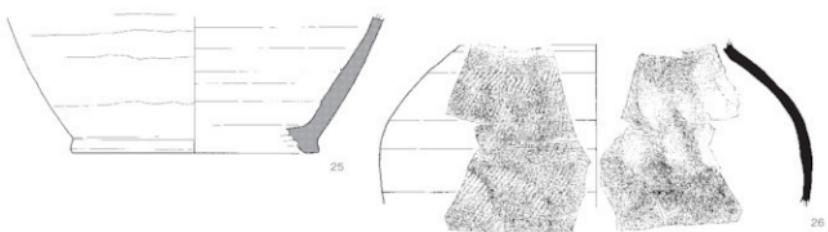
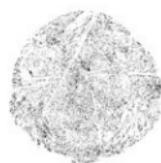
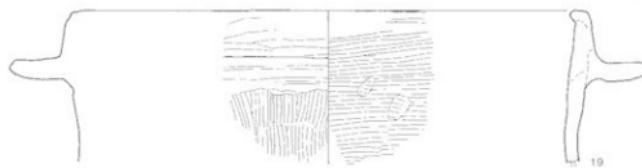
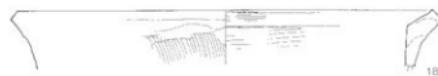
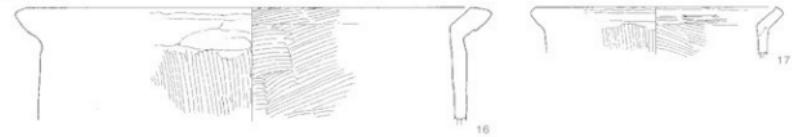
0 (1:3) 10cm

第56図 大木戸6～8号竪穴 遺物



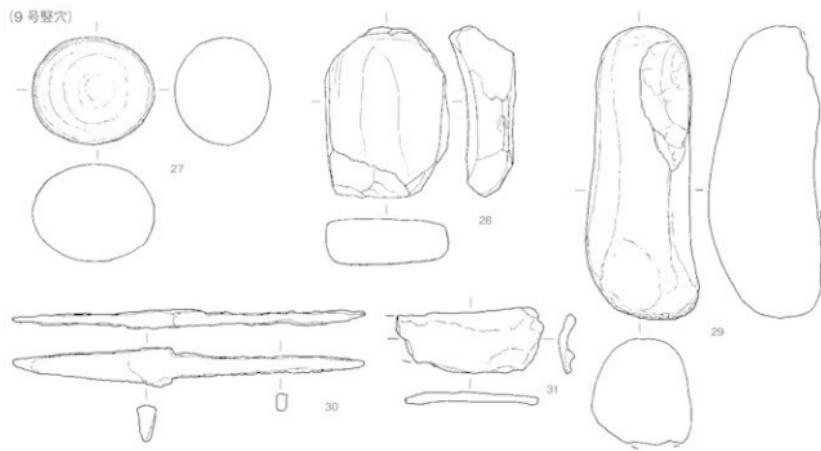
第57図 大木戸8・9号竪穴 遺物

(9号竪穴)

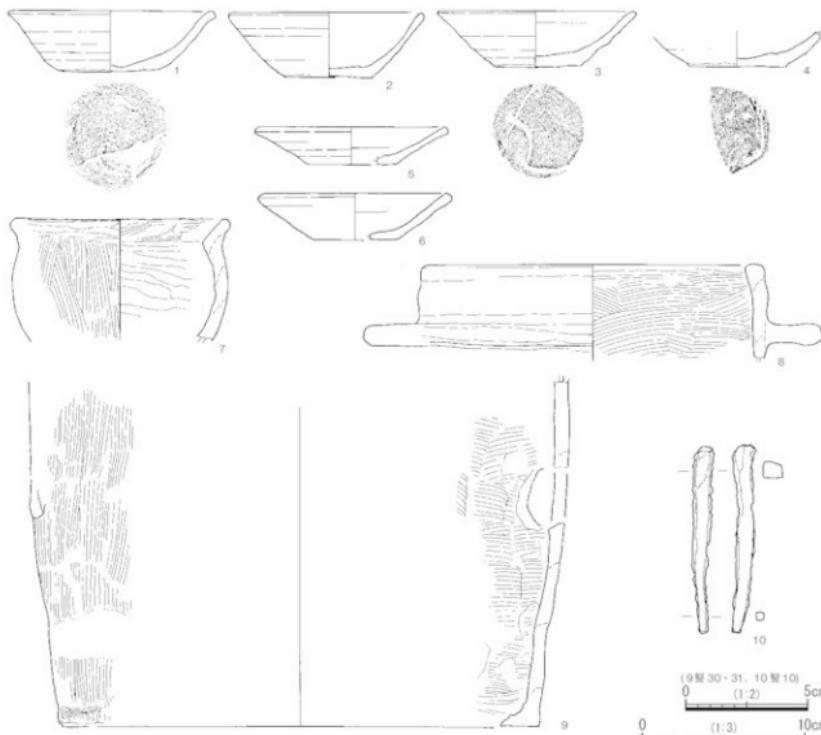


0 (1:3) 10cm

第58図 大木戸9号竪穴 遺物

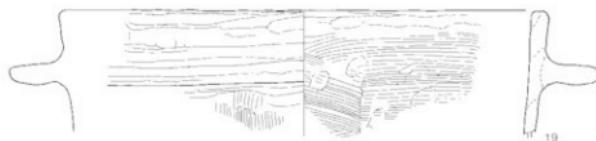
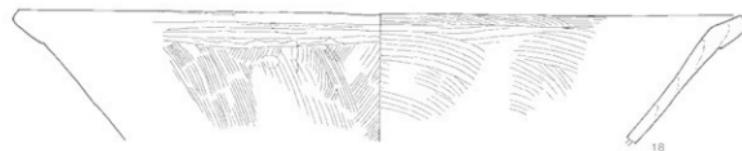


10号竪穴



第59図 大木戸9・10号竪穴 遺物

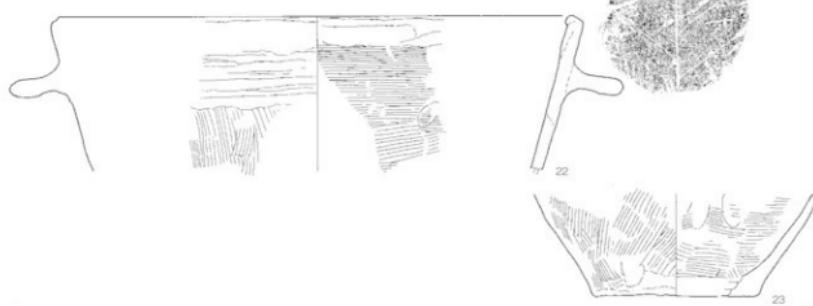
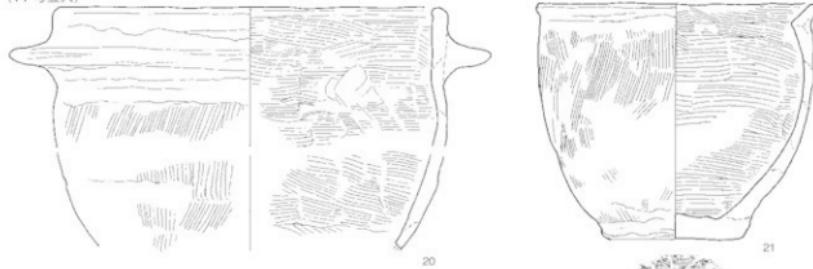
## 11号竪穴



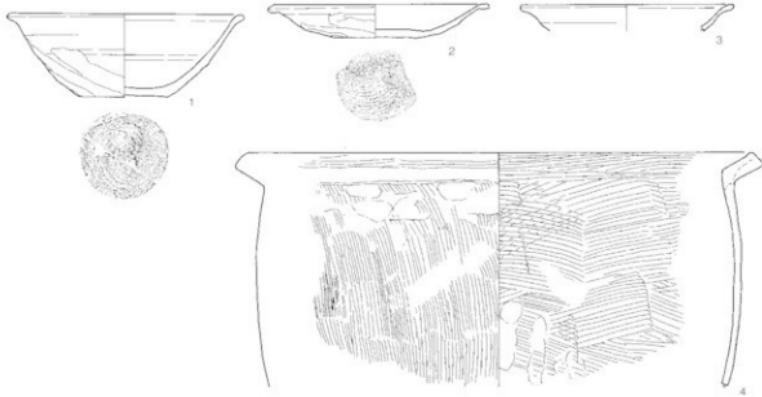
0 (1:3) 10cm

第60図 大木戸11号竪穴 遺物

(11号竪穴)

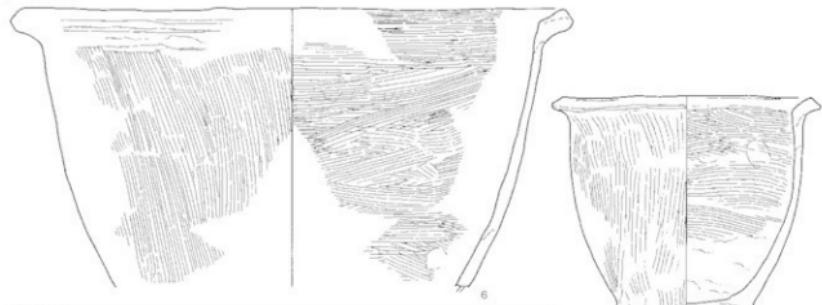


12号竪穴

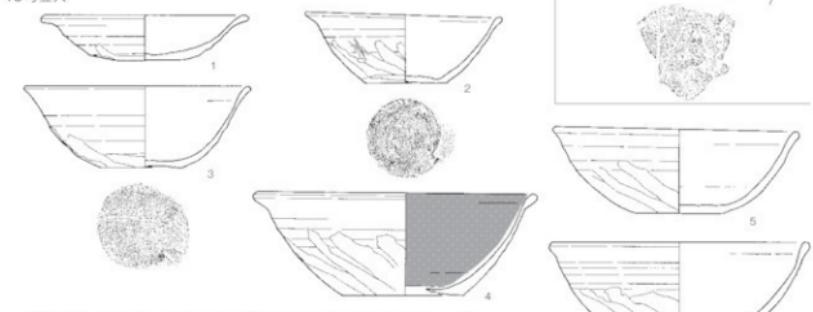


第61図 大木戸11・12号竪穴 遺物

(12号竪穴)



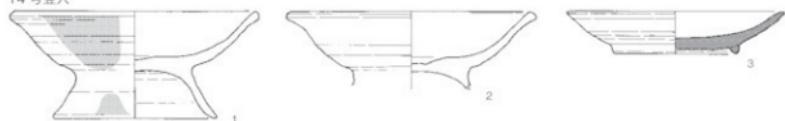
13号竪穴



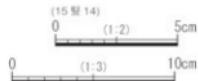
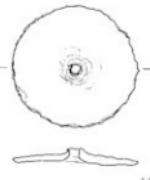
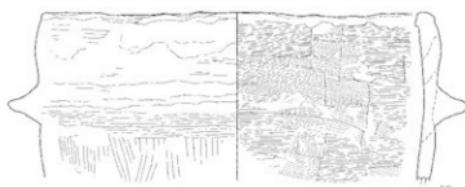
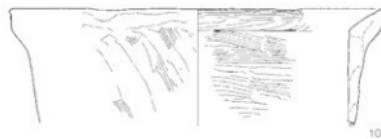
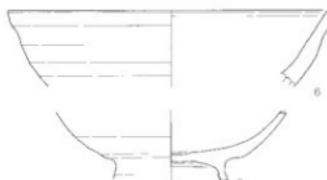
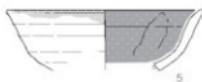
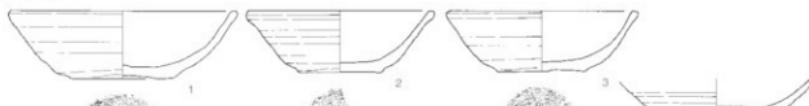
第62図 大木戸12・13号竪穴 遺物



14号竪穴



15号竪穴



第63図 大木戸14・15号竪穴 遺物

## 16号竪穴



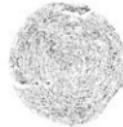
1



2



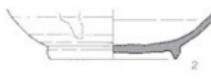
3



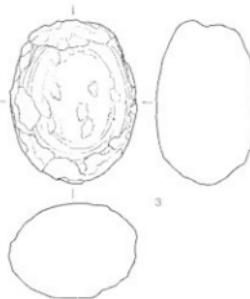
## 17号竪穴



1



2



## 18号竪穴



1



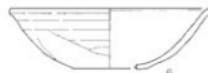
2



3



4



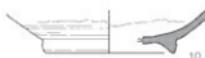
5



6



7



8

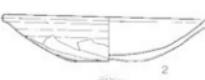


9

## 19号竪穴



1



2



3



4

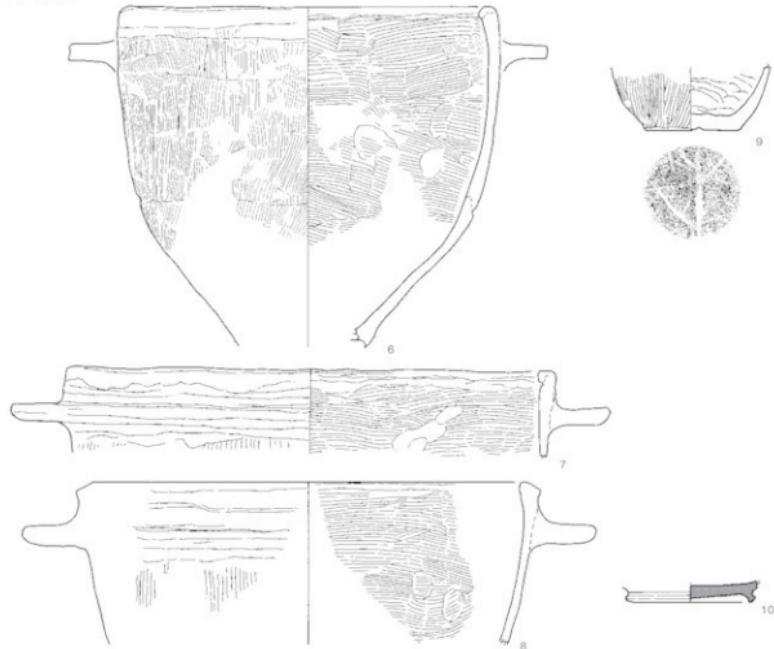


5

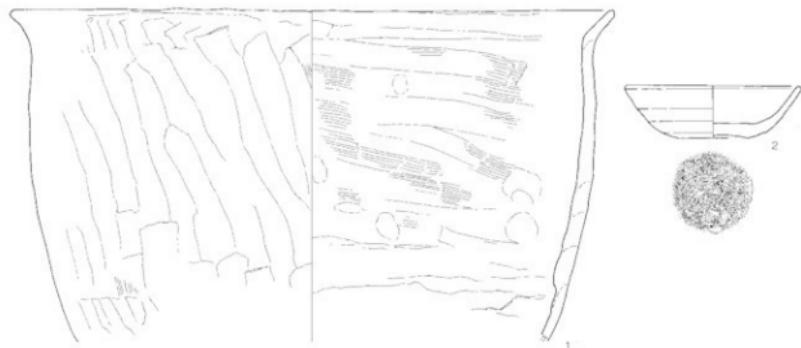


第64図 大木戸16~19号竪穴 遺物

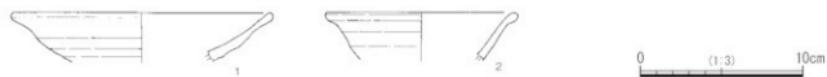
(19号竪穴)



20号竪穴

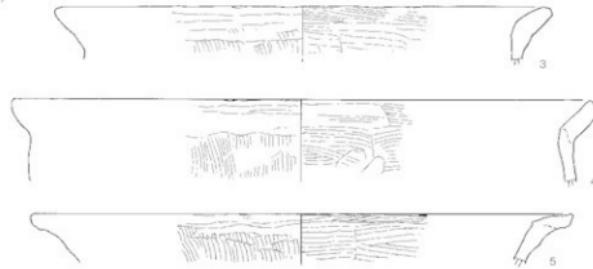


21号竪穴

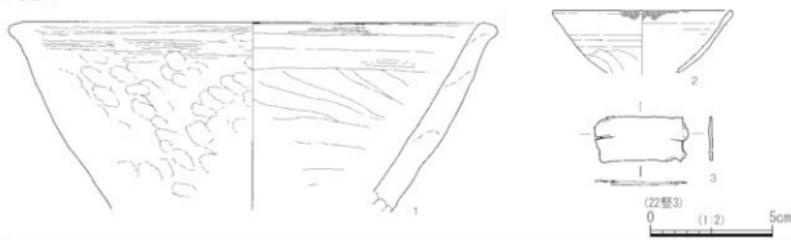


第65図 大木戸19~21号竪穴 遺物

(21号竪穴)



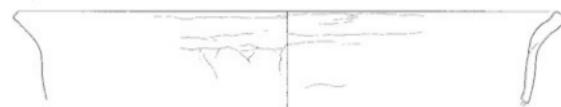
22号竪穴



24号竪穴



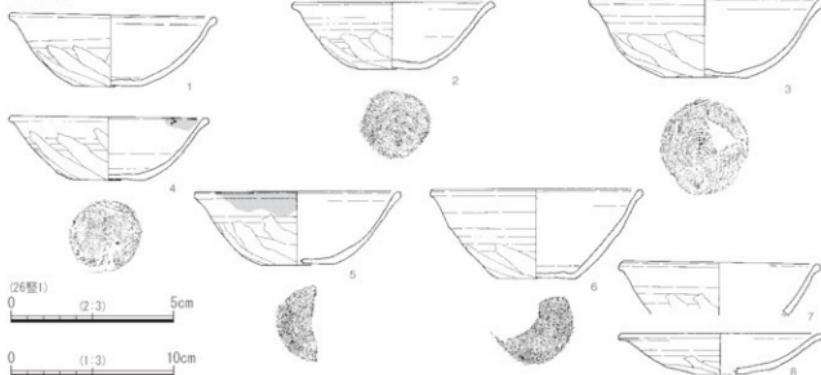
27号竪穴



26号竪穴



28号竪穴

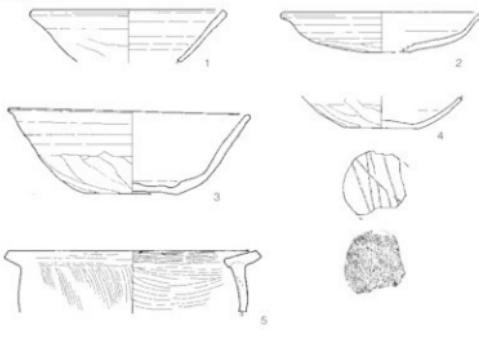


第66図 大木戸21・22・24・26~28号竪穴 遺物

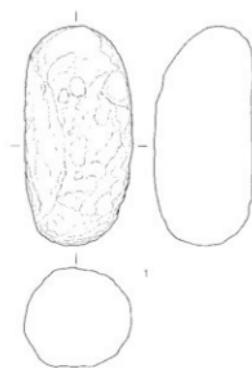
(28号竪穴)



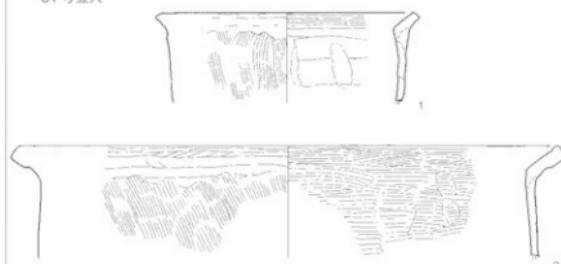
30号竪穴



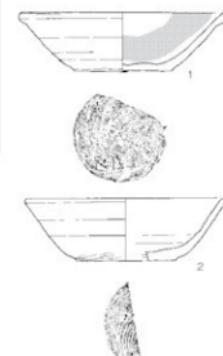
29号竪穴



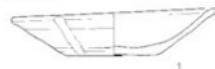
31号竪穴



10号土坑



9号土坑



(28号9)

0 (2,3) 5cm

0 (1,3) 10cm

16号土坑



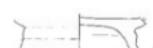
13号ピット



14号ピット

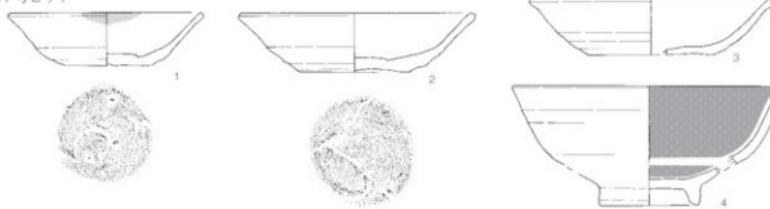


15号ピット

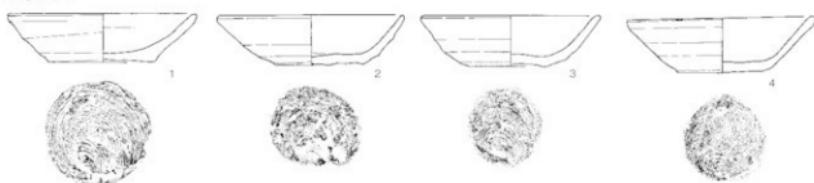


第67図 大木戸28~31号竪穴、9・10・16号土坑、13~15号ピット 遺物

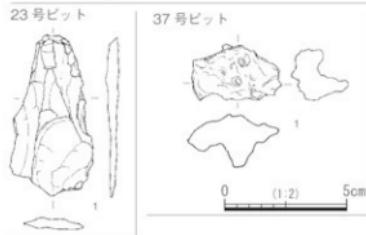
17号ピット



19号ピット



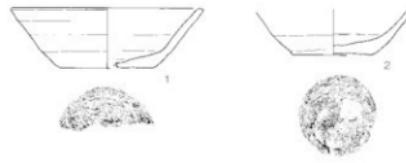
23号ピット



37号ピット



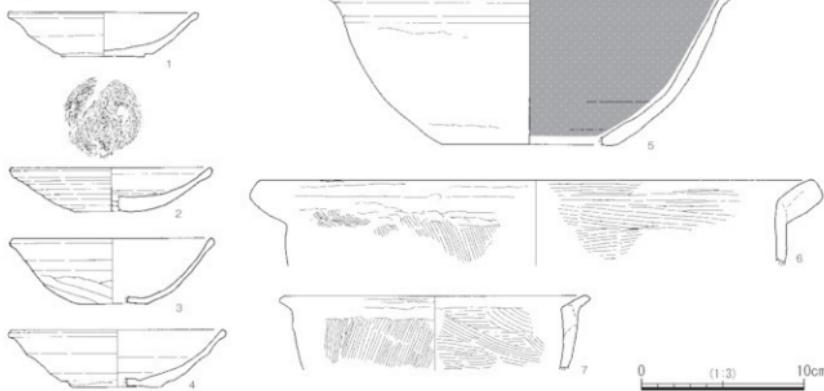
38号ピット



45号ピット

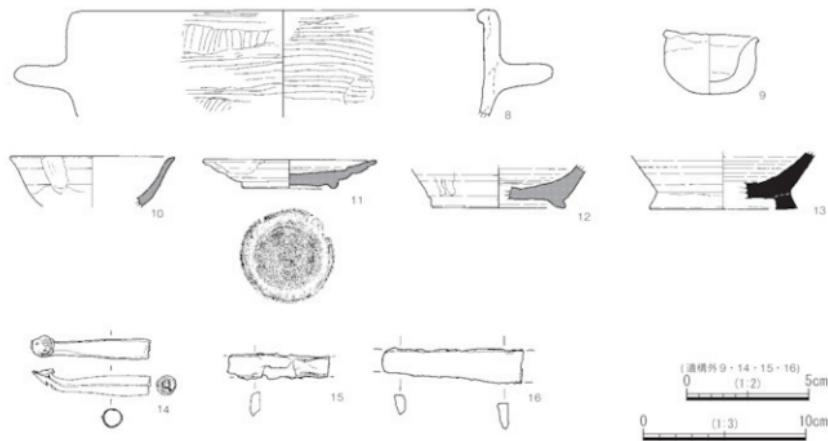


遺構外



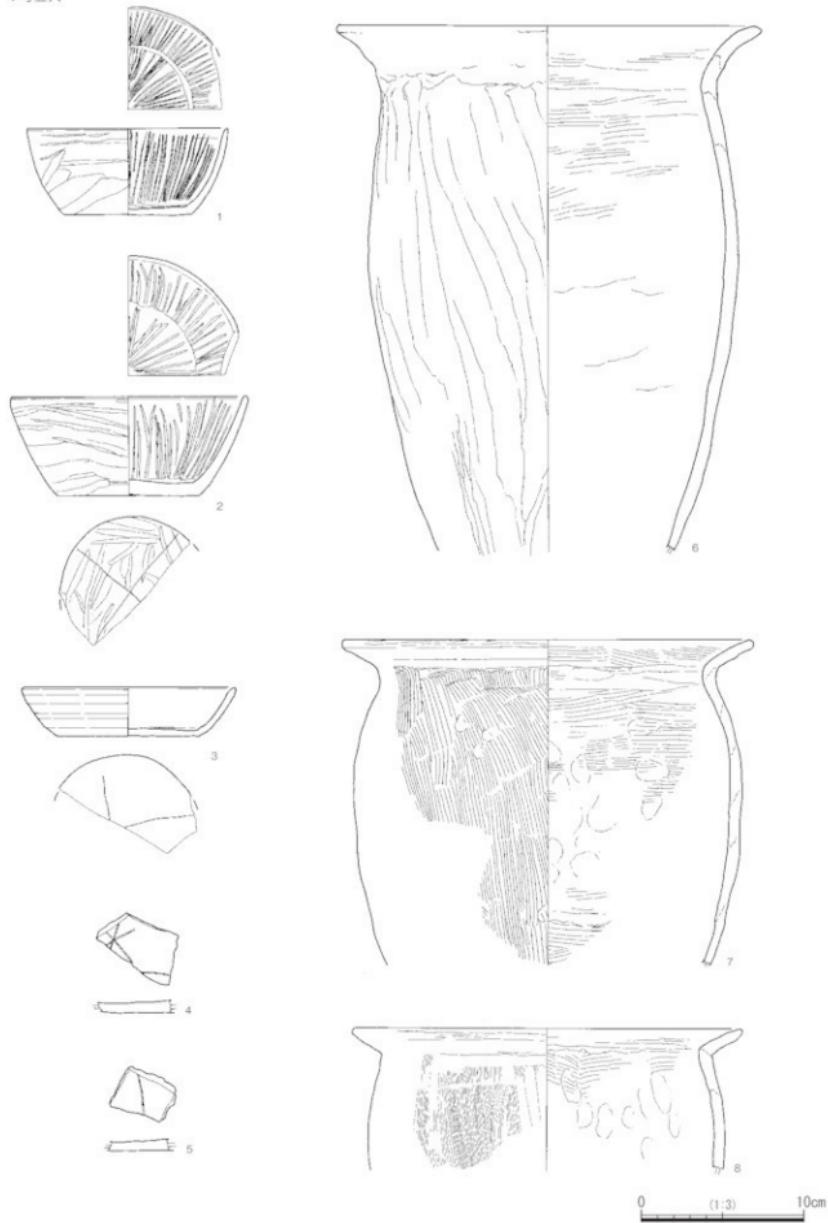
第68図 大木戸 17・19・23・37・38・45号ピット、遺構外 遺物

(遺構外)



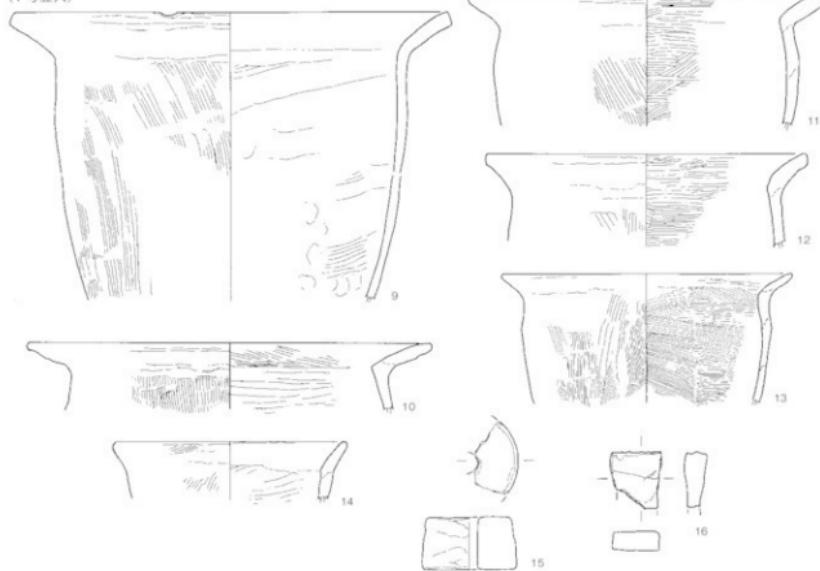
第69図 大木戸遺構外 遺物

1号竪穴

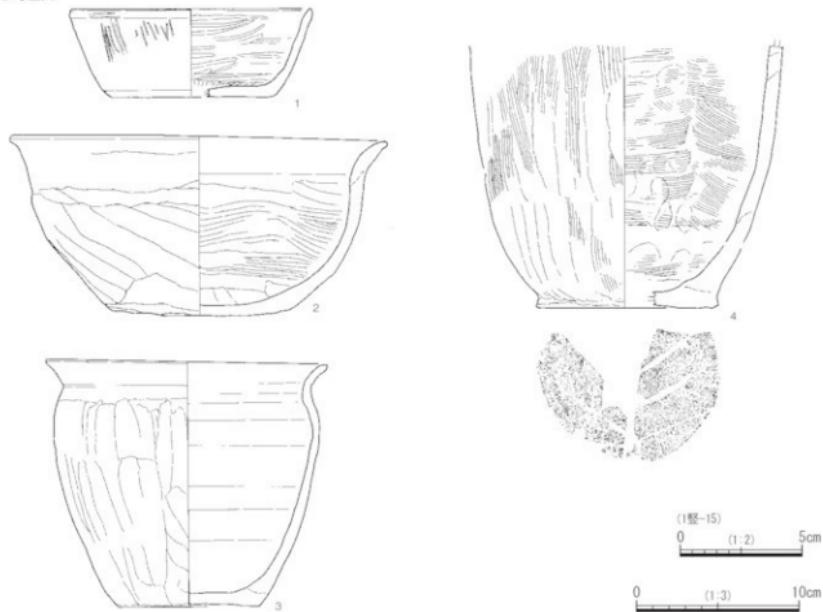


第70図 后畑1号竪穴 遺物

(1号竪穴)



2号竪穴



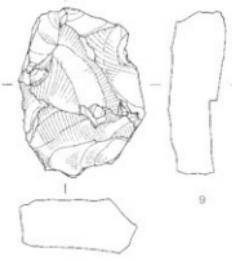
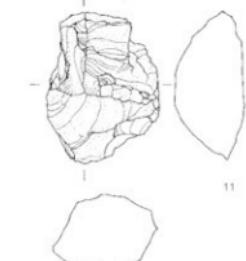
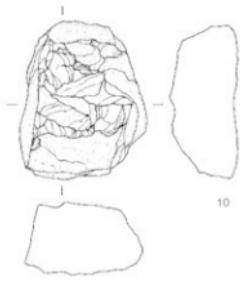
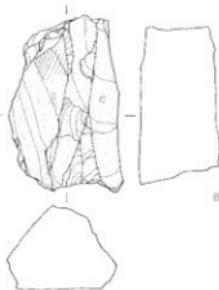
(1号-15)  
0 (1:2) 5cm  
0 (1:3) 10cm

第71図 后畠1・2号竪穴 遺物

3号竪穴



4号竪穴

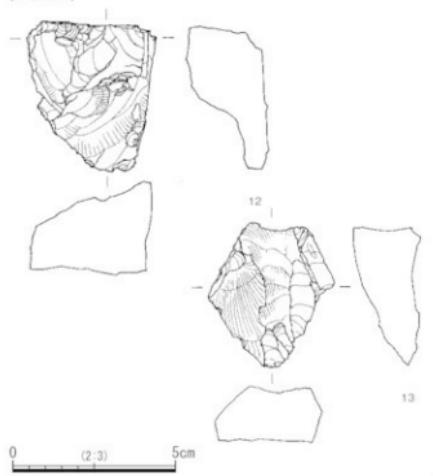


0 (1~3) 10cm

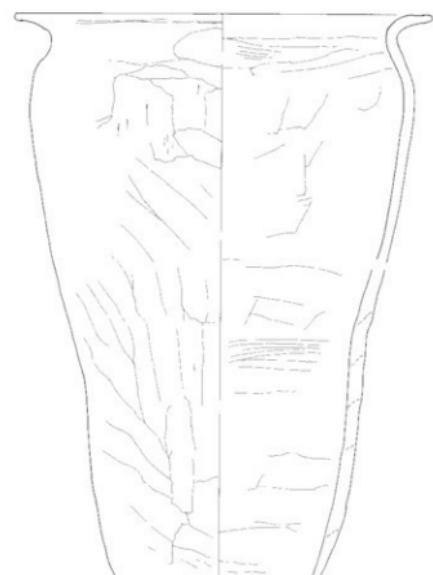
0 (4~7~11) 5cm

第72図 后烟3・4号竪穴 遺物

(4号竪穴)

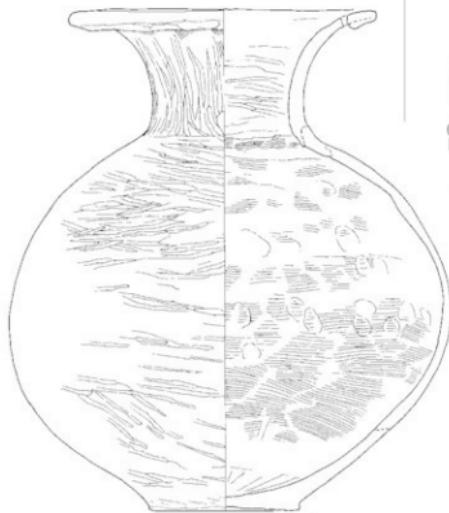
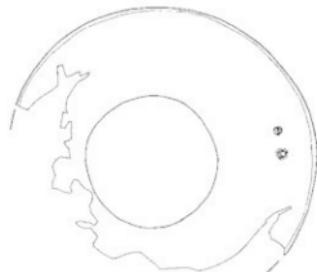
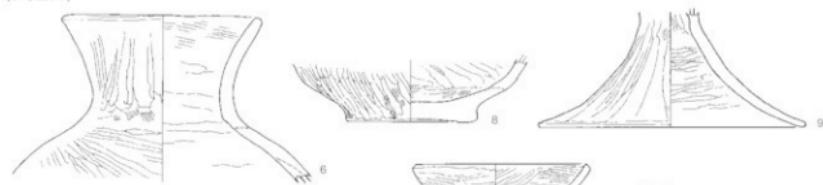


5号竪穴

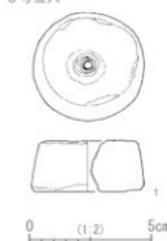


第73図 后塚4・5号竪穴 遺物

(5号竪穴)

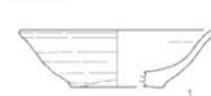


6号竪穴

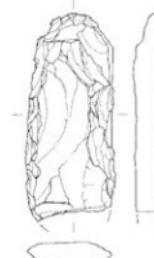
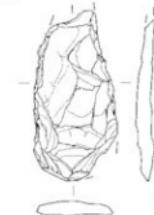


0 (1:2) 5cm

7号竪穴



1号溝

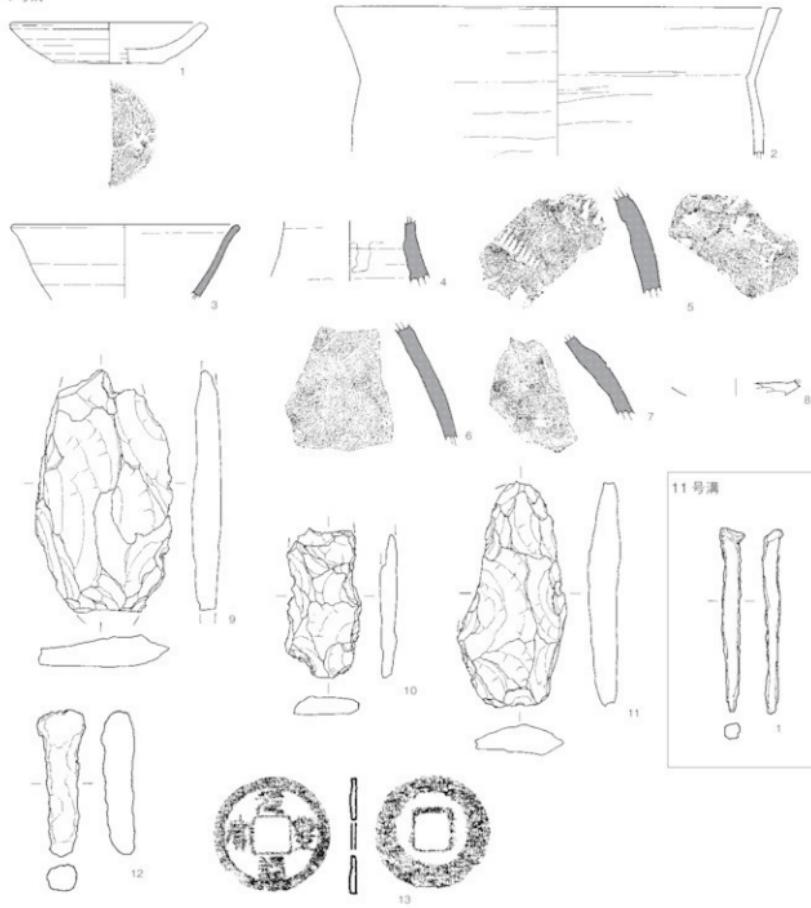


3号溝

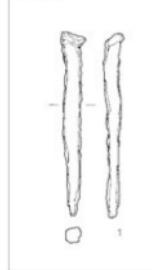


第74図 后烟5~7号竪穴、1・3号溝 遺物

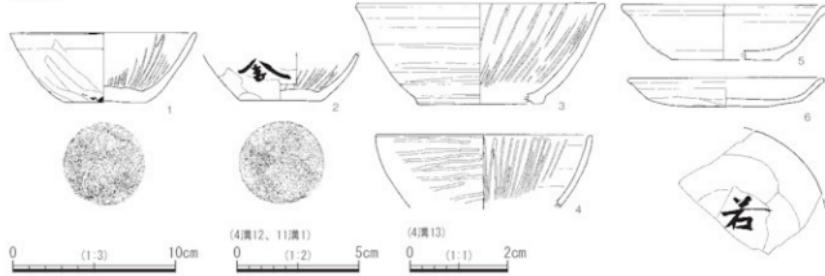
## 4号溝



## 11号溝

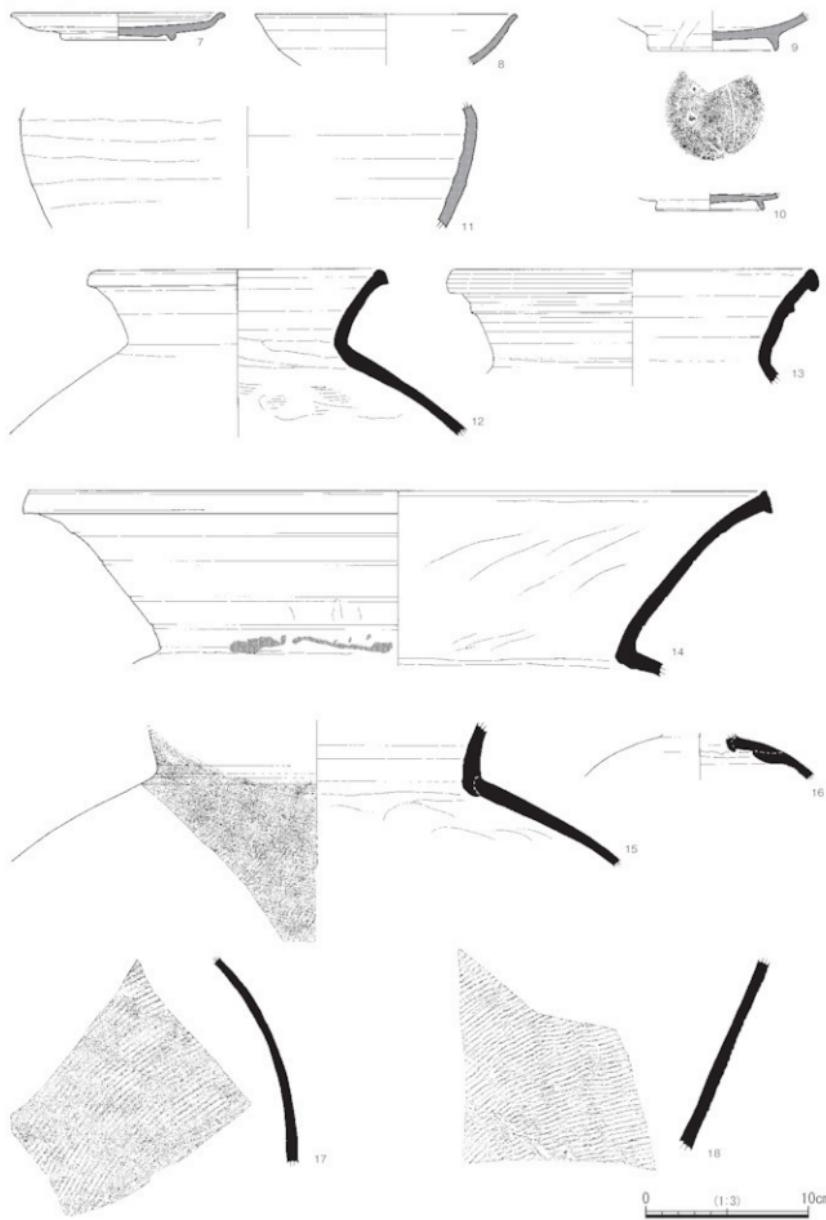


## 14号溝



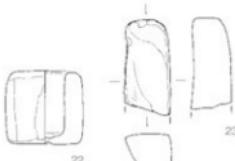
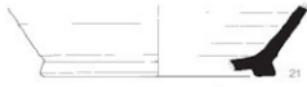
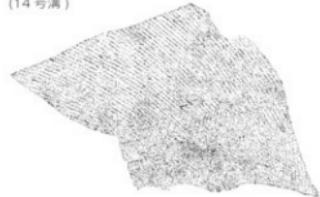
第75図 后烟4・14号溝 遺物

(14号溝)



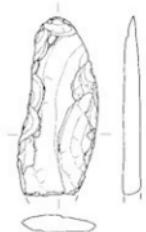
第76図 后烟14号溝 遺物

(14号溝)

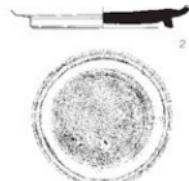
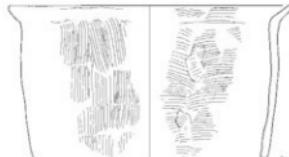


23

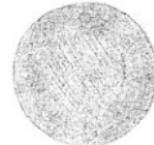
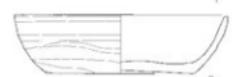
40号ピット



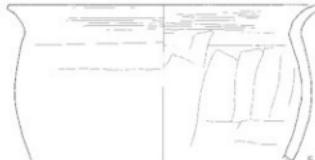
62号ピット



1号谷



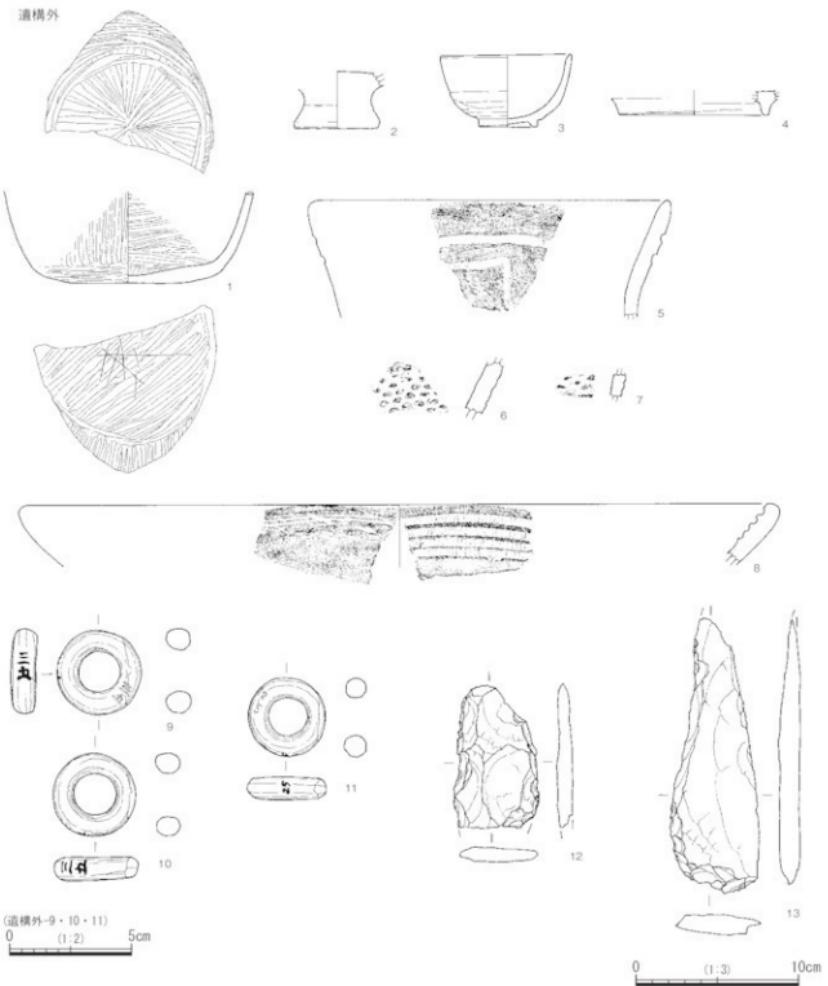
72号ピット



0

(1-3) 10cm

(14溝-22) 0 (1-2) 5cm



第78図 后烟道構外 遺物